

(分類 E 1.1.0.7 )

(票 合 照)

機密第 537 號

昭和 11 年 7 月 1 日

發信者 三田 外務大臣

受信者 風見田園書記官長

件名 堀内外務次官代行一名中央經濟會議  
臨時委員等任命一件

原書ハ M 2.1.0.22 本有並有外各種委員會諸會  
委員役員等任命關係概計 二在リ

記録件名 堀内外務大臣  
臨時委員等任命關係概計

E-0123



分類 E11.07

中央經濟會議議事規則案

昭和二十二年七月七日 決定

- 第一條 會議ノ日時及場所ハ議長之ヲ定ム
- 第二條 議長ハ會議ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス
- 第三條 議長、副議長共ニ事故アルトキハ議長ニ於テ指名シタル議員臨時議長ヲ代理ス
- 第四條 會議ハ議長、副議長及議員（臨時議員ヲ含ム以下同ジ）ヲ合セ其ノ半数以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ
- 第五條 議員ノ議席ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 會議ハ之ヲ秘密トス但シ差支ナシト認ムル事項ニ付テハ議長之ヲ公表セシムルコトアルベシ
- 第七條 發言セントスル者ハ議長ノ許可ヲ受クベシ  
發言ハ議席ニ於テ起立シテ之ヲ爲スベシ
- 第八條 議事ノ整理上必要アルトキハ議長ハ發言ヲ止メ又ハ議事ヲ中止スルコトヲ得
- 第九條 議長ハ審査上必要アリト認ムルトキハ關係各廳職員其ノ他ノ者ヲシテ會議ニ出席シ議案ノ説明ヲ爲サシメ又ハ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得
- 第十條 修正ノ動議ヲ提出セントスル者ハ案ヲ具シ之ヲ議長ニ差出スベシ但シ簡單ナルモノハ口頭ヲ以テ陳述スルコトヲ得
- 第十一條 動議ハ贊成者アルニ非ザレバ議題ト爲スコトヲ得ズ

第十二條 議員建議案ヲ發議セントスルトキハ案ヲ具シ理由ヲ付シ  
贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ差出スベシ

第十三條 議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキ  
ハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十四條 採決ハ起立ニ依ル但シ議決ニ依リ記名投票又ハ無記名投  
票ヲ用フルコトヲ得

第十五條 議長必要ト認ムルトキハ議員ノ中ヨリ特別委員ヲ選定シ  
審査ヲ命ズルコトヲ得

第十六條 特別委員ハ其ノ互選ヲ以テ委員長ヲ置ク  
特別委員長ハ審査ノ經過及結果ヲ會議ニ報告スベシ

特別委員會ニハ本會ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 議事録ハ幹事之ヲ作成スベシ

第十八條 本則ニ規定ナキ事項ハ議長之ヲ決ス

諮問第一號

十一・七・二〇

(中央經濟會議)

我國現下ノ情勢ニ對應スル内外地間ヲ一貫セル綜合的經濟政策及之ニ基ク實施基本案ニ關シ意見ヲ諮フ

説明

現下内外ノ情勢ニ鑑ミ國防竝ニ國民生活ヲ基調トスル諸方策ヲ實施スル爲ニハ内外地ヲ一貫セル見地ノ下ニ經濟力ノ充實發展ニ關スル政策ヲ樹立シ速ニ之ガ實現ヲ圖ルノ要緊切ナルモノアリト認ム依テ諸般ノ事情ヲ綜合攻究シ慎重審議ノ上成案ヲ得テ答申セラレシコトヲ望ム

(日本標準規格B5判)

E-0123

0000



現下内外ノ情勢ニ鑑ミルニ我國トシテハ國際正義ニ則リ東亞安定勢力タルノ國力ヲ培養スルノ要益々急ナルモノアリ、依テ此ノ際急速ニ國防ヲ充實スルト共ニ國民生活ノ基礎ノ確立ヲ圖ルハ將ニ喫緊ノ要務ナリトス。之ガ爲ニハ産業經濟全般ニ亘リ飛躍的發達ヲ遂ゲシメ産業各部門ニ亘リ其ノ生産能力ヲ擴大スルト共ニ又克ク其ノ對外進出力ヲ強化シ、増大セル産業經濟ノ維持ニ支障ナキヲ期スルヲ以テ要點トスベシ。

之ガ具體的施設トシテハ單ニ生産諸部門ノ擴大強化ト其ノ相互間ノ連絡調整ヲ圖ルノミニテハ極メテ不充分ニシテ、各種原材料ノ圓滑ナル供給確保ヲ圖ルコトハ素ヨリ資金ノ調達、技術及労働ノ供給配分、生産品ノ消化等ニ關シテモ充分ナル考慮ト施設トヲ必要トスベシ。而シテ右ノ諸方策ノ攻究及實施ニ當リテハ産業經濟全般ニ亘リ高度ノ整備充實ヲ圖ルヲ以テ目標ノ根幹ト爲スベキハ贅言ヲ要セ

ザル所トス。尙産業經濟ノ發展ハ從來各地方ニ於ケル特殊ノ事情ニ依リ支配セラレタル所尠カラズ、之ガ指導目標等ニ於テモ相互ノ連繫上遺憾ノ點尠シトセザルニ顧ミ、此ノ際特ニ全體の見地ニ立チ之ガ統合調整ニ意ヲ用フルノ要アリ。

政府ガ幾ニ我國經濟力ノ充實發展ニ關シ生産力ノ擴充、國際收支ノ適合及物資供給ノ調整ノ三點ヲ主眼トスル諸方策ヲ實施スルコトノ極メテ緊切ナルコトヲ闡明シタルハ、敍上ノ見地ニ鑑ミ我國産業經濟ノ嚮フベキ方向ニ付大綱ヲ示シタルモノナルモ、之ガ實施ニ付テハ更ニ日滿兩國ノ經濟的諸條件ヲ檢討シ、時勢ノ要求スル所ヲ省察スルト共ニ帝國經濟ノ恒久的發展ノ基礎タラシムベキ點ニ深ク懸ヲ致シ、速ニ經濟諸政策ノ根幹ヲ決定シ、更ニ之ニ基ク實施基本案ヲ決定スルノ要アリト認ム。依テ本會議ニ於テハ右諸政策ノ樹立ト之ガ實施ニ關シ必要ナル事項ニ付慎重審議ノ上意見ヲ取纏ムル運ト致シタシ。

中央經濟會議官制

(昭和十二年七月一日  
勅令第二百九十五號)

中央經濟會議官制

第一條 中央經濟會議ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジテ左ノ事項ヲ調査審議ス

一 内外地間ノ綜合的經濟政策

二 前號ノ政策ニ基ク實施基本案

中央經濟會議ハ前項各號ノ事項ニ關シ内閣總理大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 中央經濟會議ハ議長一人、副議長一人及議員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ議員ノ外必要アルトキハ臨時議員ヲ置クコトヲ得

第三條 議長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副議長ハ企畫廳總裁ヲ以テ之ニ充ツ

議員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

臨時議員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 議長ハ會務ヲ總理ス

副議長ハ議長ヲ輔佐シ議長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 中央經濟會議ニ幹事長及幹事ヲ置ク

幹事長ハ企畫廳次長ヲ以テ之ニ充ツ議長及副議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

幹事ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ上

司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

企畫廳常任參與ハ幹事タルノ地位ヲ有ス

第六條 中央經濟會議ニ書記ヲ置ク

書記ハ内閣ニ於テ之ヲ命ズ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(日本標準規格B5判)

中央經濟會議名簿

(昭和十二年七月一日現在)

企畫廳 (九三〇自一八二至一八六)

議長

内閣總理大臣 公爵近衛文麿

〔總町、永田二、二五〇七〕

副議長

企畫廳總裁 廣田弘毅

〔東京、原宿二、一七〇(舊三六六八)〕

議員

從四位勳一等 八田嘉明

〔本郷、上富士前、七三(大八五四五〇)〕

從四位勳三等 有賀光豊

〔東京、北澤三、八五五、一(四三〇五〇五)〕

正四位勳四等 伯爵酒井忠正

〔京都府、松原河内四九〇六〕

津田信吾

〔小石川、原、二(大八五七九〇)〕

從三位勳二等 津島壽一

〔兵庫縣、武庫郡、種田村、戸田、戸屋三三四八〕

正三位勳三等 石黒忠篤

〔牛込、揚場、一七、牛込、四九(九三三〇二二)〕

勳三等 藤原銀次郎

〔芝、白金、今里、二二(高四一五三八)〕

正四位勳四等 男爵大藏公望

〔麹町、内幸、一、三、大藏ビル内大藏研究室(舊三三九九)〕

正六位勳四等 松本健次郎

〔福岡縣、唐津市、中原一〇七、麻布、本村、一三三(三三六六五)〕

從六位勳四等 野口遼

〔朝鮮、咸鏡南道、咸州郡、興南區、湖南里一、渡谷、原宿、一、四三(三三三九二六、二九二七)〕

正六位 兒玉謙次

〔麹町、九段、二、二五(九三〇一四七四)〕

從六位 安川雄之助

〔小石川、關口、五、五(五二七〇四)〕

同 松江春次

〔東京、赤坂、三、五(五五五六)〕

同 鮎川義介

〔本郷、富士前、一、一(大八五〇三三)〕

加藤恭平

〔南洋、興安、株式會社、自二一九一至二一九七〕

村田省藏

〔品川、北品川、六、三五〇(高四五九一四)〕

古田俊之助

〔東京、赤坂、三、五(五五五六)〕

小林一三

〔兵庫縣、西宮市、櫻井、江橋北詰(在及本社東京販賣店、自三七一至三八〇)〕

臨時議員

〔大阪府、豐前郡、池田町、一九六七(池田五五)〕

内閣書記官長 風見章

法制局長官 瀧正雄

資源局長官 松井春生

對滿事務局次長 青木一男

外務次官 堀内謙介

内務次官 廣瀬久忠

大藏次官 石渡莊太郎

陸軍次官 梅津美治郎

海軍次官 山本五十六

農林次官 戸田保忠

商工次官 村瀬直養

遞信次官 平澤要

鐵道次官 喜安健次郎

【脚岡、永田、二ノ官舎(録)五〇九、一〇二八  
品川、東大崎、四ノ官舎(録)二五〇】

【麻布、一〇六番(録)二〇〇】

【法務局(録)九〇八、九〇九】

【麻布、一七六番(録)二五一九】

【對滿事務局(録)〇〇〇五、〇〇〇六、二七〇】

【目黒、下目黒、四ノ官舎(録)三三七、三三八】

【外務省(録)自五六一一至五六四〇】

【農谷、結岡、一六番(録)七三三七】

【小石川、堀籠、二五番(録)九〇三】

【大藏省(録)自二二一至二二七】

【脚岡、永田、一ノ官舎(録)二五五六】

【陸軍省(録)自五八〇至五八三九】

【赤坂、榎坂、一七番(録)二二九〇】

【海軍省(録)自三一一一至三一九】

【農林省(録)自一五一至一五九】

【小石川、林、三六番(録)四六〇九】

【本郷、駒込、一六番(録)五五六〇】

【商工省(録)自五九五一至五九六〇】

【遞信省(録)自〇四五一至〇四七九】

【品川、大井、三〇番(録)三〇三三】

【鐵道省(録)自一五五一至一五六〇】

幹事長

拓務次官 萩原彦三

朝鮮總督府政務總監 大野綠一郎

臺灣總督府總務長官 森岡二郎

企畫廳次長 井野碩哉

企畫廳調査官 小金義照

同 原口武夫

同 田中長茂

外務省通商局長 松嶋鹿夫

大藏省理財局長 關原忠三

陸軍少將 後宮淳

海軍中將 豊田副武

【牛込、市谷、仲ノ、三七番(録)五七三七】

【拓務省(録)自五一一一至五一一九】

【京城府大和町官舎(本局五〇九)】

【北多摩郡武蔵野町官舎(本局四七三)】

【朝鮮總督府東京事務所(録)四二七、四二八、四二九、四三〇、四三一、四三二、四三三、四三四、四三五、四三六、四三七、四三八、四三九、四四〇、四四一、四四二、四四三、四四四、四四五、四四六、四四七、四四八、四四九、四五〇、四五二、四五三、四五四、四五五、四五七、四五八、四五九、五五〇、五五一、五五二、五五三、五五四、五五五、五五七、五五八、五五九、五六〇】

【農谷、青葉、三番(録)二二二六】

【企畫廳(録)自二八一至二八六】

【農谷、原、九ノ一〇番(録)四四四〇、六〇】

【牛込、納戸、二五番(録)一八九〇】

【世田谷、下代田、七六番(録)六二二〇】

【品川、五反田、六ノ一九番(録)四四一六、一九】

【外務省(録)自五一一一至五一一九】

【小石川、大塚、四ノ一六番(録)〇〇六一】

【大藏省(録)自二二一至二二七】

【牛込、横寺、六四番(録)三三七七】

【陸軍省(録)自五八〇至五八三九】

【世田谷、下馬、三ノ五一八番(録)三三八〇、七】

【海軍省(録)自三一一一至三一九】

(企畫廳常任參與)

農林省農務局長 小濱 八彌

商工省工務局長 小島 新一

商工省鑛山局長 東 榮 二

拓務省殖産局長 植場 鐵 三

朝鮮總督府殖産局長 穂積 眞六郎

臺灣總督府殖産局長 田端 幸三郎

法制局參事官 樋 貝 詮 三

同 森 山 銳 一

資源局事務官 植村 甲午郎

情報委員會事務官 横溝 光暉

大藏省主計局長 谷 口 恒 二

中野、住吉、四四(四三〇四四四七)

〔農林省〕九〇八自一五二至一五九九

〔商工省〕自五九五至五九六〇

品川、五反田六、一九一(高四五六一〇)

〔拓務省〕自五二二至五二九九

〔朝鮮總督府〕自四二七八、四二七九

〔臺灣總督府〕自一〇六〇、四二五七七、四二五八

目黒、下目黒四、九〇八(高四二〇二)

〔法制局〕九〇八、九〇九、九一〇

荏原、中延、一〇七五(高四二二〇)

〔資源局〕九〇八、九〇九、九一〇

〔情報委員會〕自六六七一至六六七三

(日本標準規格 B5 判)

E-0123



中央經濟會議配付參考資料目錄

( 111・7・110 )

E-0123



内務省關係

- 一、地方公共團體歳入出内詳表
- 一、地方債發行高、償還高、現在高表

大藏省關係

- 一、一般會計歳入歳出累年比較
- 一、特別會計歳入歳出累年比較
- 一、既定繼續費年割
- 一、國債發行高、償還高、現在高
- 一、日本銀行國債引受高、賣却高、買入高
- 一、國債所有者別調
- 一、紙幣、銀行券及補助貨流通高
- 一、全國手形交換所手形交換高
- 一、日本銀行金利

市中金利

- 一、貿易外收支明細
- 一、外國爲替相場
- 一、日本銀行兌換券發行準備高
- 一、日本銀行調卸小賣物價指數
- 一、郵便貯金及銀行定期預金現在高
- 一、最近十ヶ年ニ於ケル本邦對外貿易額表

陸軍省關係

- 一、帝國及列國ノ陸軍
- 一、陸軍軍備ノ充實ト其ノ精神

海軍省關係

- 一、外南洋資源ニ付テ



農林省關係

- 一、第十二次農林省統計表（昭和十年）

商工省關係

- 一、最近五ヶ年間に於ケル重要工礦產物ノ生産額及輸出入額
- 一、最近ニ於ケル重要工、鑛業ノ投下資本額
- 一、最近ニ於ケル民間ノ新設又ハ擴張計畫資本額
- 一、最近ニ於ケル重要工、鑛業ノ使用労働者数
- 一、最近ニ於ケル卸、小賣物價ノ變動狀況
- 一、本邦外國貿易要覽

逓信省關係

- 一、電氣事業概況
- 一、海軍摘要

航空要覽

- 一、電話擴張改良計畫概要
- 一、日滿間定期航空施設概要
- 一、日滿連絡電話施設計畫概要

鐵道省關係

- 一、鐵道要覽（昭和十年度）
- 一、鐵道省年報（、、）
- 一、日本全國鐵道路線圖

拓務省關係

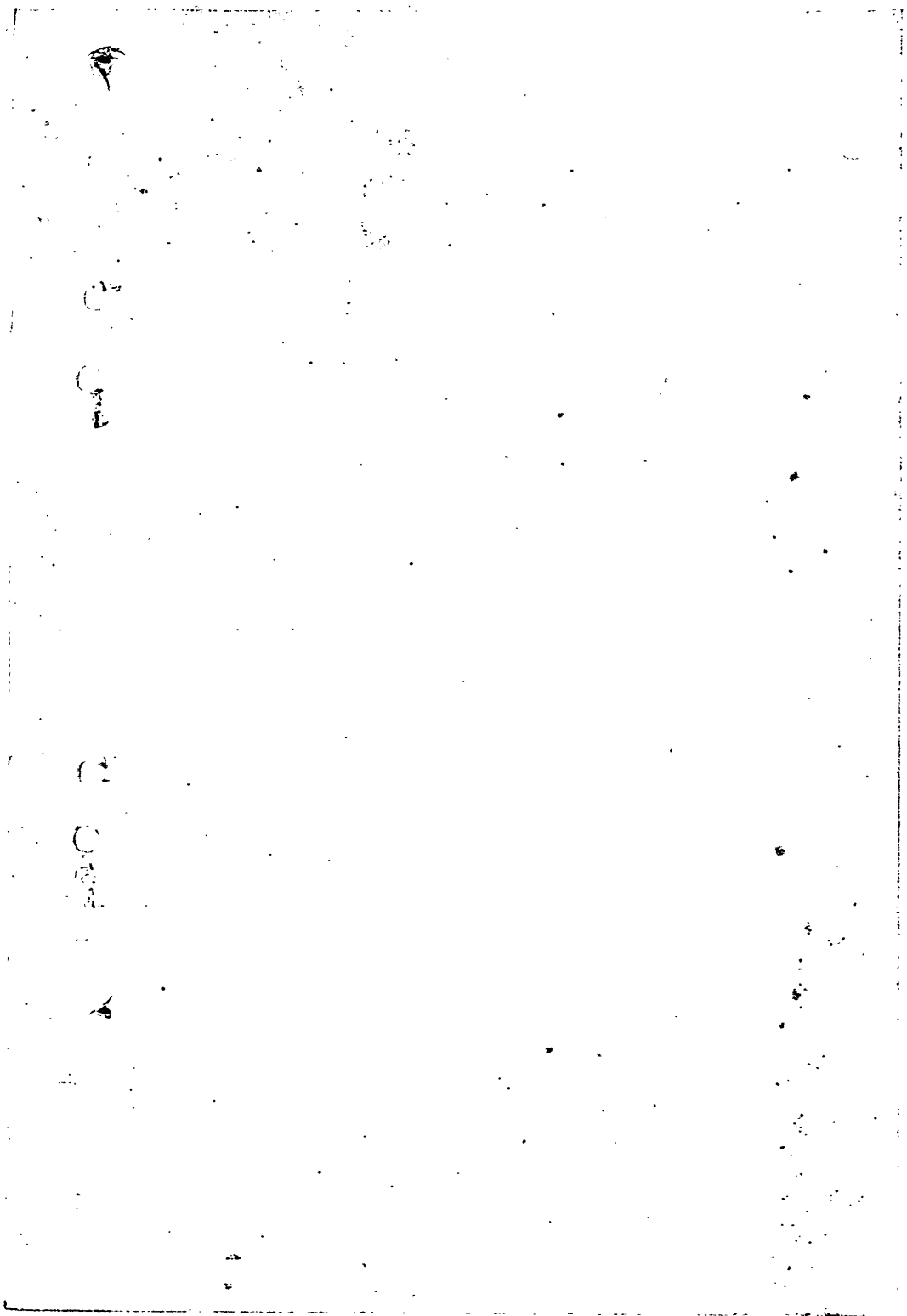
- 一、昭和十年拓務統計
- 一、朝鮮產業經濟調查會諮問答申書（朝鮮總督府）
- 一、朝鮮經濟事情（全、右）
- 一、熱帶產業調查會答申書（臺灣總督府）
- 一、臨時產業調查會答申書（全、右）
- 一、樺太拓殖ニ關スル計畫說明概要（樺太廳）
- 一、南洋群島開發調查委員會答申（南洋廳）

內閣統計局關係

- 一、重要勞働統計資料
- 一、内地及外地ノ人口事情
- 一、内地及外地ノ重要物資ノ生産及移動調

對滿事務局關係

- 一、滿洲ニ於ケル重要工業生産能力調
- 一、滿洲ニ於ケル重要生産品需給調
- 一、對滿投資額調
- 一、滿洲ニ於ケル鐵道建設狀況



御断リ

一、既成刊行物等ニシテ部數少ナキ爲全部ニ行渡ラザルモ  
ノ二、三アルモ右ハ御希望ニ依リ出來得ル限り追ツテ調  
製ノ上御送付申上ベキニ付キ御希望ノ向ハ係官迄御申出  
相成度シ



秘

主要財政經濟會議諮問及答申要領

企  
畫  
廳

E-0123

0021

本稿ハ中央經濟會議參考トシテ大正以降内閣總理大臣ノ監督ニ  
 屬シ其諮問ニ應ジテ財政經濟ニ關スル重要事項ヲ調査審議セル  
 主要ナル會議ニ對スル諮詢又ハ諮問並其答申要領ヲ摘録セルモ  
 ノナリ(以印刷代筆寫) — 昭和十二年七月 —

目次

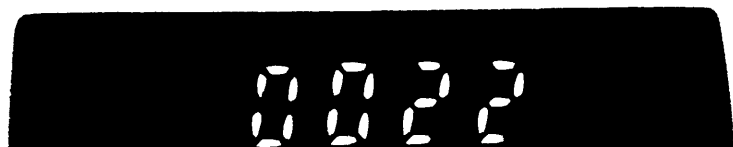
第一、經濟調査會

- 一、産業ノ部 ..... 一八
- 二、貿易ノ部 ..... 二二
- 三、交通ノ部 ..... 三三
- 四、金融ノ部 ..... 三八
- 五、租税ノ部 ..... 三九

第二、臨時國民經濟調査會

- 一、臨時財政經濟調査會
- 一、諮問第一號 ..... 二六
- 二、諮問第二號 ..... 二六
- 三、諮問第三號 ..... 三〇
- 四、諮問第四號 ..... 三三
- 五、諮問第五號 ..... 三五
- 六、諮問第六號 ..... 三八

目次 ..... 四八



第四、帝國經濟會議	五七
一、金融部	五八
二、貿易部	六〇
三、農業部	六二
四、工業部	六四
五、社會部	六四
六、拓殖部	六六
七、社會拓殖聯合部	六六
八、交通部	七四
第五、人口食糧問題調査會	七七
一、人口部	七七
二、食糧部	八六
第六、經濟審議會	九〇
第七、米穀調査會	九三
第八、社會政策審議會	九八
第九、國際貸借審議會	一〇三
第十、臨時產業審議會	一一二
第十一、臨時行政財政審議會	一二八
第十二、米穀對策調査會	一四〇
第十三、內閣審議會	一四六



第一、經濟調査會 (設置大正五年勅令第二二九號  
廢止大正六年勅令第二二九號)

○提案事項

一、産業ノ部

産業第一號 肥料國內供給ノ増加ヲ圖ル方法如何

産業第二號 戰時ニ發達シ又ハ新ニ興起シタル工業ヲ戰後ニ於テ維持繼續セシムル方法如何

産業第三號 工業資金ノ融通ヲ圓滑ナラシムル方法如何

産業第四號 工業資本證券ノ發行又ハ引受保證ヲ專業トスル工業金融ノ中心機關ヲ創設スルノ可否如何

産業第五號 滿蒙開發ノ爲拓殖機關ヲ設立スルノ可否及其方法如何

産業第六號 原料農産物ノ生産ヲ獎勵センカ爲棉、羊毛、麻類、製紙用「パルプ」及漆ニ對スル保護方策如何

二、貿易ノ部

貿易第一號 重要輸出品ノ品質齊一ヲ圖ル方策如何

三、交通ノ部

交通第一號 現時ニ於ル船隻調節ノ方法如何

第一 經濟調査會

二

交通第二號 戦後ニ於ケル吾邦海運ノ健全ナル發達ヲ期スヘキ方法如何  
交通第三號 海外連絡貨物輸送上ノ現行施設ニ對シ改良ヲ施シ又ハ新規ニ計畫スヘキ事項如何  
交通第四號 漫遊外客ノ誘致ニ關スル施設如何

四、金融ノ部

金融第一號 對支金融機關ノ整理方法如何

五、租税ノ部

租税第一號 關稅政策上將來特ニ保護ヲ要スヘキ産業ノ種類並之ニ對スル保護ノ程度及其方法如何  
租税第二號 關稅政策上從來保護ヲ加ヘタル産業ニシテ將來之ヲ輕減スルモ支障ナシト認ムルモノノ有無如何

一、産業ノ部

○産業第一號提案 肥料國內供給ノ増加ヲ圖ル方法如何

○産業第一號決議要領

- 一、金肥ノ使用ヲ節約スルコト
- 二、肥料ニ關スル知識ノ普及啓蒙ニ努ムルコト
- 三、水利ニ關スル慣行ヲ整理シ空氣窒素ノ利用ニ基ク化學肥料製造業ノ發達ヲ促進助長スルコト
- 四、肥料ノ検査ヲ勵行シ肥料ノ共同購入ヲ獎勵スルコト
- 五、肥料ニ關シ廣ク之ヲ調査研究ヲ爲スコト
- 六、燐礦及加里礦ノ調査研究ヲ爲シ其ノ供給増加ヲ圖ルコト

○産業第二號提案 戰時ニ發達シ又ハ新ニ興起シタル工業ヲ戰後ニ於テ維持繼續セシムル方法如何

○産業第二號決議要領

第一、製鐵工業

- 一、官立製鐵所ニ於テ熔鑪爐ヲ増設シ可成多量ニ鉄鐵ヲ生産シ之ヲ拂下クルコト
- 二、新規計畫ノ製鐵事業及既設事業ノ擴張ニ對シテハ少クとも二十五年間營業法、所得稅及地方稅ヲ免除スルコト
- 三、新規計畫事業ノ遂行及既設事業ノ擴張ノ爲ニ要スル機械及建築材料等ノ輸入稅ニ少クとも向後十年間之ヲ免除スルコト
- 三、製鐵工場用地ノ買収ニハ土地收用法ノ適用ヲ許スコト

第一 經濟調査會

三



- 四、政府ハ必要ニ應ジ鉄鐵噸當獎勵金下附ヲ爲シ得ル途ヲ拓クコト
- 五、鉄鐵ノ輸入税ヘ前項獎勵金附與ノ期間無税トスルコト
- 六、鐵材ノ關稅ニ付テハ整理ノ目的ヲ以テ適當ニ増減スルコト
- 七、官營製鐵所ニ於テ特ニ民間ノ製鐵工業ニ配給スルノ目的ヲ以テ技師職工ヲ養成スルコト

第二、鑛業

亞鉛製鍊業ニ付テハ

- 一、亞鉛(粒、塊、錠)ノ關稅ハ戰後ノ狀況ヲ見タル上適當ニ決定スルコト
- 二、内國産鑛及輸移入ノ亞鉛鑛ニ對スル運賃ヲ輕減シテ金屬亞鉛ノ生産費ノ減少ヲ圖ルコト
- 三、亞鉛製鍊業ノ原料取得上最モ重キヲ置クヘ海外亞鉛鑛ノ利用ニ在ルヲ以テ官民協力シテ確實ニ其ノ目的ノ貫徹ニ力メラレタキコト
- 四、金屬亞鉛ヲ使用スル内國工業ヘ尙頗ル幼稚ナルヲ以テ政府ヘ大イニ其ノ進行ヲ計畫シ金屬亞鉛ノ内地ニ於ケル需要ノ増加ヲ圖ルヘキコト

一般製鍊業ニ付テハ

- 一、民間當業者カ外國ニ對シ鑛山ニ關スル利權獲得及鑛石買收ノ契約ヲ爲スニ當リテハ政府ハ之ニ關シテ十分ノ便宜ヲ與フルコト
- 二、我製鍊業ノ原鑛ヲ供給スル諸國ニ於テ其ノ政策上若シ鑛石ノ海外輸出ヲ禁止スル等ノエトアルトキハ政府ハ

外交手段ニ依リ極力之ヲ解除ニ努メラレタキコト

- 三、我製鍊業ノ原鑛ヲ供給スル諸國ニ於テ鑛石ニ輸出税ヲ賦課スルコトアルトキハ政府ハ速ニ其ノ輕減又ハ免除ニ努力スルコト

四、政府ハ適當ノ方法ヲ以テ極力鑛石運賃ノ低減ヲ圖ルコト

五、民間當業者ノ海外ニ於ケル鑛山ノ調査ニ關シ政府カ十分ノ便宜ヲ與フルコト

第三、機械工業

一、特殊鋼ノ製造ヲ獎勵スルコト

二、精巧ナル外國製品ノ研究ヲ獎勵スルコト

三、機關車、貨車、客車等ノ製作ヲ獎勵スルコト

(イ) 鐵道機關車ニ付テハ其ノ分類ヲ適當ニシ現行關稅ノ基礎タル從價ニ對シ範圍内ニ於テ輕便鐵道用ノモノニ賦課スヘキ從價稅率ヲ重クスルコト

(ロ) 鐵道用機關車、炭水車等其ノ輸出上必要アルモノニ付テハ戻稅スヘキコト

支那及露國ニ對シ機械類及機械工業材料品(電氣工業材料品等)ノ輸出ヲ獎勵スルコト

支那官民ノ計畫ニ係ル機械工業資金ノ調達ニ付政府ハ能ク限リ斡旋ヲ爲スヘキコト

支那及露國等ニ輸出スル機械類及機械工業材料品ノ重要ナルモノニ對シテハ運賃ノ輕減其ノ他適當ナル輸出獎

第一 經濟調査會

勸策ヲ講スヘキコト

支那ノ官公署ニ對シ能ク限リ邦人技師ヲ招聘セシムルコト

第四、度量衡統一

機械工業用材料及其ノ製品ノ度量衡ニ付テハ大體ニ於テ「メートル」法ノ施行可能ナルモノ竝比較的容易ナルモノニ付テハ速ニ「メートル」法ニ依ルノ主義ヲ採ルト共ニ其ノ他ノ度量衡統一ニ關シ亦十分ノ講究ヲ要スルモノアリ依テ政府ハ宜シク適當ノ機關ヲ設ケ廣ク官民ノ意見ヲ徵シテ速ニ適切ノ施設アラムコトヲ望ム

第五、纖維工業

蠶絲業ニ付テハ

- 一、支那ニ於ケル繭ノ輸出稅撤廢ヲ彼國政府ニ要求スルコト
  - 二、支那生絲ヲ輸入シ吾邦ニ於テ再練シテ輸出スルモノニ對シ戻稅ヲ爲スヘキコト
  - 三、吾邦ニ於ケル伊太利優良蠶繭種ノ飼育ニ關シ適切ナル獎勵方法ヲ講スヘキコト
  - 四、絹織物試驗所ヲ設立シテ生絲改良ノ促進ヲ圖ルヘキコト
  - 五、蠶種ノ輸入稅ヲ撤廢スヘキコト
- 「トップ」工業ニ付テハ
- 輸入「トップ」ニ對シ七分五厘相當ノ從量稅ヲ賦課スルコト

一、歐洲ニ於ケル「トップ」事業ハ數十年ノ長キ歴史ヲ有シ種々ノ研鑽ヲ經タルモノナルヲ以テ彼ノ營業上技術上ノ知識ハ短日月ノ間ニ發達セル我新業ニ比シ非常ナル遲延アルコト

二、歐洲ハ世界羊毛ノ集散地ナルカ故ニ當業者ハ原料選擇ノ便ヲ有スルト隨時必要ニ應ジテ之ヲ需要シ得ルトハ、

三、我當業者カ先物ノ委託買付ヲ必要トスルニ比シ經濟上ノ便否ニ非常ノ差違アルコト

三、「トップ」製造ノ副産物タル「ノイル」販賣ノ難易ハ斯業經營上ノ關鍵タリ歐洲ハ紡毛工業ノ發達偉大ナルヲ以テ其ノ原料タル「ノイル」ハ有利ノ條件ニテ容易ニ賣却シ得ルニ反シ我當業者ハ常ニ買方ヲ求ムルニ焦慮ヲ要ス

二ルコト

四、「トップ」製造機械ノ製作ニ於ケル彼我ノ技術經驗ハ全ク比較スヘクモアラス殊ニ其ノ機械ノ大部分ハ之ヲ輸入ニ俟ツヲ以テ我製造工場ニ於ケル機械ノ購入費ハ彼ヨリモ多額ヲ要スルコト

五、我「トップ」工業ノ勁敵タル濠洲ニ於テハ原料ニ付大ニ地ノ利ヲ有スルコト

第六、曹達工業

戦後政府カ速ニ實行スヘキ事項

- 一、製造用鹽ハ買入原價ヲ以テ賣渡價格トナスコト
- 二、價格カ每百斤四十錢ヲ超ユルトキハ其ノ價格ト四十錢トノ差額ニ相當スル特別補助金ヲ曹達工業者ニ下付スルカ又ハ同一限度マテ鹽價ヲ低減スルコト
- 三、曹達製造用鹹水ノ使用買入ヲ許ス爲鹽專賣法ニ改正ヲ加フルコト

第一 經濟調査會

四、關東州ヨリノ輸入原料鹽ハ免稅トスルコト

第七、染料工業

染料ノ關稅ヲ五割程度トスルコト

但シ其ノ中間物ニ付テハ吾邦ニ於ケル染料工業ノ今後ニ於ケル經過ヲ見タル上適當ノ保護方法ヲ講スルコト

粗製「ナフタリン」粗製「アントラツセン」ニハ無稅又ハ最低稅ヲ課スルコト

第八、加里工業等

一、加里工業

鹽化加里ニ從價一割ノ關稅ヲ賦課スヘキコト

鹽素酸加里ハ現行ノ關稅通（無稅）トスルコト

二、脂肪酸工業

「グリセリン」ノ關稅ヲ從價二割ニ改ムヘキコト

柏油ノ關稅（現行四割）ヲ無稅トスルコト

三、其ノ他ノ工業用藥品製造業

燐過酸化曹達「フェロシアン」曹達、砒酸曹達及「バリウム」鹽類ハ現行ノ關稅通トスルコト

四、皮革工業

皮革製品ハ現行ノ關稅通トスルコト

五、製紙工業

製紙及「バルブ」ハ現行ノ關稅通トスルコト

六、「セルロイド」工業

「セルロイド」ハ現行ノ關稅通（三割）トスルコト

但シ「セルロイド」工業ノ原料タル硝酸、酒精等ヲ一層廉價ニ供給スル能ハサル場合ニハ其ノ主要原料タル樟腦ノ拂下價格ヲ特別低下セシムヘキコト

第九、「ダンピング」ノ防止

相當ノ時期ニ於テ「ダンピング」防止ニ關スル適切ナル法令ヲ制定シ以テ吾工業ヲ戰後ニ維持發達セシムルノ方途ヲ講ズヘキコト

第十、原料ノ取得

戰後ニ於ケル各種工業ノ維持發達上原料ノ自給ヲ策スルト共ニ自給ヲ不利トスルモノニ付テハ東亞及南洋方面ニ於ケル天然資源ヲ調査シ且之ヲ輸入供給ヲ迅速且確實ナラシムル爲速ニ適當ノ施設計畫ヲ爲サムコトヲ望ム

第十一、鐵道運賃

一、長尺物及重量品運賃ノ割増標準ヲ改正スルコト

二、製鐵原料及鑛石等運賃負擔率ノ甚ク低キモノニ對シテ新ニ特定運賃ヲ制定セラレタキコト

三、特定ノ輸出貨物ニ付テハ運賃割戻ヲ行ハレタキコト

第一 經濟調査會

九

第十七、海上運賃

- 一、工業原料ノ運賃ハ内地工業ノ成立ヲ完カラシムル程度ニ於テ特定定率トスルコト
- 二、陶磁器、硝子、燐寸其ノ他客積若ヘ重量ニ比シテ物品ノ運賃ハ海外市場ニ於テ十分ノ競争力ヲ有セシムル爲メ特別低率トスルコト
- 三、運賃低率ナルカ爲メ船積ヲ拒避セントスルカ如キ傾向アルヲ以テ各品公平ニ積取ラシムル様十分監督スルコト

10

○産業第三號提案 工業資金ノ融通ヲ圓滑ナラシムル方法如何

○産業第四號提案 工業資本證券ノ發行又ハ引受保證ヲ專業トスル工業金融ノ中心機關ヲ創設スルノ可否如何

○産業第三號及第四號決議要領

- 第一、日本興業銀行ヲ改善スルコト
- 一、株券ノ應募及引受ヲ爲サシムルコト
- 二、外國ニ於テ債券ヲ發行スル場合政府ハ其ノ元利支拂ヲ保證スルコト
- 三、日本銀行ト金融聯絡ノ途ヲ開クコト
- 第二、工業資金供給ニ關シ普通銀行ヲ發達ナル發達ニ導クコト

第三、新ニ信託ノ制度ヲ設ケ信託會社ニシテ放資信託ノ業務ヲ營ミ以テ工業金融ノ任ニ當ラシムルコト

第四、中小工業者ニ對スル資金ノ融通ヲ潤澤ナラシムルコト

○産業第五號提案 滿蒙開發ノ爲メ拓殖機關ヲ設立スルノ可否及其ノ方法如何

○産業第五號決議要領

金融第一號決議ニ同シ

○産業第六號提案 原料農産物ノ生産ヲ獎勵セムカ爲メ棉花、羊毛、麻類、製紙用「パルプ」及漆ニ對スル保護方策如何

○産業第六號決議要領

- 第一、棉花
- 一、灌溉ノ設備ナキ水田ハ調査ノ上畑地ニ改メ陸地棉ヲ栽培スルコト
- 二、固有未墾地中棉花栽培ニ適スルモノハ調査ノ上、開墾ヲ獎勵スルコト

11

第一 經濟調査會

三、肥料ノ使用ニ關シ適切ナル方法ヲ講シ陸地棉ノ收穫率ヲ高ムルコト

一一三

第二、羊毛

一、寒暖各地方(例へば北海道、東海道、山陽道及九州等適當ノ場所)ニ官公設試験的飼養所ヲ増設シ茲ニ輸入綿羊ヲ馴養シ其ノ成績ニ依リ主トシテ農家ノ副業トシテ民間ノ飼養ヲ獎勵スルコト

二、種羊輸入ノ頭數増加ヲ計リ之ニ關シテ相當ノ方法ヲ講スルコト

三、組合、團體又ハ個人ノ種羊飼養及羊毛肉毛販賣ニ關シ適切ノ獎勵保護方法ヲ設スルコト

四、農商務省ニ專任技術官ヲ置き種羊増殖ニ關スル指導ヲ行ハシメ且之ニ要スル技術員ノ養成ヲ計ルコト

五、新領土並滿蒙等ニ於テ種羊飼養ニ關スル適當ノ施設ヲ行フコト

第三、麻類

亞麻、大麻、黃麻、苧麻、「マニラ」麻ノ生産ヲ獎勵シ以テ是等ノ自給ヲ圖ルコト

第四、製紙用「パルプ」

「パルプ」原料木材ノ拂下ニ關シテ特ニ其ノ工業上現狀及前途ニ留意シ能ク限リ廉價ナラシムルコト

二、「パルプ」原料木材及「パルプ」ノ海陸運輸ニ關シテハ其ノ工業保護ノ方針ヲ以テ能ク限リノ便宜ヲ圖ルコト

第五、漆

生産ヲ獎勵シ以テ之カ自給ヲ按スルコト

二、貿易ノ部

○貿易第一號提案 重要輸出品ノ品質第一ヲ圖ル方策如何

一、重要輸出品ノ品質第一ヲ圖ル爲検査制度ヲ完成スルコト

殊ニ工業品ニ注意スルコト

二、需要先ニ於テ實用ニ耐ヘ注文ニ適應スルモノタルヘキコト

不正品粗悪品ハ其ノ輸出ヲ許可セザルコト

三、検査員ニハ適材ヲ以テ之ニ任シ舊來ノ情弊ヲ排シテ検査ノ嚴正ヲ期スヘキコト

四、検査員ハ官選、其ノ俸給ハ官給仍テ以テ體面ヲ保チ地位ノ獨立ヲ保障スルコト

三、交通ノ部

○交通第一號提案 現時ニ於ケル船隻調節ノ方策如何

第一 經濟調査會

一三三

○交通第一號決議要領

- 貿易ノ増進上實況ニ順應スルノ目的ヲ以テ可及的イ船船ノ運送能力ヲ増加セシムルカ爲左記ノ方法ニ依リ臨機給腹ノ増加ヲ圖ルコト
- 一、外國船ノ購入、内地新造ノ方法ニ依リ船船ヲ増加スルコト
- 二、運賃ヲ引上クルコト
- 三、航路ヲ整理スルコト
- 四、命令航路定期船ノ外國諸港ニ於テ外國貨物ノ搭載ヲ禁止シ又ヘ之ヲ大イニ減少セシムルコト
- 五、社外船ノ運行ヲ制限スルコト
- 六、船船ノ用途ヲ調節スルコト

○交通第二號提案 戦後ニ於ケル吾邦海運ノ健全ナル發達ヲ期スヘキ方法如何

○交通第二號決議要領

政府當局ニ於テハ詳ニ内外ノ實況ヲ調査シ左記列記要項ノ趣旨ニ基キテ相當ノ計畫ヲ樹立シ當ニ實況ニ順應スルノ目的ヲ以テ著者之カ實施ヲラントヲ望ム

第一、經濟上並國防上航路ノ擴張整備ヲ要ス

一、既設航路ヲ改善擴張スルコト

二、新規航路ノ開設ニ努メ以テ外船來航ノ減少ニ依リ吾産業貿易上船腹ノ不足ヲ感セシメサル様努力スルコト

第二、帝國海運事業ノ發展ヲ助長スルカ爲海軍金融機關ヲ整備スルコト

一、金融機關中ノ適當ナルモノヲ選ミ必要ナル改善ヲ加ヘ之ヲシテ此種業務ヲ兼營セシムルカ

二、又ハ海軍金融ノ主タル目的トスル特殊銀行ヲ設立スルコト

第三、海上保險機關ヲ整備スルコト

一、一般海上保險ノ再保險

(イ) 一般海上保險再保險ノ官營ハ目下直チニ實行シ難キモノト認ム

(ロ) 大體英國「ロイツ」海上保險組合ノ制度ニ倣ヒ海上保險ノ再保險ノ個人ニ許スヲ可ト認ム

(ハ) 政府當局ハ具體的實行方法ニ付審査ノ上相當措置ヲラントヲ望ム

二、戰時海上保險

補償制度ノ不便ヲ除去シ航海及輸出入貿易維持發展ノ爲吾現行制度(補償方法)ヲ改メ速ニ戰時海上保險ノ再

保險ヲ官營トスルコト

第四、造船業ノ發達上

一、大體ニ於テ獎勵制度ヘ之ヲ存置スルコト

第一 經濟調査會

- 二、吾造船界ノ實況並諸外國ノ趨勢ヲ調査研究スルコト
  - 三、造船ノ分業的發達ヲ導クコト
  - 四、有事ノ際ニ於テ必要ナル特殊設備ノ完成ヲ導クカ如キ相當ノ改正ヲ加フルコト
  - 五、間接ノ利便ヲ増進スルコト
    - 金融ノ便ヲ計ルコト
    - 副工業ノ發達ヲ助長スルコト
    - 船舶及船用品ノ試験檢定ニ關スル公ノ設備ヲ完成スルコト
    - 船型ノ標準ヲ定メ或ハ構造方法ヲ改善スルコト
- 第五、海員ノ養成保護
- 一、一面優良海員ノ増加ヲ圖ルト共ニ他面保護救済ノ途ヲ完成スルコトノ中左記事項ニ付テハ特ニ歐米諸國ニ於ケル實況ニ鑑ミ適切ナル措置ヲ講スルノ要アリ
  - 一、海外航路ノ職員トシテ適當ナル高等海員ノ數ヲ増加スルコト及之ヲ教育スルニ付學科並養成方法等適切ノ改善ヲ加フルコト
  - 二、優良ナル下級船員ヲ増加スル爲其ノ養成方法ニ適切ナル改善ヲ加フルコト
  - 三、海員ノ保護救済ニ關シテハ現在ノ法制及施設ニ適當ナル改善ヲ加ヘ疾病及傷害保險、養老保險、死亡及遺族保險等ニ關スル國家的施設、海員就職媒介制度及海員休息所、其ノ他陸上ニ於ケル海員ノ慰安設備ニ關シ適當

ノ措置ヲ採ルコト

- 一、今次ノ戰亂ニ際シ英國ノ如キハ商船ヲ海軍ノ補助トシテ極メテ重要ナル機關トナリ商船船員ハ海軍ノ軍務ニ服シ多大ノ貢獻ヲ爲セリト聞ク此等ノ事例ハ吾制度施設ヲ整フルニ參照ノ價値少カラサルヘク海員ト海軍トノ關係ニ就テモ亦相當研究ヲ要スルモノアリト認ム

○交通第三號提案 海外連絡貨物輸送上ノ現行施設ニ對シ改良ヲ施シ又ハ新規ニ計畫スヘキ事項如何

○交通第三號決議要領

- 一、日支運送取扱會社ヲ設置スルコト
- 二、揚子江沿岸其ノ他ノ海港ト吾邦内地直通貨物運送ノ便法ヲ講スルコト
- 三、日露兩國鐵道間貨物連絡運送ノ方法ヲ圖ルコト
- 四、滿洲ニ於テ保稅輸送ノ方法ヲ設定スルコト

○交通第四號提案 邊遊外客ノ誘致ニ關スル施設如何

第一 經濟調査會

○交通第四號決議要領

- 一、一般國民ノ「ツーリスト」ニ對スル氣風ヲ矯正スルコト
- 二、「ホテル」ノ改善發達ヲ期スルコト
- 三、通譯業者ノ弊風ヲ矯正スルコト
- 四、娯業ニ關スル既設機關(ジャパン、ツーリスト、ピエトロ)ヲ督勵スルコト
- 五、國立公園ノ設立其ノ他諸般文明的施設ノ完成ニ著手スルコト

四、金融ノ部

○金融第一號提案 對支金融機關ノ整備方法如何

○金融第一號決議要領

- 一、日支銀行ヲ設立スルコト
- 二、滿洲銀行ヲ設立スルコト

五、租稅ノ部

○租稅第一號提案 關稅政策上將來特ニ保護ヲ要スヘキ産業ノ種類並之レニ對スル保護ノ程度及其ノ方法如何

○租稅第二號提案 關稅政策上從來保護ヲ加ヘタル産業ニシテ將來之レヲ輕減スルモ支障ナシト認ムルモノ有無如何

○租稅第一號及第二號決議要領

輸入稅表ニ依リ列記品目ノ大多數ニ付調査審議ヲ遂ケ

- |                     |              |      |
|---------------------|--------------|------|
| 一、國定稅率ノモノニ付         | 現行稅率ヲ据置キタルモノ | 四四五件 |
| 二、協定稅率ノ廢棄ヲ希望シタルモノ   | 現行稅率ヲ變更シタルモノ | 二二件  |
| 三、消費稅ノ輕減ヲ希望シタルモノ    |              | 一件   |
| 四、戻稅其ノ他ノ希望條件ヲ附シタルモノ |              | 四件   |
| 五、投資防止方策ニ關スル決議      |              | 一件   |



## 第二 臨時國民經濟調査會

(設置大正七年勅令第三四七號  
廢止大正八年勅令第三二七號)

110

諮問事項 左ノ網領ニ依リ米價調節ノ制度ヲ樹テムトス其ノ可否如何

### 米價調節網領

- 第一 激甚ナル米價ノ騰落ヲ防止センカ爲メ豫メ其ノ最高最低ノ價格ヲ定メ置クコト
  - 第二 米價ヲ豫定シタル最低價格ヲ下ルトキハ政府ニ於テ之ヲ買入レ又ハ資金ヲ貸付其ノ他適當ノ方法ニ依リテ政府ニ於テ之ヲ貯藏シ以テ其ノ低落ヲ防止スルコト
  - 第三 米價カ最高價格ヲ超ユルトキハ政府貯藏米ノ賣出、外米ノ輸入其ノ他適當ノ方法ニ依リテ不足數量ヲ供給シ以テ米價ノ騰貴ヲ防止スルコト
  - 第四 米價調節上必要アルトキハ米以外ノ主要食糧ニ付相當ノ措置ヲ爲スコト
  - 第五 外國米ノ專賣ヲ爲スコト
  - 第六 米價審査會ヲ常置シ調節ス可キ米穀其ノ他主要食糧品ノ價格ノ限度制限ニ付諮詢スルコト以上ノ目的ヲ完フセンカ爲メ左ノ立法ヲ必要トス
- 米價調節法ノ要項

第一條 主務大臣ハ米價ノ變動ヲ調節スル爲メ左ノ事項ヲ爲スコトヲ得

- 一 米其ノ他ノ主要食糧品ノ買入、交換又ハ賣渡ヲ爲スコト
- 二 指定シタル條件ニ依リ米其ノ他ノ主要食糧品ノ保管、買入、交換又ハ賣渡ヲ爲ス者ニ對シ補給ヲ爲スコト
- 三 米其ノ他ノ主要食糧品ノ寄託ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ寄託ヲ受ケシメ之ニ對シテ證券ヲ發行スルコト
- 四 米其ノ他ノ主要食糧品ヲ工業原料又ハ飼料ニ使用スルコトヲ制限又ハ禁止スルコト
- 五 米其ノ他ノ食糧品ノ輸出入ノ制限又ハ禁止スルコト

第二條 主務大臣ハ戰時其ノ他ノ事變ノ場合又ハ國民生活上緊要ナル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ爲スコトヲ得

- 一 米其ノ他ノ主要食糧品ノ賣買價格ヲ制限スルコト
  - 二 補償金額ヲ定メ米其ノ他ノ主要食糧品ヲ收用シ又ハ其ノ指定シタル者ヲシテ收用セシムルコト
  - 三 米其ノ他ノ主要食糧品ノ所有者ニ代リ之ヲ管理又ハ處分スルコト
- 第三條 主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ倉庫業者ニ對シ其ノ定メタル保管料ニ依リ米其ノ他ノ主要食糧品ノ寄託ヲ受クヘキコトヲ命スルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ調節ヲ爲スヘキ米其ノ他ノ主要食糧品ノ價格ノ限度及價格ノ制限ニ付米價審査會ニ諮問スルコトヲ要ス

米價審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 本法ニ於テ主要食糧品トハ米ノ外雜穀、甘藷、馬鈴薯及其ノ加工品ヲ謂フ

### 第二 臨時國民經濟調査會

111

第六條 本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

本法中主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ハ地方長官ヲシテ之ヲ行ヘシムルコトヲ得

第七條 本法施行ニ關スル經費ニ付テハ特別會計ヲ立テシム

第八條 罰則

外國米專賣法ノ要項

第一條 外國米ハ政府ノ專賣トス

第二條 外國米ハ政府ノ指定シタル者又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

第三條 政府ヨリ賣渡シ又ハ政府ノ許可ヲ受ケテ輸入若ハ移入シタル外國米ニ非サレハ之ヲ所有シ、所持シ、讓渡

シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ス

第四條 外國米ハ政府又ハ政府ノ指定シタル外國米元賣捌人若ハ外國米小賣人ニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

外國米元賣捌人及外國米小賣人ノ販賣ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 外國米小賣人ハ政府ノ定メタル價格ヲ以テスルニ非サレハ外國米ヲ消費者ニ販賣スルコトヲ得ス

第六條 本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第七條 罰則

○第一次報告 内地米生産不足ノ場合ニ於ケル臨時對策

第二 外米ノ他主要食糧品ノ輸入促進

一 關稅ノ臨時的減免

二 輸送ノ便宜

三 輸入ノ獎勵及保護

四 外米ノ管理又ハ專賣

第二 主要食糧品ノ輸出制限及禁止

第三 消費ノ節約及消費方法ノ改良

一 搗減歩合ノ制限及其ノ低減ノ獎勵

二 米穀調理方法改善ノ獎勵

三 酒造ノ制限

四 其ノ他飯米以外ノ消費ノ制限及節約ノ獎勵

第四 代用食糧品ノ供給増加及使用ノ獎勵

一 各種麵粉食ノ獎勵

二 麵類食用ノ獎勵

三 雜穀及根菜類ノ混食獎勵

四 飼料穀物ノ節約

第一臨時國民經濟調査會

1111

- 五 米穀代用夏作物ノ生産獎勵
- 第五 新穀出廻ノ促進
  - 一 陸稻ノ獎勵
  - 二 適當ナル農器器械及乾燥裝置ノ使用獎勵
  - 三 收納、調製及検査ノ促進
  - 四 輸送ノ便宜
- 第六 米及其ノ主要食糧品ノ數量調査
- 第七 配給上ノ施設
  - 一 米穀ノ優先輸送其ノ他運輸ノ便宜
  - 二 公設市場ノ設置
  - 三 正米市場ノ設置
  - 四 政府及公共團體ノ米穀其ノ他主要食糧品ノ配給
- 第八 價格ノ調節
  - 一 米價暴騰ヲ抑制スル爲政府ニ於テ臨機ニ準備米ノ買置
  - 二 米穀ノ買占、賣惜ノ取締
  - 三 取引所ノ受渡米ノ範圍擴張其ノ他取引所ニ對スル適宜ノ處置

四 仲介機關ノ省約

- 五 米其ノ他主要食糧品ノ最高價格ノ公定
- 六 通貨ノ調節
  - イ 日本銀行利子ノ引上
  - ロ 爲替資金ノ緊縮
  - ハ 在外正貨準備ノ制限
  - ニ 海外放資ノ獎勵
  - ホ 郵便貯金利子ノ引上
  - ヘ 貯蓄債券ノ發行

第九 價格暴騰ニ適應スヘキ勤勞報酬ノ増額

第十 臨時對應策實施機關ノ設置

組織ノ大要

- イ 食糧政策上政府ノ各機關ヲ統一運用シ得ル權限ヲ附與スルコト
  - ロ 知識經驗アル者ヲ採用スルノ途ヲ開クコト
- (註) 國民食糧問題全體ニ關スル第一次報告案起草中官制廢止トナレリ

第三、臨時財政經濟調査會 (設置大正八年勅令第三三二號  
廢止大正十三年勅令第九〇號)

二六

○諮問事項

- 一、諮問第一號 糧食ノ充實ニ關スル根本方策如何
- 二、諮問第二號 鹽ノ生産、配給及價格等ニ關スル根本方策如何
- 三、諮問第三號 製鐵業ノ振興ニ關スル根本方策如何
- 四、諮問第四號 造船業ノ維持發達ニ關スル根本方策如何
- 五、諮問第五號 稅制整理ニ關スル根本方策如何
- 六、諮問第六號 關稅率ノ一般改正ニ關スル根本方策如何

一、諮問第一號 糧食ノ充實ニ關スル根本方策如何

○諮問第一號答申要領

第一、耕地ノ擴張ニ關スル方策

- 一、開墾助成金ノ豫算額ヲ増加シ開墾助成計畫ヲ擴張スルコト
- 二、北海道ニ於ケル耕地増加ノ促進ヲ圖ルコト
- 三、大規模ノ開墾事業ニシテ民間ニ於テ其ノ實行困難ナルモノニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ爲シ又ハ之ヲ國營トナスコト但シ必要ニ應ジ國營工事ニ依ル開墾地ヲ自作農ニ分讓スルコト
- 四、左ノ事項ヲ内容トスル土地利用法ヲ制定スルコト

- イ、開墾適地ノ所有者ニ對シ一定ノ期間内ニ之ヲ開墾スヘキコトヲ政府ニ於テ勸告スルコト
- ロ、土地所有者前項ノ勸告ニ從ハザルトキハ政府ハ相當ノ價格ヲ以テ其ノ土地ヲ收用シテ自ラ之ヲ開墾シ又ハ適當ナル企業者ヲシテ開墾セシムルコト

- 五、農業勞力ノ供給ニ關シ内地殖民ノ獎勵其ノ他ノ施設ヲ爲スコト

第二、耕地ノ維持及改良ニ關スル方策

- 一、主要用器水路幹線ノ新設改良工事ハ國又ハ府縣ニ於テ之ヲ施行シ府縣ニ於テ之ヲ行フ場合ニハ國庫ヨリ相當補助金ヲ交付スルコト
- 二、耕地整理其ノ他耕地改良事業促進ニ關スル地方廳ノ施設ニ對シ國庫補助金ヲ増加スルコト
- 三、耕地ノ維持及農作物保護ニ付適當ノ方法ヲ講スルコト

第三、農業水利法制定ニ關スル方策

第三 臨時財政經濟調査會

二七

水利ハ治水、農業、工業等各般ノ事項ニ關スルヲ以テ之カ大體ヲ定ムル一般ノ規定ノ制定ヲ必要トスルハ勿論ナ  
ルモ就中農業水利ハ糧食充實上極メテ重大ナルカ故ニ一般ノ規定ト相俟テ之ニ對スル特別法ヲ制定スルコト

第四、耕作法ノ改良ニ關スル方策

- 一、肥料ノ改良、増殖及經濟的施用法ノ普及ヲ圖ルコト
  - 二、肥料ノ生産及販賣ニ關シ獨占的壟利ノ弊ヲ生セザラシムルノ方法ヲ講スルコト
  - 三、肥料礦物ノ研究、調査及探險ヲ爲スコト
  - 四、優良品種ノ育成及普及ニ關スル事業ヲ擴張スルコト
  - 五、病害蟲驅除豫防ノ普及ヲ圖ルコト
  - 六、糧食ノ充實ニ關スル指導獎勵ノ徹底ヲ期スルカ爲郡市町村ニ成ルヘク農業技術員ヲ置カシムルコト
  - 七、農業用器具機械ノ研究、改良ヲ圖ルト共ニ其ノ使用ヲ獎勵シ役畜ヲ増加シ且其ノ利用ヲ獎勵スルコト
- 第五、農業金融ニ關スル方策
- 一、開墾耕地整理其ノ他耕地ノ改良、肥料、農用器具機械及牛馬ノ購入其ノ他ノ農業用資金ニ對シ低利資金ノ供  
給ヲ増加スルコト
  - 二、日本勸業銀行及農工銀行ニ於ケル不動産抵當貸付金總額ノ内農業貸付殊ニ土地改良資金ヲ貸付スルコト
  - 三、日本勸業銀行及農工銀行ノ監督ヲ完全ニシ農業資金ノ融通ヲ徹底セシムルコト
- 第六、常年制度ノ設置ニ關スル方策

常年制度ハ其ノ實行ニ關シ慎重注意ヲナスノ要アルモ米麥ノ需給調節上最モ有力ナル施設ナルヲ以テ之ヲ實施  
スルヲ緊要ナリト認ム其組織及實施方法ノ要綱左ノ如シ

イ、米麥ノ買入及賣却其ノ他米麥ノ需給調節ニ關スル一切ノ事項ヲ掌ラシムル特別機關ヲ設置シ農商務大臣ノ  
管理ニ屬セシムルコト

ロ、米麥ノ需給調節委員ヲ設ケ本機關ノ運用ニ關スル重要事項ニ參與セシムルコト

ハ、米麥ノ買入及賣出ノ數量、價格、時期及方法等ニ付テハ需給調節委員ニ諮問シテ之ヲ決定スルコト

ニ、必要ニ應シ樞要ナル地方ニ國立倉庫ヲ設置スルコト

ホ、農業者、倉庫業者、取引業者ニ對シ米麥ノ收穫高及在高ノ申告ヲ命ジ且必要ニ應シ臨檢スルノ權能ヲ特別  
機關ニ附與スルコト

ヘ、本制度ノ會計ハ之ヲ特別會計ト爲スコト

ト、農業倉庫ニ對スル國庫ノ補助金ヲ増加シ其ノ普及ヲ促進スルコト

第七、取引機關ノ改善ニ關スル方策

米麥ノ賣買取引ヲ迅速確實ニ且低廉ナル費用ヲ以テ行ハシメムカ爲正米市場及取引所ノ改善ヲ圖リ取締ヲ嚴ニ  
シ十分ニ其ノ機能ヲ盡サシムルコト

第八、輸出入ニ關スル方策

一、米麥ノ生産ヲ保護スルカ爲適當ナル關稅政策ヲ行フコト

第三 臨時財政經濟調査會

二、米麥ノ需給ヲ調節スルカ爲當該行政機關ニ米麥輸出入特許ノ權限ヲ附與スルコト  
第九、米麥ノ混食其ノ他麥ノ食用増進ニ關スル方策

一、糧食ノ研究ヲ徹底セシムルコト

二、印刷物ノ配布、講習、講話及宣傳等ノ方法ニ依リ麥食ノ普及ヲ圖ルコト

三、國民ノ嗜好ニ適スル麥ノ加工品ヲ安價ニ供給スルノ途ヲ講スルコト

尙以上ノ方策ヲ實施スルニ方リテハ農務省ノ特設、北海道ニ於ケル拓殖事業監督制度ノ改正等諸般ノ革新ヲ爲スト共ニ朝鮮及臺灣ノ米麥生産ニ關シテモ亦水利事業ノ振興、開墾ノ助成及耕作法ノ改良等ニ付根本方策ヲ樹立セシメ、産業政策ノ實行ニ關シ内地ト殖民地トノ調和ヲ保クシムルカ爲相當機關ヲ設置シ關係各官廳ノ聯絡ヲ一層密接ナラシムルヲ緊要ナリト認ム

三〇

## 二、諮問第二號 鹽ノ生産、配給及價格等ニ關スル根本方策如何

### ○諮問第二號答申要領

#### 第一、海水直貢製鹽法ノ實地試験

理學博士池田菊苗氏ノ考案ニ係ル海水直貢製鹽法ノ實地試験ヲ行ヒ右ニ要スル設備及經費ハ政府當局ニ於テ速

ニ之ヲ調査シ米ルヘキ第四十三議會ニ其ノ豫算ヲ提出セラルルヲ必要ナリトス

#### 第二、鹽政統一

鹽政ノ統一ヲ保ツカ爲メ政府ハ速ニ左ノ意味ノ法令ヲ制定セラレシムルコトヲ望ム

臺灣、關東州、青島及朝鮮ニ於ケル鹽ノ生産配給ニ關スル計畫及施設並生産鹽ノ輸移出ニ關スル事務ニ付テハ各所管廳長官ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受クルモノトス

#### 第三、一般

一、鹽專賣制度存廢ニ關スル方策

現行鹽專賣制度ハ之ヲ維持スルコト

二、鹽供給ニ關スル方策

本邦ニ於ケル需要鹽ノ供給ハ内外併立主義ヲ採ルコト

三、内地鹽田ニ對スル將來ノ方策

内地現在鹽田ハ大體之ヲ維持シ其ノ中著シク多額ノ生産費ヲ要スルモノヲ漸次整理スルコト

四、製鹽ノ許可ニ關スル方策

新ニ製鹽セントスル者ニ對シテハ輸移入鹽ノ再製品ヨリ低廉ニ生産スル見込確實ナルモノニアラサレハ之ヲ許可セス但シ鹽田製鹽ヨリモ低廉ニ生産スヘキ見込確實ナル方法ニ依ル製鹽及副産鹽ハ當分ノ間之ヲ許可スルコト

#### 第三 臨時財政經濟調査會

三一

五、鹽生産費ヲ低廉ナラシムル方策

- (イ) 小規模ヨリ漸次大規模ノ經營組織ニ變更スルコト
  - (ロ) 金融及物資供給方法ヲ改善スルコト
  - (ハ) 設備改善ニ對シテ政府ヨリ補助金ヲ交付スルコト
  - (ニ) 指導機關トシテ政府ニテ試驗鹽田ヲ經營スルコト
- 六、鹽ノ配給ヲ圓滿ニシ鹽價ヲ各地均一ナラシムル方策
- (イ) 鹽ノ適當ナル數量ヲ常時貯蓄スルコト之レカ爲メ倉庫ヲ増設シ並ニ專管局運轉資本ヲ増加スルコト
  - (ロ) 販賣官署ヲ増設スルコト
  - (ハ) 販賣官署ヨリ元賣捌人迄ノ運賃ヲ支給スルコト
- 七、工業用鹽ニ對スル方策
- (イ) 工業用鹽自己輸入ノ方法ヲ引續キ認ムルコト
  - (ロ) 工業用鹽ニ關スル各種ノ制限的取締方法ヲ可成寛大ニスルコト
  - (ハ) 青達灰製造用鹽ハ當分ノ内特ニ低減シタル價格ヲ以テ政府之ヲ當該工業者ニ賣渡スコト但シ此レニ因リ生スル損失ヲ補填スルタメニ鹽價ヲ引上ケサルコト

三、諮問第三號 製鐵業ノ振興ニ關スル根本方策如何

○諮問第三號答申要領

第一、本邦製鐵業振興ノ根本方針

本邦ニ於ケル鐵、鋼材ノ供給關係ヲ見ルニ其ノ生産額ハ其ノ需要額ニ對シ猶著シキ懸隔アリ軍需品トシテ最大重要ナル、鐵、鋼材ノ自給力此ノ如キハ國防上最モ憂慮ニ堪ヘサル所ナリトス又經濟上ヨリ之ヲ見ルニ製鐵事業ハ造船、機械其他諸般ノ工業ニ對スル基礎工業ニシテ未タ製鐵事業ノ振興ナクシテ是等工業ノミ獨リ安全確實ナル發達ヲ見ルコト蓋シ之レアラサルナリ更ニ外國貿易ニ就テ之ヲ見ルモ鐵、鋼材及其ノ製品ニ對シ之カ自給ノ途ヲ講スルコトヲナササルニ於テハ將來益々輸出入ノ均衡ヲ失スルニ至ルヘシ此等ノ理由ニ依リ製鐵事業ハ之ヲ普通工業ト同一視スルコト能ハサルカ故ニ國家ニ於テ適切ノ保護ヲ加ヘ以テ其ノ發達ヲ期セサル可ラス而シテ之カ爲メ需要者ニ對シ多少ノ不便ヲ與フルコトアルヘシト雖モ此ノ如キハ將來ノ利便ヲ齎ラスヘキ已ムヲ得サル經路ニシテ一時的ノ苦痛タルニ過キス之ヲ要スルニ國運ノ振興ヲ圖リ文化ノ發展ヲ促カスカ爲メ鐵、鋼材ノ自給ヲ以テ根本方針ト定メ官民協力シテ奮勵努力以テ速ニ終局ノ目的ヲ達セムコトヲ期セサルヘカラス

第二、前項根本方針達成ノ方法

一、製鐵業ノ組織並經營

製鐵事業ハ之ヲ合同經營スルヲ必要ト認ム而シテ此ノ目的ヲ達成スル爲各製鐵所ハ便宜合同又ハ經營ノ委託

ヲ爲シ且原料ノ取得、生産ノ配分等ヲ共同ニスルノ目的ヲ以テ諸製鐵所相寄リテ「シンヂケイト」ヲ組織スルヲ可トス

三四

二、製鐵業ノ保護

(イ) 關稅並補助金

鉄鐵ニハ從價一割、鐵、鋼材ニハ從價約一割五分ノ輸入稅ヲ課シ造船材料トシテ使用スル鋼材ニハ輸入稅ヲ免除スルヲ必要ト認ム

協定稅率ノ適用アル鐵、鋼材ニ付テハ其ノ協定條約ノ存續スル期間其ノ製造業者ニ對シ前項ノ改正稅額下協定稅額トノ差額ヲ標準トシ之ニ相當スル金額ヲ補助金トシテ交付スルヲ要ス

本邦產鋼材ヲ造船用ニ使用シタル場合ニ於テハ其ノ鋼材ノ使用者ニ對シ其ノ輸入稅額ヲ標準トシ之ニ相當スル金額ヲ補助金トシテ交付スルヲ必要ト認ム

前項補助金ノ方法ヲ採用セサルトキハ造船材料ノ製造工業發達ノ途ナク延イテ製鐵業ノ進歩ヲ阻害スルヲ以テ造船材料トシテ使用スル鋼材ニ對シテモ亦第一項ノ稅率ニ依リ課稅ヲ爲スヲ要ス

(ロ) 其ノ他ノ保護

1. 製鐵業獎勵法ヲ改正シ同法ニ規定セラレタル設備ヲ以テ現在製鐵業ヲ營ム者ニ對シテハ今後十箇年間營業稅及所得稅ヲ免除スルヲ要ス

2. 電氣製鐵業ニ付テハ製鐵業獎勵法ヲ改正シテ低價鉄鐵業ト同一ノ保護ヲ與フルヲ要ス

3. 政府ノ工事ニ使用スル鐵、鋼材ハ原則トシテ本邦產ノモノヲ以テスルヲ要ス

4. 製鐵原料並製品ノ海上並陸上ニ於ケル運搬ニ付テハ相當ノ保護ヲ與フルヲ要ス

5. 製鐵業ハ其ノ性質上巨額ノ資本ヲ固定スルコトヲ要スル大規模ノ企業タルヲ以テ其ノ資金ノ融通ニ付テハ特ニ利便ヲ當業者ニ與フル方策ヲ講スルヲ要ス

三、製鐵原料ノ供給確保

製鐵原料ノ供給確保ニ付テハ外國產原料ノ取得、原料輸送ノ改善、原料ノ利用節約、原料ノ調査及原料ノ產出促進ヲ圖ルヲ必要トス

四、製鐵技術發達ノ促進

製鐵技術發達ニ付テハ製鐵研究ノ獎勵並各研究所ノ連絡、技術者及職工ノ養成、製品ノ規格統一等ヲ圖ルヲ必要トス

五、滿洲其他ニ於ケル邦人關與ノ製鐵事業

滿洲其他ニ於ケル邦人關與ノ製鐵事業ニ付テハ本邦製鐵業ヲ阻害セサル程度ニ於テ之ヲ保護スルヲ必要ト認ム

四、諮問第四號 造船業ノ維持發達ニ關スル根本方策如何

第三 臨時財政經濟調査會

三五



諮問第四號答申要領

第一、本邦造船業ヲ維持發達セシムル根本方針

一、航海政策上ノ必要

造船工業發達ノ國防上必要ナルハ言フ俟タズ之ヲ經營上ヨリ考案スルモ本邦ノ地理的狀勢ニ鑑ミ其ノ産業貿易ノ發展ハ一ニ航運ノ力ニ俟タサルヘカラサルノミナラス航運夫自身モ亦有益ナル事業トシテ之ヲ發達ヲ期セサルヘカラス而シテ航運ノ要具タル船舶ノ現狀ヲ觀察スルニ本邦ニ於テハ其ノ數量ニ於テ不十分ナルノミナラス其ノ素質ニ於テモ亦優良船ニ乏シ加之戰前ニ於テハ本邦造船業未タ幼稚ナリシ爲航洋船ノ大部分ハ之ヲ外國ヨリ購入シタルモノニ係リ今次戰亂ノ影響ニ依リ漸次内地新造船ヲ加フルニ至リタリト雖尙大正八年末現在ニ於テ多數外國購入ノ遠洋航路及近海航路ヲ有シ就中總噸數千噸以上六千噸未満ノ中型船ニ於テハ外國製造ノ中古船著シク多ク戰時中増加シタル内地新造船中ニモ素質佳良ナリト謂フヲ得サルモノ亦鮮カラス從ツテ本邦ニ於テハ今後船舶ノ増加ヲ要スルノミナラス其ノ素質改善ハ焦眉ノ急務タリ而シテ此等ノ増加改善ニ要スル船舶ハ之ヲ内地製造ニ需ムルト外國ヨリノ輸入ニ俟ツトノ二途アルヘキモ航運ノ完全ナル發達ヲ期セムトセハ國內ニ於テモ低廉且適當ナル船舶ヲ供給シ所謂自給自足ノ域ニ達セシムルト共ニ其ノ船價ニ於テ少クトモ外國同業者ト對等ノ地位ニ立タシムルコトニ努メサルヘカラサルカ故ニ此ノ見地ヨリ本邦造船業ニ對シ適當ノ保護助長ヲ爲スコトヲ要スルヤ勿論ナリ

二、工業政策上ノ必要

造船業ノ本邦工業上ニ於ケル地位ヲ觀察スルニ大正七年ニ於ケル新造船進水高七十萬噸ニ上ルノ盛況ヲ呈シ其ノ價格ハ修繕其ノ他ノ作業ヲ加ヘ約四億五千萬圓ノ巨額ニ達シ別表ニ示スカ如ク本邦機械工業中最モ重要ナル位置ヲ占ムルニ至レリ惟フニ造船業ハ綜合的工業ニシテ各種材料及製作品ヲ包含スルコト頗ル多様ナルノミナラス船體機關ニ巨大ニシテ精巧ナル物品ノ製作ヲ要スルヲ以テ大規模ノ機械的設備ト技能優秀ナル職工トヲ必要トシ之カ經營ニ充ツヘキ資本亦巨額ニ上リ大正七年ニ於ケル拂込資本及社債一億五千萬圓ヲ算スルニ至レリ故ニ本邦造船業ハ今日ニ於テハ既ニ國內最モ重要ナル工業トシテ其ノ地歩ヲ占メ各種産業ト密接ナル關係ヲ有シ本業ノ消長ハ直ニ一般産業ニ甚大ノ影響ヲ及ホスヘキヲ以テ其ノ振興ハ工業政策上最モ重要ナリトスニ要スルニ本邦造船業ハ重要工業ノ一トシテ經濟上社會上ニ關聯スルトコロ極メテ廣汎ナルヲ以テ國家ハ本業ノ維持發達ニ付深甚ノ注意ヲ要スルヤ勿論ナリ

第二、前項根本方針達成ノ方法

一、一般的保護

- (イ) 本邦造船業發達ノ現狀ニ鑑ミ從來ノ造船獎勵法ノ如キ保護ノ方法ハ造船保護政策トシテ策ノ得タルモノニ非スト認ム
- (ロ) 本邦造船業ヲシテ海外造船業者ト材料ノ取得ニ付對等ノ地位ニ近ツカシメムカ爲船舶(艦艇ヲ含ム)ノ製造及修繕ニ使用スル鋼材、木材ノ輸入税ヲ免除スル必要アリト認ム

第三、臨時財政經濟調査會

又船舶(総船艇ヲ含ム)ニ使用スル機軸品又ハ機關及其ノ部分品(半製品ヲ含ム)ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊品又ハ新規發明品ニ限リ之ヲ輸入税ヲ免除スルモノトス

(ハ) 政府ノ用ニ供スル船舶(総船艇ヲ含ム)ハ原則トシテ之ヲ内地造船所ニ製造セシムルヲ可トス

(ニ) 航路補助法等ニ依リ内地製船舶ノ使用ヲ獎勵スル政策ハ將來ト雖モ之ヲ繼續スルヲ可トス

(ホ) 船舶輸入税ハ適當ニ修正ノ上之ヲ存置スルヲ可トス

(ヘ) 船舶金融ニ付テハ長期低利且豊富ニ資金ヲ融通シ得ヘキ途ヲ開キ特ニ利便ヲ與フル方策ヲ講スルヲ要ス

(ト) 船舶研究所ハ本邦造船業ヲ根本的ニ改良スルノ基礎ナルヲ以テ政府ニ於テ直ニ之ヲ設立ニ著手スルヲ要ス

二、優秀船及特殊船ニ對スル特別保護

優秀船及特殊船ノ保護ニ付テハ造船費ヲ補助シ尙平時ニ於ケル航運費ノ一部ヲ補償シ其ノ維持ヲ圖ル必要アリ

五、諮問第五號 税制整理ニ關スル根本方策如何

諮問第五號答申要領

第一編 直接國税整理案

第二、直接國税ノ體系並地租、營業税ノ整理

甲 直接國税體系並地租、營業税ノ地方税委讓

一、一般所得税ヲ中樞トシ之ニ配スルニ左ニ其ノ綱領ヲ記載シタル財産税ヲ創設シテ直接税ノ體系ヲ構成シ地租、營業税ハ之ヲ地方税ニ委讓スル方針ヲ執ルコト

一般財産税綱要

一、納税義務者

- (一) 財産ノ權利者但シ法人ハ之ヲ除ク
- (二) 權利者ノ住所カ内國ニ在ルト外國ニ在ルトヲ問ハス但シ第二項第一號(ハ)ノ財産ニ付テハ其ノ住所カ内國ニ在ル者ニ限ル

二、課税スヘキ財産

- (一) 内國ニ在ル左記各號ノ財産
  - (イ) 動産及不動産
  - (ロ) 不動産ノ上ニ存スル權利
  - (ハ) 前一號ニ掲ケタル以外ノ財産權
- (二) 前號ノ財産價額中ヨリ權利者ニ屬スル一切ノ債務ハ控除ス但シ課税外ノ財産ヲ取得スル爲ニ要シタル債務ハ之ヲ控除セス
- 三、課税外ト爲スヘキ財産

第三 臨時財政經濟調査會

(一) 公共ノ用ニ供シ又ハ公益ノ爲ニ使用スル財産  
 (二) 動産中家賃、什器、書籍其ノ他生活ニ必要ナル家具日用品等  
 四、課税最低限  
 同居家族ノ分ヲ各算シ總財産價額二千圓未滿ノ者ニハ課税セス但シ第三種所得納税者ノ有スル財産ハ此ノ限ニ在ラス

五、課税方法

(一) 原則トシテ個人ニ綜合シテ課税スルコト  
 (二) 無記名株式、公債、社債、銀行預金等ハ配當又ハ利子支拂ノ際徴收スルコト  
 六、課税價格ノ算定

(一) 時價ヲ標準トスルコト  
 (二) 時價不明ナルモノハ收益ニ對スル一定倍數ヲ標準トシ時價收益共ニ不明ナルモノハ評定價格ニ依ルコト  
 (三) 地上權、永小作權、定期金其ノ他特殊ノ權利ニ付テハ大體現行相續稅法ノ計算方法ニ準スルコト  
 七、課税價格ノ調査決定  
 大體現行所得稅法ノ規定ニ準スルコト  
 八、稅率  
 千分ノ一五ノ比例稅率トスルコト

乙 地租營業稅ノ委讓方法

施行當初ニ於ケル一般財産稅ハ成ルヘク其ノ稅率ヲ輕クシ之カ爲ニ其ノ歲入カ現行地租及營業稅ノ總額ニ達セサル部分ハ當分ノ間臨時ノ處置トシテ地租及營業稅ノ稅率ヲ平等ニ低減シテ此ノ兩稅ヲ存續セシメ財産稅完成ノ時ニ於テ之ヲ地方稅ニ委讓スルコト

丙 當分存續スヘキ地租、營業稅ノ整理

國稅トシテ存續スヘキ地租及營業稅ノ課稅標準等ニ付テハ左ノ如クスルコト  
 一、地租ハ現行ノ儘之ヲ據置キ追テ地方稅ニ委讓スル場合ニ於テ改善ヲ加フルコト  
 二、營業稅ハ成ルヘク營業利益ヲ測定スルニ適當ト認ムル課稅標準ヲ選擇シ同時ニ其ノ種目ヲ成ルヘク少ナカラシメ尙營業利益皆無ナル場合ニ於ケル課稅免除ノ途ヲ開クコト

甲 廢止スヘキモノ

通行稅ハ之ヲ全廢スルコト  
 賣藥稅法中賣藥營業稅ハ之ヲ廢止シ、營業稅法ノ製造業トシテ課稅スルコト  
 乙 改正スヘキモノ  
 一、相續稅ハ大體現行法ノ組織ノ儘之ヲ存置スルコト

第三 臨時財政經濟調査會

- 二、税率ハ之ヲ据置クコト
- 三、現行法第二十三條ニ依リ遺産相続ト看做スヘキ贈與ハ推定相続人ニ對スルモノノミニ限ルモ其ノ以外ノ親族ニ對シテ爲シタルモノヲモ課税スルコト
- 四、不動産及船舶ノ贈與ニ對シテモ現行法第二十三條ニ依リ遺産相続ト看做シ課税スルコト
- 五、船舶ノ價格ハ時價ニヨリ計算スルコト

登録税

- 一、遺言、贈與其他無償名義ニ因ル不動産及船舶ノ所有權取得中親族間ノ贈與ニ對スル税率ハ遺産相続ニ因ル各所有權ノ取得ト同程度ノ税率ニ低減シ親族以外ノ者ニ對スル贈與ニ付テハ普通賣買等ノ登録税ヨリ若干其ノ税率ヲ高ムルコト
- 二、現行法中不動産及船舶等ノ賣買ニ因ル所有權取消ノ場合ニ於ケル登記價格ハ事實上實際ノ賣買價格ヨリ低シト認めラルルヲ以テ其ノ實際價格ノ登記ヲ勸行セシムルト同時ニ其ノ税率ヲ相當低減スルコト
- 三、其他現行法中各種ノ登録ニ對シ課税上不權衡ト認ムルモノニ付テハ追加若ハ増減税ヲ爲スコト
- 四、登録税ノ脱税防遏策トシテ制裁ノ規定ヲ設クルコト

營業税

現行營業税中礦産税ノ税率ハ之ヲ半減シ鑛區税ハ現行法ノ通存置スルコト

所得税

- 一、財産保全會社ノ留保金ニツイテハ左ノ如ク改正スルコト
  - (イ) 法人ニシテ其ノ事業ノ性質ヨリ觀察シテ必要アリト認ムル程度以上ニ社内留保ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ金額ハ其ノ出資額ニ應ジ之ヲ配當シタルモノト看做シテ各個人ニ綜合課税スルコト
  - (ロ) 前項必要ナル留保額ノ程度ハ大藏大臣之ヲ認定スルコト
  - (ハ) 右ノ認定ニ對シ不服アル者ニ對シテハ行政訴訟ヲ許スコト
- 二、銀行預金(貯蓄預金ヲ除ク)ニ對シテハ總テ第二種所得税ヲ課スルコト

丙 改正セサルモノ

砂 鑛 區 税

兌換銀行券發行税

第二編 間接國稅整理案

第一、間接國稅整理方針

間接國稅ノ整理ニ關シテハ大體ノ方針トシテ消費税ニ付テハ成ルヘク生活必需品ニ對スル課税ヲ避ケ又ハ輕減シ主トシテ奢侈品ニ課税スルノ主義ヲ採リ以テ現行消費税中廢止スヘキモノノ有無ヲ調査シタリ尙又消費税ノ課税方法ニ付テモ製造課税ト引取課税ト從價税ト從價税ト專賣、其ノ他税率、納期、取締方法等ヲ調査シ尙進ムテ現行税トノ權衡上又財源トシテ必要上新税ノ創設ヲ要スルモノノ有無ヲモ調査シ又消費税以外ノ間接税ニ

第三 臨時財政經濟調査會

付テ各其ノ内容ニ付詳細ナル研究ヲ遂ケテ以下各項ニ記述スル如キ結論ヲ得タリ

第一、間接國稅整理案

現行間接國稅中廢止スヘキモノ、改正ヲ要スヘキモノ及新稅トシテ創設スヘキモノト決定シタル稅目、其ノ他新稅トシテノ可否ニ關シ調査ヲ遂ケタルモノ左ノ如シ

甲 廢止スヘキモノ

- 醬油・造石稅
- 自家用醬油稅
- 石油消費稅
- 賣藥印紙稅

乙 改正スヘキモノ

- 酒造稅 (稅率ノ改正、原料用酒精ノ戻稅等)
- 酒精及酒精含有飲料稅
- 麥酒稅 (砂糖稅トノ權衡上飴ニモ課稅スルコト)
- 砂糖消費稅 (織物稅トノ權衡上メリヤス、フェルトニモ課稅スルコト)
- 織物消費稅 (證書帳簿ノ課稅區分稅率ノ改正、免稅點ノ引上等)
- 印紙稅

丙 創設スヘキモノ

- 化粧品稅
- 清涼飲料稅

丁 改正セザルモノ

- 取引所稅
- 骨牌稅

戊 其ノ他新稅トシテ調査シタルモノ

- 釀稅 (課稅セザルコト)
- 躰寸消費稅 (課稅セザルコト)
- 其ノ他各種ノ新稅 (不動産移轉稅、土地増價稅、庭園稅壯丁稅、奢侈稅、娛樂稅、紙消費稅及茶消費稅)
- (國稅トシテハ採用ノ價値ナキモノト認ム)

第三編 地方稅整理案

地方稅整理方針

我國現時ノ地方稅體系ハ國稅ニ對スル附加稅ト國稅ノ遺ス所ノ稅源ニ對スル特別稅ヲ以テ組織セリ、而シテ其國稅附加稅ハ嚴重ナル制限ニ局促セラレ其特別稅亦大ナル財源タル能ハス然ルニ最近地方歲出激増シタルカ爲之カ

第三 臨時財政經濟調査會

財源ノ潤滑ニ苦シム勢ヒ現行戸數割ノ如キ比較的良稅ヲラサルモノニ偏重シ又或種ノ營業稅雜稅ノ如キ零細ナル稅種ヲ涉獵シテ其ノ財源ニ充足シツマナリ此ノ如クニシテ地方稅ハ全ク歲入ノ不足ニ伴ヒ或ハ増額或ハ濫設ヲレ難然トシテ其間何等脈絡系統ナク之ヲ整理改善ハ地方財政ノ窮蹙ニ隨ヒ益々其ノ緊要ナルモノアリ

抑々地方稅制ノ體系ヲ確立スルニ當リ之カ大宗タル稅種ハ應能主義ニ適合シ而カモ應益主義ヲ加味シ得ル租稅ヲ以テスルヲ至當トス故ニ道府縣ニ於テハ地租、家屋稅及營業稅ヲ中軸トシテ之ニ配スルニ所得稅附加稅ヲ以テシ且適當ナル雜稅ヲ認ムルコトト爲スヘク市町村ニ於テハ地租、家屋稅及營業稅ノ附加稅ヲ中樞トシテ之ニ配スルニ戸數割ヲ以テシ尙地方ノ事情ニ應シテ特別稅ヲ設ケシムルヲ可トス而シ此ノ如キ地方稅ノ體系ハ他日國ノ財產稅完成シ地租及營業稅ヲ全ク地方ニ委讓シタル場合ニ於テ完備セシムルコトトシ此ノ經過の時期ニ於テハ根本主義ニ順應スル方針ヲ以テ地方稅ノ整理ヲ行フヲ適當ナリト信ス故ニ此際地租及營業稅カ財產稅ノ新設ニ依リ輕減セラレタル分ハ之ヲ地方財源ニ委讓シ是ニ依リテ生スル餘裕ヲ以テ如上ノ根本方針ニ從ヒ地方稅中當ニ廢減スヘキ稅種ノ整理ニ充ツルヲ可ナリト認ム

國ニ一般財產稅ヲ起シ國稅トシテ輕減シタル地租及營業稅ヲ更ニ地方稅トシテ徵收スレハ財產稅ヲ收ムル者ノ土地及營業ヘ負擔加重セラルコトトナルヘシト雖モ現行地方稅中ニハ整理ノ急ヲ要スルモノ尠カラサルヲ以テ此際土地及營業ノ負擔ノ加重ハ姑ク之ヲ忍ビ以テ地方稅ノ整理ヲ斷行スルヲ可トス  
上述ノ方針ノ下ニ以下各項ノ如ク地方稅整理ヲ行ハントス

第一、道府縣稅

一、甲、從來ノ戸數割及之ニ代ル家屋稅ヲ廢シ賃賃價格ヲ標準トシテ課スル定率稅ノ家屋稅ヲ新設スルコト

乙、市町村ノ所得稅附加稅ヲ府縣ニ委讓シ府縣ノ所得稅附加稅率ヲ現在ノ制限率ニ市町村ノ附加稅制限率ヲ加ヘタルモノマテ引上クルコト

丙、府縣稅營業稅雜稅ヲ整理スルコト

二、丁、鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢止シ新ニ鑛業及砂鑛業ニ對シ府縣稅營業稅ヲ課スルコト

第二、市町村稅

甲、地租及營業稅ノ附加稅率ヲ高メ且家屋稅附加稅ヲ新設スルコト

乙、鑛業稅及砂鑛區稅ノ附加稅ヲ廢シ鑛業及砂鑛業ニ對スル府縣稅營業稅ノ附加稅ヲ認ムルコト

丙、從來ノ戸數割附加稅及之ニ代ル家屋稅ノ附加稅ヲ廢シ主トシテ所得稅標準トスル戸數割ヲ市町村ニ設ケ現在ノ家屋稅施行地ニモ施行スルコト

丁、戸數割ノ負擔ヲ輕減スルコト

第四編 附帶希望決議

一、本整理案ハ諮問ノ趣旨ニ依リ現在ノ歲入ニ増減ヲ來ササルコトヲ目標トシテ作成シタルモノナルヲ以テ財源ノ關係上土地租及營業稅ハ當分約半額ヲ國稅トシテ存置スルコトト爲シタルモ理想トシテハ其ノ全額ヲ地方稅ニ委讓スヘキモノナルカ故ニ軍備縮少ニ因リ生スル財源ヲ以テ此ノ兩稅ノ全部ヲ地方稅ニ委讓セシムコトヲ望ム

第三 臨時財政經濟調査會

二、間接國稅ニ關スル稅制整理ノ結果課稅ノ權衡上ヨリ新ニ餉、メリヤス、ハフエルト、化粧品、清涼飲料ニ對シ  
 課稅ヲ爲シ約一千二百萬圓ノ歲入ヲ圖ルコトヲ計畫シタルモ若此ノ際他ニ適當ナル財源アルニ於テハ此等ノ比  
 較的大ナラサル新稅ヲ創設スルハ稅制整理ノ大體ヨリ通觀シテ寧ロ避クヘキモノト認ム而シテ既ニ稅制整理ノ  
 稅源トシテ酒類ニ對シ或程度ノ増稅ヲ爲ス以上ハ之レトノ權衡上煙草ニ對シテモ若干値上ヲ爲シ之レヲ財源ト  
 爲スヲ相當トスヘシ今參考トシテ調査スルニ煙草値上ニ因リ大正十年度ニ於ケル煙草ノ賣行高ヲ基本トシテ其  
 ノ定價ノ平均二割程度ノ値上ヲ爲ストセハ相當消費減ヲ見込ミ約一千二百萬圓ノ歲入ヲ得ヘキカ故ニ此ノ財源  
 ニ依リ敘上新稅ノ創設ヲ見合ヌヲ可ト認ム尤モ專賣制度ニ關スル調査ハ本諮問案ノ範圍外ニ屬スルモ特ニ此ノ  
 希望ヲ附加ス

六、諮問第六號 關稅率ノ一般改正ニ關スル根本方策如何

- (一) 關稅率ノ一般改正ヲ爲スニ當リ最モ考慮ヲ要スト認ムル要點ヲ指摘スレバ左ノ如シ
- (二) 收入ノ目的ヲ以テ課稅ヲ爲スヲ適當トスル物品如何之ニ對スル課稅率ノ最高限度如何
- (三) 産業保護ノ見地ヨリ課稅ヲ爲スヲ必要且適當トスル物品如何
- (四) 課稅ノ權衡並課稅上ノ便宜ヲ圖ル上ニ於テ其ノ稅目等ノ按配如何

(四) 將來外國トノ稅率協定ハ如何ナル方針ニ依ルベキカ

諮問第六號答申要領

關稅率ノ一般改正ニ關スル根本方策

- 本諮問事項ニ付テハ考慮ヲ要スルモノトシテ指摘セラレタル要點アリ依テ之ニ基キテ調査ヲ爲シタリ
- (一) 收入ノ目的ヲ以テ課稅ヲ爲スヲ適當トスル物品如何之ニ對スル課稅率ノ最高限度如何
  - (二) 産業保護ノ見地ヨリ課稅ヲ爲スヲ必要且適當トスル物品如何
  - (三) 關稅ヲ賦課スル上ニ於テ收入ヲ目的トスルモノト産業保護ヲ目的トスルモノトハ物品ニ依リテ大體之ヲ區別シ  
 得ヘキモノ來兩者ハ相互ニ作用スルコト多ク此問題ヲ各別ニ調査スルハ難キカ如ク認メタルヲ以テ之ヲ一括シ便  
 宜上輸入品全般ニ互リテ之ヲ調査ヲ爲シタリ
  - (四) 輸入稅率ニ關シテハ國定及協定稅率制ヲ採用スルコトシ次ニ課稅ノ有無及輕重ヲ決スヘキ大體ノ標準ヲ定メ  
 更ニ之ヲ物品ノ用途、原料ノ有無、生産ニ關スル見込等ニ依リ細別シ各品ニ付其ノ標準ヲ定メタリ別關稅率改  
 正案即之ナリ
  - (五) 課稅ノ權衡並課稅上ノ便宜ヲ圖ル上ニ於テ其ノ稅目等ノ按配如何
  - (六) 現行輸入稅表ニ於テハ輸入品ヲ十七類ニ分類シテ六百七十三ノ稅目ニ掲ケ更ニ之ヲ千五百八十九ニ細別シテ各  
 其ノ稅率ヲ定ム内無稅ノモノ四百四十一、從量稅ノモノ九百六十四、從價稅ノモノ四百八十四ナリ此等ハ明治四十

三年ノ一般改正後屢々改正ヲ加ヘラレタルモ尙變更セラレシテ存積スルモノ多數ニ上レリ當時有税品ノ税率ハ一般物品ニ互リ標準トシテ從價率ヲ定メテ權衡ヲ取リ内從量税率ニ依ルヲ便トシタルモノハ平均輸入價格ヲ基礎トシテ換算セラレタルカ故ニ從價稅品ト從量稅品トノ關係ハ權衡ヲ維持セシカ其ノ後歐洲大戰ノ影響ニ依リテ物價著シク昂騰シタルカ爲從量稅品ニ在リテハ税金ノ輸入價格ニ對スル割合著シク低下シ兩者ノ間甚シク不權衡ヲ生スルニ至レリ近時物價ハ相當下落シタルモ現行税率制定ノ際基礎トシタル價格ニ比スレハ尙非常ニ高ク兩者ノ間ニ於ケル不權衡ハ未タ救済セラレシテ殘レリ

來ルヘキ一般改正ニ於テハ從量稅品ニ關シ現行税率制定當時標準トシテ採用セラレタル從價率ニ依リ現時ノ價格ヲ基礎トシテ改正從量税率ヲ算出スルトキハ從價稅品ト權衡ヲ得ルニ至ルヘキモ斯クテハ急激ナル引上ヲ見ルノミナラス現下ノ事情ニ適セサルヲ以テ別冊關稅率改正案ニ記載セル從價率ヲ標準トシ品質ノ統一シタル物品ニ付テハ從量稅ヲ設クルヲ可トス其ノ結果トシテ從價率ト從量稅率トハ相當權衡ヲ保ツニ至ルヘシ尙從價率制定ニ後生スル不權衡ハ價格變動ノ爲著シク其ノ標準率ニ變化ヲ來シタル物品ニ付別冊關稅率改正案ニ記載セル如ク一定期間ノ平均價格ニ依リ其ノ税率ヲ改定シ以テ之ヲ矯正スヘシ

稅目ノ分類ニ付テハ一般ニ税率ヲ見出し易カラシムルト同時ニ課稅上疑義ニ涉ルヲ避クル爲簡明ナルヲ可トス從價各稅目ノ範圍ハ成ルヘク相互ニ錯雜セサル様明確ニシ之ヲ細別スル場合ニ於テモ出來得ル限リ單純ナル條件ヲ以テスルヲ要ス但シ課稅ノ標準ニ關シ原則トシテ從量稅ヲ採用セルカ故ニ成ルヘク負擔ノ公平ヲ期スル爲之ヲ細別スルヲ要シ其ノ稅目カ從價稅ヲ採用シタル場合ヨリ多少増加スルハ已ムヲ得サルヘシ

(四) 將來外國トノ稅率協定ハ如何ナル方針ニ依ルヘキカ

稅率協定ハ本邦ノ財政上及産業上支障ナキ範圍内ニ於テ本邦ノ通商上有利ナル協定ヲ爲シ得ル國トノ間ニ於テノ必要ニ應ジ互惠ノ方針ニ依リ協定ヲ締結スヘク又此種關稅協定ハ戰後ニ於ケル經濟通商關係未タ安定セサルニ鑑ミ成ルヘク短期間ノ豫告ヲ以テ變更改廢ヲ爲シ得ヘキモノト爲シ置クヲ可ナリト認ム

附 帶 決 議

關稅率ハ常ニ内外ノ經濟狀況並産業貿易ノ推移ニ適應セシムルヲ必要トス依テ政府ハ其ノ改正ヲ敏捷適切ナラシメムカ爲當該ノ關稅率調査委員會ヲ設置セラレムコトヲ望ム

本答申案ハ昨年七月議了シタルモノニシテ其ノ後同年九月ノ大震災ニ因リ我國ノ經濟並産業貿易ノ狀況ニ變化ヲ來シタルモノアルヘキヲ以テ政府ニ於テ關稅率ノ改正ヲ實行セラレルニ當リテハ本答申案ニ付事態ノ變化ニ適應セシムヘク相當ノ考量ヲ盡サレムコトヲ望ム

關稅率改正案

關稅率ノ一般改正ニ關スル大體方針

第一、稅 制

稅制ハ原則トシテ現行ノ如ク國定及協定稅率制ヲ採用スルコト

第二、課稅ノ有無及輕重ヲ決スヘキ大體ノ標準

一、産業保護ノ見地ヨリスル標準

第三 臨時財政經濟調査會



(イ) 保護税ハ本邦ニ於テ現ニ存立シ且未タ發達セサル産業ニシテ而モ將來發達ノ見込アルモノ又ハ現ニ存立シ且相當發達セルモノト雖將來其ノ維持ヲ必要トスル重要産業若ハ現ニ存立セサルモ將來發達ノ見込アル重要産業ニ對シテノミ之ヲ設クルコト

(ロ) 保護税率ハ原則トシテ内地産品カ本邦市場ニ於テ外國品ト正當ナル競争ニ耐ヘ得ル程度ヲ以テ其ノ限度トスルコト

(ハ) 原始産業用ノ物品、動植物、天産品、工業用原料品及材料品(輸出品ノ原料、包装材料及容器ヲ含ム)ニシテ本邦ニ生産セラレサルカ又ハ生産セラルルモ將來供給増加ノ望ナキモノハ原則トシテ之ヲ無税トスルコト

(ニ) 半製品ニ對シテハ原料品ニ對スルヨリモ比較的高率ノ課税ヲ爲シ全製品ニ對シテハ半製品ニ對スルヨリモ一層高率ノ課税ヲ爲スコト

二、歳入上ノ見地ヨリスル標準

(イ) 收入關稅ハ財政上ノ需要ニ應スルヲ目的トスルモノナルカ故ニ歳入ヲ確保シ得ヘキ輸入品ニ對シテ之ヲ課シ、其ノ税率ハ當該物品ノ輸入額ヲ減少セシメサル程度ニ止ムルコト

(ロ) 收入關稅ヲ課スルニハ先ツ最終ノ消費ニ供セラルル物品中奢侈品ニ屬スヘキモノヲ選ビ之ニ對シ比較的高率ノ課税ヲ爲シ其ノ他ノ物品ニ對シテハ國民生活上ノ必要程度ニ應ジ其ノ税率ヲ按配スルコト

(ハ) 内地ニ於テ消費稅ヲ課セラルヘキ物品又ハ之ヲ使用シタル物品ニシテ輸入ノ際消費稅ヲ課セサルモノニ對シテハ消費稅課稅品ト權衡ヲ得セシムル様課稅スルコト

三、左記ノ物品ニ付テハ前二號ニ拘ラス可成左ノ標準ニ據ルコト

(イ) 生活必需品就中食料品ニ對シテハ可成課稅セサルコト假令之ニ課稅スルモ出來得ル限り低稅ヲ課スルコト

(ロ) 軍用上ノ用途ニノミ供セラルル物品又ハ主トシテ軍需品トシテ使用セラルル物品ニシテ本邦ニ於テ生産ノ見込アルモノニ對シテハ相當ノ保護稅ヲ課スルコト但シ本邦ニ於テ自給シ得ル見込ナキ物品ニ付テハ課稅セサルコト

(ハ) 文化、教育及衛生上必要ナル物品ハ可成之ヲ無稅トシ又ハ之ニ對シ低稅ヲ課スルコト

第三、課稅ノ標準

一、原則トシテ從量稅ヲ採用スルコト

二、從量稅品ニ於ケル貨物ノ重量ハ原則トシテ正味量ヲ採用スルコト

三、從價稅品ニ於ケル貨物ノ價格ハ現行ノ如ク輸入ノ際ニ於ケル到着價格ヲ採用スルコト

四、從量稅品ニシテ價格變動ノ爲著シク其ノ標準率ニ變化ヲ來シタル物品ニ付テハ一定期間ノ平均價格ニ據リ其ノ從量稅率ヲ改定シ得ルノ制度ヲ設クルコト

五、從價稅品ニ在リテモ適用上從量稅ヲ課スルヲ便トスルモノニ付テハ一定期間ノ平均價格ニ據リ從價稅ヨリ換算シタル從量稅ニ變更シ得ルノ制度ヲ設クルコト

前記ノ方針ニ基キ課稅ノ大體標準ヲ左ノ如ク定ム

第一、動物及植物(生活力ヲ有スルモノ)

大體 無稅

第三 臨時財政經濟調査會

五三

第二、肥料及飼料又ハ其ノ原料品

大體 無税

第三、食料品

無税又ハ低税

嗜好品

高税

第四、天産物又ハ其ノ工程ノ簡單ナル原料品

無税

(イ) 内地ニ生産ノ見込ナキモノ又ハ生産ノ足ラサルモノ

有税

(ロ) 内地ニ生産ノ見込アルカ又ハ既ニ生産アリテ保護ヲ要スルモノ

有税

(ハ) 現ニ存立シ且相當發達セルモノト雖將來其ノ維持ヲ必要トスルモノ

無税

(ニ) 内地ノ生産充分發達シテ保護ヲ要セサルモノ

無税

(ホ) 直接消費ニ供セラルルモノ

有税

(ヘ) 其ノ用途カ奢侈ニ供セラルルモノ

有税

(ト) 主トシテ輸出品ノ原料又ハ包裝ニ供セラルルモノ

無税

第五、半製品

大體 無税

(イ) 其ノ原料カ内地ニ生産セラレサルカ又ハ生産ノ足ラサルモノ

(ロ) 外國原料又ハ内地原料ニ依リテ内地ニ於テ特ニ製造ノ見込アルモノ

(ハ) 現ニ存立シ且相當發達セルモノト雖將來其ノ維持ヲ必要トスルモノ

第六、全製品

無税

(ニ) 内地ノ生産充分發達シテ保護ヲ要セサルモノ

(ホ) 直接消費ニ供セラルルモノ

(ヘ) 其ノ用途カ奢侈ニ供セラルルモノ

(ト) 主トシテ輸出品ノ原料又ハ包裝ニ供セラルルモノ

第七、除外例

(イ) 實用品必需品等ニシテ内地ニ生産ナキモノ又ハ生産ノ足ラサルモノ

(ロ) 實用品必需品等ニシテ内地ニ製造ノ見込アルモノ

(ハ) 現ニ存立シ且相當發達セルモノト雖將來其ノ維持ヲ必要トスルモノ

(ニ) 實用品必需品等ニシテ内地ノ生産充分發達シテ保護ヲ要セサルモノ

(ホ) 生産ノ用ニ供セラルルモノ

(ヘ) 文化、教育上必要ナルモノ

娛樂品

奢侈品

(リ) 主トシテ輸出品ノ原料又ハ包裝ニ供セラルルモノ

第七、除外例

内地ニ於テ消費税ヲ課スル物品又ハ消費税ヲ課スル物品ヲ以テ製造シタルモノニシテ輸入ノ際消費税ヲ課セサ

第三 臨時財政經濟調査會

ルモノ、衛生上必要ナルモノ、主トシテ軍事上必要ナルモノ、其ノ他特殊ノ事情アルモノ

### 第四、帝國經濟會議

(設置大正十三年勅令第七〇號  
廢止大正十三年勅令第二八〇號)

#### ○諮詢事項

##### 一、金融部

諮詢第一號 帝國經濟ノ振興上金融ニ關シ施設スヘキ各種ノ方策如何

##### 二、貿易部

諮詢第二號 對外貿易特ニ輸出貿易ノ振興ニ關スル方策如何

##### 三、農産部

諮詢第三號 小作制度改善ニ關スル方策如何

諮詢第四號 農村振興ニ關スル方策如何

##### 四、工業部

諮詢第五號 基本工業保護獎勵ニ關スル方策如何

諮詢第六號 中小工業改善ニ關スル方策如何

諮詢第七號 機械工業振興ニ關スル方策如何

第四 帝國經濟會議



五、社會部

諮詢第十二號 住宅ノ供給及改善ニ關スル方策如何

六、拓殖部

諮詢第九號 對外經濟機關ノ整備改善ノ方策如何

七、社會拓殖聯合部

諮詢第八號 移殖民ノ保護獎勵ノ方策如何

八、交通部

諮詢第十號 運輸交通ノ組織連絡ヲ完全ニシ物資ノ配給ヲ迅速圓滿ナラシムルノ方策如何

諮詢第十一號 電氣事業ノ發達統一並電氣普及ニ關スル方策如何

一、金融部

○諮詢第一號 帝國經濟ノ振興上金融ニ關シ施設スヘキ各種ノ方策如何

○諮詢第一號 一部答申要領

第一、外國爲替改善方策及金銀輸出解禁ノ時期

一、外國爲替ノ改善ハ極力中央及地方政府ノ財政ヲ緊縮シ一般國民ノ消費節約ヲ勵行シ物價ノ低落ヲ圖リ産業ノ組織ヲ改良スル等諸般ノ方策ヲ盡シ官民共ニ最善ノ努力ヲ傾倒シテ輸入ノ抑制輸出ノ進展及貿易外收入ノ増加ヲ期シ國際貸借關係ヲ我國ニ有利ナラシムルヲ以テ根本義トナスコト

二、爲替相場ノ安定ヲ期スル爲メハ絕對必要ト認ムル輸入品ノ決済ノ爲メ必要アル場合ニハ相當ナル正貨ノ拂下ヲ爲スコト之方爲メ正貨準備ヲ減少スルコトアルモ已ムヲ得サルコト

三、前項ノ實行ニ就テハ政府日本銀行及爲替銀行ノ當局者ヲ以テ組織シタル委員會ノ審査ニ據ルコト

四、金銀ノ輸出解禁ハ之方爲メ一時ニ巨額ノ正貨ヲ流出シ爲替相場ノ急激ナル變動ヲ惹起スル等一般財界ニ異常ナル影響ヲ與フルカ如キコトノナキ時機ニ於テ之ヲ實行スルコト

五、内地産金ノ輸出ニ對シ特許ヲ與フルコト

第二、公債政策

一、政府ハ速ニ財政行政ノ整理ヲ斷行シ中央及地方ノ政費ヲ節約シ官業ノ民營ニ移スヘキモノハ之ヲ決行シ公債支辨ニ依ル新規事業ヲ抑制シ以テ極力公債ノ發行ヲ減少スルコト

二、國債整理基金特別會計法第二條中「萬分ノ百十六」ヲ「百分ノ二」ニ「參千萬圓」ヲ「八千萬圓」ニ改正スルコト

三、國債ノ償還ハ原則トシテ抽籤償還ニ依ルコト

四、十年以内ノ期限トスル短期國債ノ發行ハ期限ニ於テ其ノ償還資源ノ確實ナラサルモノハ之ヲ見合スコト但天災事變ニ因リ已ムヲ得ス發行スルモノハ此限ニ在ラス

第四 帝國經濟會議

五九

現在ノ短期國債ハ速ニ之ヲ償還シ又ハ長期國債ニ借換フルコト

六〇

## 二、貿易部

○諮詢第二號 對外貿易特ニ輸出貿易ノ振興ニ關スル方策如何

○諮詢第二號 一部答申要領

第一、貿易爲替及金融ニ關スル件

一、對外爲替方策

爲替相場ハ自然ノ成行ニ放任シ調節ヲ加ヘサルコト然レトモ異常特別ノ場合ニ於テ其ノ安定ヲ期スル爲メ又ハ絕對必要ト認ムル輸入品ノ決済ノ爲メ必要アル場合ニハ相當ナル正貨ノ拂下ヲ爲スコト

二、輸出爲替資金ノ融通及爲替元地拂

政府ハ輸出爲替手形(輸出前貸金ヲ含ム)ニ對シ日本銀行ノ再割引又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ爲替銀行ヲシテ左ノ諸項ニ依リ資金ヲ融通セシムルコト

(イ) 利率 年六分以内  
(ロ) 期限 一覽後四箇月以内

(ハ) 取組人ノ申出アルトキハ爲替銀行ヲシテ圓手形ヲ取組ミ且可成元地拂ト爲サシムルコト

三、在支本邦商工業者ニ對スル銀資ノ融通

政府ハ在支本邦商工業者ニ對シ左ノ諸項ニ依リ其ノ取引銀行ヲ通シテ約貳千萬兩ヲ限度トシテ銀資金ヲ融通スルコト

(イ) 期限 九十日以内

(ロ) 擔保 金圓又ハ公債

第二、營業及所得稅ニ關スル件

一、營業稅ノ改正

營業稅中販賣金額ニ依ルモノハ之ヲ收益稅ニ改ムルコト

二、所得稅ノ免除

在外貿易又ハ企業ノ利得ニ對スル所得稅ヲ免除スルコト

第三、鐵道運賃ニ關スル件

輸出品及其ノ原料品並石炭ニ對スル鐵道運賃ハ大正七年九月改正前ノ貨率以内ニ引下ケ尙遠距離輸送ニ對シテハ運賃割引率ヲ一層増スルコト

第四 帝國經濟會議

六一

三、農業部

○諮問第三號 小作制度改善ニ關スル方策如何(審議未了)

○諮問第四號 農村振興ニ關スル方策如何

○諮問第四號一部答申要領

第一、農家負擔ノ輕減

- 一、地租條例ヲ改正シ田畑ノ地租ヲ地價百分ノ二箇半ニ輕減スルコト但シ別ニ小農保護ノ目的ヲ以テ自作農地ノ地租ヲ減免スルモノトス
  - 二、其ノ市町村内ニ居住セサル者ノ所有スル不動産ニ對シテハ其ノ市町村ニ限リ課税スルノ制トナスコト
  - 三、國有財産及國營事業ニ對シテ地方費負擔ノ途ヲ開クコト
  - 四、小學校教員ノ俸給全部ヲ國庫負擔トスルノ目的ヲ以テ義務教育費國庫負擔額ノ増加ヲ圖ルコト
  - 五、地方經費ヲ節減シ地方稅制ヲ整理シ且適當ニ事業收入ノ途ヲ圖ルコト
- 第二、農産物ノ價格ニ關スル政策
- 左ノ趣旨ニ依リ米穀法及米穀委員會官制並關稅定率法ヲ改正スルコト
  - 一、米穀法ノ運用ハ米穀ノ供給及價格ノ調節ヲ目的トスルコト
  - 二、毎年米穀ノ最高並最低價格ヲ決定スルコト
  - 三、米穀統計ノ編成ヲ敏捷精確ナラシメ毎年度ノ端境期迄ニ輸入ヲ許可スヘキ外米ノ數量ヲ決定スルコト
  - 四、米穀委員會ノ委員ノ數ヲ減シ適當ニ生産者側及消費者側ヨリ之ヲ選任スルコト
  - 五、左ノ事項ハ米穀委員會ノ審議決定ヲ要スルコト

(イ) 最高最低價格ノ決定

(ロ) 輸入米數量ノ決定

(ハ) 米穀ノ買入、賣渡及買換

(ニ) 其ノ他米穀法施行ニ關スル重要ナル事項

六、單ニ勅令ヲ以テ米穀ノ輸入稅ヲ増減若ハ免除スル規定ヲ削除スルコト

七、關稅定率法別表ヲ左ノ通改正スルコト

(イ) 米及糧ノ輸入稅ハ其ノ品質ニ依リ每百斤一圓乃至一圓トスルコト

(ロ) 小麥ノ輸入稅ハ每百斤一圓五十錢トスルコト

第三、農務省ノ獨立

現今農業ニ關スル國策ノ遂行ヲ掌ル農商務省ハ廣汎多端ナル農商工ノ政務ヲ總括シ動モスレハ其ノ何レニ對シテモ割切ナル施設ヲ爲ス能ハス特ニ農業ニ對スル政策ノ不徹底ナルコト多キハ頗ル遺憾トスル所ナリ之ヲ歐米諸國ノ事例ニ徵スルモ農務ニ關スル中央行政機關ノ獨立セサルモノ稀ナリ故ニ須ク農業ニ關スル一切ノ事務ヲ統轄

第四 帝國經濟會議

六四  
スル農務省ヲ新設シ時勢ノ進運ニ伴ハシムルハ農村振興ニ關スル要義ニシテ之ヲシテ少クモ左ノ事務ヲ管掌セ  
シムルノ要アリト認ム

農商務省中左ノ各局ノ主管スル事務  
農務局 山林局 水産局 食糧局 畜産局

附帯決議

小作調停法案及自作農維持創定ニ關スル小作制定調査會ノ答申ノ趣旨ハ速ニ採用實行セラレムコトヲ望ム

#### 四、工業部

- 諮詢第五號 基本工業保護獎勵ニ關スル方策如何(審議未了)
- 諮詢第六號 中小工業改善ニ關スル方策如何(審議未了)
- 諮詢第七號 機械工業振興ニ關スル方策如何(審議未了)

#### 五、社會部

○諮詢第十二號 住宅ノ供給及改善ニ關スル方策如何

○諮詢第十二號 一部答申要領

住宅ノ供給改善ノ問題ト關聯シテ借地借家ノ關係ヲ適切平衡ニ規定スルハ固ヨリ肝要ノコトナリ依テ大體左ノ趣旨  
ヲ斟酌シテ速ニ適當ノ立法其ノ他ノ手段ヲ執ラレムコトヲ希望ス

要綱

- 一、地代家賃敷金其ノ他貸借ノ條件カ明ニ不相當ナルトキハ裁判所ハ其ノ條件ノ變更ヲ命スルコトヲ得ルモノ  
トスルコト
- 二、借地借家ノ爭議ニ關シテハ特別ノ智識經驗アル者其ノ他ノ適任者ヲ以テ組織スル委員會ヲ設置シ裁判所カ前  
項ノ裁判ヲ爲スニ付其ノ意見ヲ求ムルヲ得ヘキモノトスルコト
- 三、借地權者ハ其ノ土地ノ上ニ所有セル建物震災ニ因リ滅失シタルモ仍一定ノ期間内ハ建物保護ニ關スル法律  
(明治四十二年法律第四十號)ニ依ル保護ヲ受ケ得ヘキモノトスルコト
- 四、地主又ハ借地人カ震災ニ因リ滅失シタル自己ノ建物ノ敷地(土地區劃整理ニ依ル換地ヲ含ム)ニ更ニ建物ヲ建  
築シタル場合ニ於テ震災當時ノ借家人カ新建物ノ完成前其ノ建物賃借ノ申込ヲ爲シタルトキハ地主又ハ借地人  
ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得サルモノトスルコト
- 五、震災地ノ借地人カ調停委員會ニ於テ震災當時其ノ土地ノ上ニ存在セル自己ノ建物ノ借家人ニ假建築物存置ノ  
爲其ノ敷地ノ一時使用ヲ承認シタルトキハ地主ハ自己ノ承諾ヲ得サルノ故ヲ以テハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四 帝國經濟會議

六五

サルモノトスルコト

六、不當ニ土地建物ノ明渡ヲ拒ム者ニ對シテハ左記ノ方法ニ依リ其ノ手續ノ簡捷ヲ圖ルコト

(イ) 調停事件ニ付當事者ハ調停委員會ニ出頭スヘキ義務ヲ負フモノトスルコト

(ロ) 借地借家ノ訴訟ヲ繫屬シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停ニ付シ得ヘキモノトスルコト

(ハ) 故ナク建物明渡ノ強制執行ヲ妨ケタル者ニ對シ刑事上ノ制裁ヲ科スルコト

七、借地借家ニ關スル司法並調停ノ手續ヲ民衆的ナラシメ其ノ處分ヲ簡易敏捷ニシテ且實際ノ經濟事情ニ適合セシムル爲メ裁判所出張所ノ設置其ノ他適當ノ方法ヲ講スルコト

八、適當ノ方法ニ依リ一般民衆ヲシテ借地借家ニ關スル立法ノ精神ヲ善解セシメ地主家主ニ於テ不安ノ念ヲ懷キ爲ニ土地家屋ノ賃貸貸貸家ノ新築ニ躊躇スルコトナカラシムルニ努ムルコト

### 六、拓殖部

○諮問第九號 對外經濟機關ノ整備改善ノ方策如何(案議留保)

### 七、社會拓殖聯合部

○諮問第八號 移殖民ノ保護獎勵ノ方策如何

○諮問第八號 答申要領

問題ヲ國ノ内外ニ依リテ二箇ニ分チ之ヲ各別ニ調査審議シタル結果國內移殖民ニ關シテハ北海道ハ他ニ比較シテ移住ニ適スルヲ認ムルニ至リタルヲ以テ政究ノ範圍ヲ北海道ノミニ限定シ海外移殖民ニ關シテハ其ノ急トスルノ方策ヲ審議決定セリ

第一、北海道移殖民ノ保護獎勵ニ關スル方策

北海道ニ關シテハ明治初年開拓使ヲ置カレテヨリ既ニ五十有餘年其ノ開拓ニ努力セサルニ非スト雖朝鮮臺灣滿洲等ニ於ケル國力傾注ニ比シ北海道ノ開拓ニ力ヲ用フルコト甚少ク既定ノ拓殖計畫アリト雖內容甚不充分ニシテ且其ノ拓殖計畫モ一般財政經濟ノ影響ヲ受ケ屢々變更ヲ來シ一貫シタル計畫ヲ樹立スル能ハス北海道拓殖ノ爲ニ設立セラレタル北海道拓殖銀行ノ如キ未タ當初ノ目的ニ副ハス加之諸官廳ノ北海道ニ對スル計畫ハ動モスレハ聯絡ヲ缺キ其ノ他ノ一般制度ニ關シテハ各府縣ト同一ノ地位ヲ得セシムルニ急ニシテ却テ國家的見地ヨリ北海道ノ拓殖ヲ全ウシ又全國人口調節ノ爲ニ北海道ヲ經營スルニ付テ頗ル缺如セルモノアリシハ遺憾ニ堪ヘサル所トス北海道ノ人口ハ二百四十萬餘ニシテ之ヲ東北六縣現住人口ノ割合ニ達セシムルニハ猶四百萬以上ヲ容ルルノ餘地アリ今ヤ我國政治、經濟、社會ノ各方面ヨリ見テ國外適當ノ地ニ移殖民ヲ送ルノ國策ヲ樹立スルノ必要ナルハ勿論ナルモ北海道ノ拓殖並人口移殖ニ關シ根本方策ヲ確立スルハ國體充實ノ爲最緊要ナリト認ム而シテ之方爲ニ必

第四 帝國經濟會議



要ナル對策多シト雖其ノ最急ヲ要スルモノ概ネ左ノ如シ

一、速ニ北海道拓殖ノ大方針ヲ確定シテ政局ノ變轉、財政政策ノ變更等ノ爲ニ中途變更ヲ來ササル様特別ナル方  
法ヲ講スルコトヲ要ス

二、政府ハ毎年激増スル人口調節政策ヲ加味シ速ニ北海道移住計畫ヲ樹立スルコトヲ要ス

三、北海道拓殖計畫ハ移住者ノ移住カ必ス經濟的ニ相當有利ニシテ且社會的ニ相當幸福ニ浴ン得ヘキ根本的施  
設ヲ爲スコトヲ要ス

四、全道ヲ通シ交通、運輸、通信ノ施設ヲ充實スルコトヲ要ス

1 既定ノ鐵道計畫ヲ實施スルニ當リテハ特ニ拓殖ノ緩急ニ鑑ミ必要ナル地方ヨリ速ニ敷設スルコト

2 北海道開發ノ必要上出來得ル限り鐵道運賃ノ輕減ヲ計ルコト

3 私設鐵道又ハ軌道ヲ經營スル者ニ對シテハ朝鮮ニ於ケル鐵道及軌道ニ對スルト同等ノ助成金及補助金ヲ交  
付スルコト

4 培養線及トロツコ鐵道ノ經營ヲ獎勵シテ之カ普及ヲ計ルコト

5 速ニ道路網ノ計畫ヲ確立シ急速ニ之カ開通ヲ計ルコト

6 全道ノ港灣修築ノ計畫ヲ充實シ重要ナル港灣ハ速ニ之カ完成ニ努メ同時ニ海陸聯絡ノ設備ヲ完成スルコ  
ト

7 郵便電信等ノ通信機關ノ普及發達ニ努ムルコト

五、土地ノ利用及開發ヲ計ル爲メ治水及脈絡系統アル灌溉排水ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

六、森林ノ經營殊ニ植林ニ關スル方針ヲ定メ之カ遂行ヲ計ルコトヲ要ス

七、北海道ノ拓殖及移住者ノ成功ハ主トシテ金融方法如何ニ在ルヲ以テ北海道拓殖銀行設立ノ趣旨ヲ擴充シ其ノ  
資金ヲ豊富ナラシメ同道ニ於ケル大小ノ企業ハ勿論土地ヲ抵當トスル小口貸出並道廳貸付中ノ特定地及企業中  
ノ土地ニ對シ移住民ニ金融ノ途ヲ開クヲ緊要トス

八、道内農林、水産、鑛山、工業等各種産業ノ振興ヲ目的トスル企業ヲ獎勵シ必要ニ應ジ相當ノ補助ヲ爲スコト  
ヲ要ス

九、同道ニ於ケル農業ハ可成機械ノ使用ヲ獎勵スルト共ニ産業組合ヲ基準トスル團體的經營ヲ獎勵スルコトヲ要  
ス

十、開墾助成ノ爲メ北海道開墾助成法ヲ制定シ特ニ小農及移住者ニ對シ開墾助成金ヲ交付スルコトヲ要ス

十一、私有未墾地ノ開墾ヲ促進スルト共ニ一面之カ收用又ハ開放ヲ計リ自作農創設ヲ獎勵スヘシ

十二、移住者ヲ保護獎勵スルニ當リテハ少クモ左ノ施設ヲ爲スコトヲ要ス

1 移住資金トシテ移住者ノ旅費、移住荷物ノ運賃、家賃、家畜、農具及種子等ヲ補助スルコト

2 移住者ノ公費負擔ヲ輕減スルコト

十三、移住地ニ相當ナル教育及衛生機關ヲ普及充實スルコトヲ要ス

1 移住地ニ於ケル小學校創立費ハ其ノ全額ヲ補助シ教員ノ俸給ハ五年以上其ノ全額ヲ補助スルコト

第四 帝國經濟會議

2 拓殖實務者ヲ養成スル爲北海道ニ甲種又ハ乙種程度ノ實業學校ヲ増設シ移住者及内地ヨリノ子弟ヲ收容シ  
學費ヲ補助スルコト

3 移住者ノ爲農閑期ヲ利用スル教育施設ヲ一層擴張スルコト

4 醫療機關ノ普及ヲ急進ニ實行スルコト

十四、北海道移住者ノ勸誘ニ付テハ政府ニ於テ一層適當ナル宣傳方法ヲ講スルコトヲ要ス

十五、北海道移住者ノ保護獎勵ニ當ラシムヘキ公益團體ノ設置ヲ助成スルコトヲ要ス

十六、北海道拓殖並移住計畫ヲ評議スル爲内務省ニ委員會ヲ設置スルコトヲ要ス

第二、海外移住民ノ保護獎勵ニ關スル方策

海外移住民ノ事タル其ノ關聯スル所極メテ廣汎ナルヲ以テ之カ獎勵ノ方策亦自ラ多岐ニ互ルヘキハ言ヲ俟タズ  
ト雖其ノ最重要ニシテ總テノ施設ノ基礎トシテ急進實施ヲ要スルモノハ植民、投資、金融等ヲ目的トスル會社ノ  
設立ナリトス

廣大ナル土地ト豐富ナル富源ト有スルニ拘ラス勞力ト資本トノ匱シキカ爲未タ之ヲ開發スルニ至ラサル國土  
尠シトセス之ニ對シテ其ノ缺如スル兩者ヲ提供スルハ當ニ我國人口問題解決ノ一方途アリ兼テ又海外ニ對スル  
經濟的發展ノ一方策タルノミナラス更ニ併セテ世界經濟ニ貢獻スル所以ナルハ論ナシ且夫レ眞個ニ移住民ノ發達  
ヲ期セムトセハ單ニ勞働者トシテ邦人ヲ海外ニ送ルニ止マラス必ズ資本ノ之ニ伴フアリテ一ハ以テ移住民其ノ者  
ノ爲ニ便益ヲ計リ他ハ以テ移住國ノ爲ニ資スル所ナカル可カラズ

從來我國ハ移住民ノコトニ關シ深ク思フ故ニ致サリシカ故ニ移住者ハ堅實ナル發展ヲ與邦ニ試ミルノ途ナキ  
ニ苦シメルノミナラス移住國ヲシテ其ノ國當ラ他國ニ奪ハルルカ如キノ隱見ヲ懷カシムルニ至レリ斯ル弊ヲ脱セ  
ムニハ勞資必ズ相伴フヲ要ス而シテ之カ爲ニハ民設會社ヲ保護獎勵シテ

一、植民

二、投資

三、金融

四、産業施設

五、公益施設

等ノ事業ヲ經營セシムルヲ以テ最便宜ニ適スルノ方途ト爲スヘク政府ハ植民ノ基礎事業タル土地ニ關スル施設及  
公益施設等ノ爲相當額ノ低利資金ヲ之ニ供給シ又若干期間相當ノ補助ヲ與フル等充分ナル援助ヲ與ヘ以テ移住民  
事業ノ基礎ヲ樹ツルノ極メテ肝要ナルヲ認ム

右ノ外移住民ノ保護獎勵ニ關シ必要ナル事項一ニシテ足ラス更ニ審議ノ上答申スル所アルヘシト雖今共ノ最緊  
要ト認ムルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一、教育上重キヲ海外思想ノ啓發涵養ニ置キ又移住民ニ關スル宣傳及募集ニ關シ適當ナル方法ヲ講スヘシ
- 二、海外移住ヲ困難ナラシムル一大原因ハ移住ニ關スル費用調達ノ困難ニ在ルヲ以テ政府ハ移住者ノ負擔ヲ輕  
減スル爲之ニ對シテ相當ノ補助ヲ爲スヘシ

第四 帝國經濟會議

- 三、移民ホームノ設置其ノ他海外移住者ノ訓育及出發到著等ノ取扱ニ關スル施設ノ改良ヲ爲スヘシ
  - 四、政府ハ移民輸送船ノ設備ノ改善、速力ノ増進及航路ノ整理ヲ計ル爲適當ノ措置ヲ講スヘシ
  - 五、移民國ト移住國トノ諒解親善ハ最必要トスル所ナルヲ以テ政府ハ移住國ノ國情及民論ヲ察知シテ外交上ニ層層宜ノ措置ヲ講スヘシ
  - 六、移民保護獎勵ノ實ヲ舉クル爲現行移民法規ニ適當ナル改正ヲ加フヘシ
  - 七、海外移住者ニ對シテハ簡易ナル手續ニ依リ廣ク徵兵猶豫又ハ徵兵免除ノ特典ヲ附與スヘシ
  - 八、海外移住者ハ移住國ニ永住シテ其ノ國ニ同化シ善良ナル國民トナルヘキコト當然ナルヲ以テ政府ハ二重國籍ノ問題ヲ解決シ又成ルヘク移住者ヲシテ歸化セシムルノ方針ヲ採ル等適當ノ方法ヲ講スヘシ
  - 九、海外移住ニ關スル行政機關ヲ整備シ其事務ノ敏捷適正ヲ計リ實效ヲ舉ケムコトヲ期スヘシ
- 尙之方爲ニハ移民ノ計畫、拓殖、金融等移民ニ關スル主要事項ヲ審議スル爲學識經驗アル者ヲ選ヒ移民委員會ヲ設クルヲ可トス

社會部拓殖部聯合特別委員會附帶決議

甲 拓殖會社設立ニ關スル件

拓殖會社ハ差當リブラジルニ對スル移民及投資ヲ目的トシテ次ノ方法ニ依リ之ヲ設立スルヲ適當ナリト認ム

一、會社ノ業務種類 植民事業、投資、産業施設、金融施設、公益施設

二、會社ノ組織 會社ニ對スル政府ノ監督關係ハ極メテ必要ナル限度ニ局限セラルルヲ要ス會社ノ重役ハ株主會議ニ依リテ選任ス

次ニ會社ハ必要ニ應ジ拓殖事業及之ニ關聯スル各種産業ノ實際ニ當ラシムル爲子會社ヲ設立シ有力ナルブラジル人ヲモ其ノ株主ニ加ヘ以テ兩國協力ノ途ヲ拓クコトヲ要ス但シ子會社株式ノ少クトモ半數ハ會社ニ於テ之ヲ所有ス

會社業務ノ中樞機關ハ之ヲブラジル國ニ設置スルヲ可トス

三、資金、政府援助ノ方法及程度 會社ノ資本ヲ少クトモ三千萬圓トス但シ政府ハ少クトモ三千萬圓ノ低利資金ヲ五箇年內ニ會社ニ融通スヘク其ノ償還方法ハ年賦ニ依リ出來得ル限リ据置期間及償還期間ヲ長クスルコトヲ要ス又政府ハ會社創立後少クトモ十箇年間會社拂込資金ニ對シ年八分ニ相當スル補助金ヲ下附スヘク尙本會社ニ對シテハ商法規定ノ例外トシテ株式拂込額五倍以上ノ社債ヲ募ルコトヲ認メ且政府ニ於テ元利ノ支拂ヲ保證スルコトヲ要ス

乙 ブラジル國ニ於ケル排日的傾向ヲ防止シ併セテ彼我ノ親善ヲ講スルノ件

東洋民族ニ對スル同國人ノ排他的傾向ハ細心ノ注意ヲ以テ之ヲ萌芽ノ内ニ剪除スルコトニ努メサル可カラズ若夫今日ニ於テ之ニ努ムル所ナクムハ將來或ハ嗟嘆ノ悔ヲ招クノ日アラム茲ヲ以テ例ヘハ

- 一、新聞社及通信社等言論界ト聯絡ヲ保ツコト
- 二、彼國ニ我文化事業ヲ施設スルコト

第四 帝國經濟會議

例へハ整備セル病院ヲ設ケテ我同胞ニ安心ト援助トヲ與フルト共ニ彼國ノ文化ノ進展ニ資スル等彼我利益ノ一致ニ努ムヘシ

三、彼國ノ宗教關係ニ一層注意ヲ拂フコト

蓋移住國ノ宗教ヲ尊重スルコトハ移住ニ伴フ彼我ノ人種的偏見ヲ緩和スル上ニ於テ頗ル緊急ナリ  
等凡ソ彼我國民ノ間ニ横ヘル總テノ偏見ヲ打破シ兩者ノ親善ヲ計ル爲更ニ積極的方法ヲ講スルヲ必要トスヘシ

## 八、交 通 部

○諮詢第十號 運輸交通ノ組織連絡ヲ完全ニシ物資ノ配給ヲ迅速圓滿ナラシムルノ方策如何

○諮詢第十一號 電氣事業ノ發達統一並電氣普及ニ關スル方策如何(審議未了)

○諮詢第十號 一部答申要領

京濱震災地復興ニ關シ物資集積ニ必要ナル應急施設促進ノ件

京濱震災地ノ復興ニ關シ物資集積上應急施設トシテ促進スヘキハ東京横濱兩港ノ水陸設備ヲ改善シ併セテ兩港間ノ聯絡ヲ圓滑ナラシムルヨリ急ナルモノ莫シ仍テ當會議ハ右ノ目的ヲ達成スル爲少クモ左記ノ事項ヲ急速ニ實行セ  
ラレ且其ノ經費ニシテ國費ヲ以テスヘキモノニ付テハ今次ノ特別議會ニ提案セラレムコトヲ要望ス

第一、内務省立案ノ東京港修築計畫(後述)ハ大體ニ於テ之ヲ採擇スルコト但シ帝都復興促進ノ必要上工事期間ヲ相當短縮シ特ニ緊急ヲ要スル部分ノ速成ニ主力ヲ傾注スヘシ

第二、東京築港工事並ニ之ニ關聯スル施設ニ付テハ(一)出入船舶ノ安全利便ヲ圖リ(二)本船及艀船荷役ノ敏捷ト(三)貨物配給ノ迅速トヲ期スル爲左記項目ヲ先ツ著手竣成スルコト

- (イ) 艀船區域及水路ノ浚渫
- (ロ) 艀船浮標及航路標識ノ設置
- (ハ) 假防波堤及導水堤ノ築造
- (ニ) 港内取締機關ノ整備
- (ホ) 税關設備ノ改善充實
- (ヘ) 艀船岸ノ築造ト起重機ノ備付
- (ト) 荷揚場、上屋及倉庫ノ増築
- (チ) 艀船ノ改良ト停泊ノ選定
- (リ) 河川、運河、橋梁、道路及軌道ノ整理改築
- (ス) 貨物運搬用車輛及其ノ立場ノ改良刷新
- (ル) 小運送ノ取締

第三、横濱港ノ復舊工事及第三期擴張工事ニ關シ左記項目ノ實行ヲ期スルコト

第四 帝國經濟會議

一、復舊工事 工事ノ進捗統一、港内ノ整理浚渫、起重機其他陸揚設備ノ改善  
二、第三期擴張工事  
第四、内務省立案ノ京濱運河開鑿計畫(後述)ハ大體ニ於テ之ヲ採擇スルコト  
第五、京濱間ノ船隻回漕ニ關シ船隻ノ能率ヲ一層増進スルノ方法ヲ講シ以テ輸送ノ敏速ト費用ノ低減ヲ期スルコト

東京港修築計畫ノ概要

本計畫ニ依リテハ芝浦地先ヨリ月島地先ニ互リ平均干潮面以下(以下單ニ水深ト記ス)七米突半乃至六米突半ノ一大船溜ヲ開鑿スルト共ニ水深七米突半及六米突半ノ繫船岸壁ヲ築造シ更ニ臺場外ニ互リ水深七米突半ノ航路ヲ開鑿シ外海ト連結セシメ三千噸級ノ船舶ヲ容易ニ出入碇泊スルコトヲ得セシムルモノトス

京濱運河開鑿計畫ノ概要

本計畫ニ於テハ東京灣埋築會社埋立許可地ノ東北端ニ起リ多摩川ノ流末ヲ横斷シテ品川地先ニ於テ隅田川ニ通スル延長約一万七千米突幅員二百米突底幅百米突水深三百米突半ノ運河ヲ開鑿シ其ノ海ニ面スル側ニハ外圍堤ヲ築造シテ風波ノ襲來ニヨル危險及漂砂ノ流入ニヨル埋没ヲ防禦スルコトトシ其ノ内方一帶ハ將來ノ大工業地トシテ最も適當スル地域ナルヲ以テ本運河ノ開鑿及東京港ノ修築ニヨリ生スル浚渫土砂ノ利用ヲ得ル限リハ之ヲ以テ埋築シ積將來必要ニ應ジ運河ノ水深ヲ増加シ其ノ土砂ヲ以テ該埋立地ヲ完成セシムルモノトシ本計畫ニ於テ埋立ツル面積ハ約九十万平方米突(約二十七万坪)ナリトス

第五、人口食糧問題調査會 (設置昭和二年勅令第三三號、廢止昭和五年勅令第七三號)

○諮詢事項

一、人口部  
諮詢第一號 人口問題ニ關スル對策、殊ニ我國ノ現状ニ鑑ミ急速實施ヲ要スト認ムル方策如何  
二、食糧部  
諮詢第二號 食糧問題ニ關スル對策、殊ニ我國ノ現状ニ鑑ミ急速實施ヲ要スト認ムル方策如何

一、人口部

○諮詢第一號 人口問題ニ關スル對策、殊ニ我國ノ現状ニ鑑ミ急速實施ヲ要スト認ムル方策如何

○諮詢第一號答申要項

第一、内外移住方策  
第五 人口食糧問題調査會

移住拓殖へ人口問題解決ノ上ニ直接多クヲ期待シ得ヘカラスト雖モ、國ノ内外ヲ問ハス天然資源ノ開發、生産力ノ涵養、企業及労働ノ移動性増進ノ上ニ於テ一対策タルヲ失ハス殊ニ多年封建鎖國ノ下ニ置カレ土著ノ因襲ニ捉ヘレタル我國民ニ對シ、内外移住ノ獎勵移民ノ保護ヲ爲スハ、機宜ノ措置ナリト認ム其ノ方策ノ大要左ノ如シ

七六

- 一、海外思想ノ普及、内外移住地事情ノ紹介、移民民ニ關スル研究等ノ爲拓殖博物館、移民研究所ノ當置其ノ他相當ノ施設ヲ爲スコト
- 二、海外移住國ニ對シ本邦事情ヲ紹介スル爲、相當ノ施設ヲ爲スコト
- 三、國內移住適地ヲ選定シ、主トシテ團體的移住ヲ圖リ、移住ニ關スル費用ノ輕減、交通運輸ノ整備各種産業ノ開發、移住組合ノ設立其ノ他移住者ヲシテ移住地ニ定著セシムル爲、必要ナル經濟的諸施設ニ對スル補助成ノ途ヲ講スルコト
- 四、國外移住適地ニ移住者ニ適スル事業ヲ調査シ海外移住組合、移民收容所及移民學校等ノ整備増設、移民後援團體ノ普及發達、移民保護官ノ新設、移民民保險ノ施設、移住旅費ノ補助、移住者ノ社會的國家的優遇等ノ方途ヲ講シ、以テ移住者ノ保護獎勵、移住者ノ素質ノ向上ヲ圖ルト共ニ、移住者ヲシテ移住地ニ定著セシムル爲必要ナル經濟的諸施設ニ對スル補助成ノ途ヲ講スルコト
- 五、海外移住組合ノ堅實ナル發達ヲ期スト共ニ、會社企業ニ依ル移住地開拓ノ場合ニ於テモ、移住組合ニ準スル施設ヲ講セシメ、之ニ對シ相當助成ヲ爲スコト

六、移住者ニ對スル金融機關ノ缺陷ヲ充實スヘキ施設ヲ爲スコト

七、内外移住民ニ關スル行政事務ヲ社會政策的の見地ヨリ連絡統一スヘキ方策ヲ確立スルコト

八、朝鮮住民ノ内外移住ニ關シテハ特ニ慎重ナル考慮ヲ拂ヒ、朝鮮ニ於ケル産業ノ發達、資源ノ開發並ニ朝鮮住民ノ生活ノ安定ニ努ムル等適當ナル方策ヲ講スルコト

第一、労働ノ需給調節ニ關スル方策

労働需給ノ調節へ人口問題解決ノ根本方策ニ非スト雖モ、人口ノ過剩へ失業ノ發生ヲ招クノ事實ニ鑑ミ、其ノ防止救済ニ努ムルハ當面ノ一対策タルヲ失ハサルノミナラス、現代産業組織ノ缺陷ヲ補正スルニ與ツテ緊要ナリト認ム其ノ方策ノ大要左ノ如シ

一、職業紹介機關ノ急速ナル普及充實ヲ圖リ、國營主義ノ實現ヲ期スト共ニ職業紹介法施行ノ地域ヲ擴張スルコト

二、國家及地方公共團體ニ公共失業基金ヲ設置シ、失業防止及救済事業ニ必要ナル經費又ハ補助ニ充當スルコト

三、官公營建築土木其ノ他ノ事業ノ起興及按排ニ依リ、失業殊ニ季節的失業ノ緩和救済ヲ期スルコト

四、失業救済ノ目的トスル公營事業ニ對シ、國家ハ必要ニ應ジ國庫ノ補助低利資金ノ融通其ノ他助成ノ方途ヲ講スルコト

五、失業救済施設ノ普及發達ヲ期シ、之ヲ適當ナル監督及助成ノ方途ヲ講スルト共ニ一般共済施設ニ關スル法制

第五 人口食糧問題調査會

七九

ヲ定ムルコト

五、解雇手当支給ノ慣行並ニ失業準備積立金ノ設定ヲ獎勵シ、之ヲ普及ニ努ムルト共ニ適當ナル監督及助成ノ方途ヲ講スルコト

六、労働能率ノ増進及失業ノ防止ヲ主タル目的トスル委員會ヲ企業内ニ設置スルコトヲ獎勵シ、解雇ニ伴フ労働爭議ノ發生ヲ豫防スルニ努ムルコト

七、都市及農村ニ於ケル手工藝的副業ノ轉換及指導ニ關シ、適切ナル施設ヲ行フコト

八、卒業期ノ小學兒童ニ對スル職業指導並ニ失業者ニ對スル職業指導ニ必要ナル施設ヲ行フコト

九、智的労働者ニ對スル應急的失業緩和ノ方途ヲ講スルト共ニ現行高等教育制度及方針ノ刷新ヲ期スルコト

十、失業問題調査會又ハ失業對策委員會ヲ常置シ、失業ノ防止及救済ニ關スル方策ノ確立ニ遺憾ナカラシムルコト

第三、内地以外諸地方ニ於ケル人口對策

内地以外ノ諸地方、就中、朝鮮臺灣ノ人口問題ニ對スル根本方策ニ付テハ更ニ慎重ナル考慮ヲ要スルモノアリ單ニ内地人口問題解決ノ上ヨリスルモ之ヲ等閑ニ付スルヲ許ササルノミナラス、此等地方ニ多數ノ内地人ヲ移植スルカ如キハ徒ニ其ノ住民ニ不安ノ念ヲ懷カシムルニ過キス、又事實不可能ニ屬ス更ニ、此等ノ土地ト密接ナル關係ヲ有スル滿蒙、西比利亞並ニ南洋地方ニ付人口對策ヲ講スル所以ノモノハ、直接内地人口増加ノ緩和ヲ計ルニ非スシテ、當該地方ニ於ケル土地ノ開拓、資源ノ開發、産業ノ發展ニ依リ我國生産力ノ増進ニ資スルニ外ナ

ラス以上ノ見地ニ基キ特ニ實施ヲ要スト認ムル方策ノ大要左ノ如シ

一、朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル土地ノ開拓、資源ノ開發、産業ノ發展ニ努メ、就中、朝鮮ニ於ケル食糧増殖計畫並ニ樺太拓殖計畫ノ促進完成ヲ期スルコト

二、日支兩國ノ隔意ナキ協議ニ依リ、滿蒙ニ於ケル土地關係ヲ確實ナラシメ、農業金融機關ヲ充實シ其ノ他在滿蒙内鮮人生活安定ノ爲適當ナル方途ヲ講スルコト

三、日支日蒙合辦提携其ノ他ノ方法ニ依リ、滿蒙地方ニ於ケル富源ノ開發ヲ期シ、殊ニ食糧及原料生産ノ増進ヲ計ルコト

四、日露兩國ノ隔意ナキ協議ニ依リ、西比利亞地方ニ於ケル富源ノ開發ニ力ヲ協セ、在住内鮮人生活安定ノ爲適當ナル方途ヲ講スルコト

五、關係諸國トノ充分ナル諒解ノ下ニ、南洋地方ニ於ケル食糧及原料ノ生産増進ニ力ヲ協セ、之ヲ爲移民ノ保護、企業ノ獎勵、資金ノ融通等ニ關スル方途ヲ講シ、當該地方ニ於ケル農事研究所設置ノ助成並ニ臺灣ニ於ケル工業試驗所ノ整備充實其ノ他ノ施設ヲ行フコト

六、臺灣、樺太及南洋群島原住民ヲ衰退ニ歸セサラシメンカ爲其ノ保護救済ニ任シ、尙ホ又北海道在住アイヌノ指導扶掖ニ努ムルコト

第四、人口統制ニ關スル諸方策

人口ノ民勢的狀態健全ナル場合ニ在リテモ之ニ統制ヲ加フルニ非サレハ國力ノ發展、産業ノ振興ハ其ノ萬全ヲ

第五 人口食糧問題調査會

期スルヲ得ス之ヲ我國人口ノ動態ニ徴スルニ死亡率甚ク高クシテ未タ其ノ低減ノ傾向ヲ認ムルコト能ハス而モ出生率更ニ著シク高クシテ其ノ結果人口ノ自然増加ノ率ハ高率ヲ示シ所謂多産多死ノ畸形態ニ屬ス此ノ狀態ハ大都市ニ比シ地方農村ニ於テ甚シク、又一般ニ生活程度低キ社會ニ於テ然ルヲ見ル殊ニ乳兒幼少年及青年ノ死亡率高ク爲ニ國民ノ平均餘命短ク生産年齢期ニ於ケル人口ノ割合他國ニ比シ少ク、就中青年女子ノ死亡率男子ニ比シテ高率ヲ示スハ誠ニ寒心ニ堪ヘサル所ナリ上述ノ狀態ヲ改善シテ數及質ノ上ニ於テ健全ナル人口狀態ヲ實現スルハ我國人口問題解決上ニ日ヲ緩ウスルヲ得サル最緊要ノコトニ屬ス

以上ノ見地ヨリ人口對策上緊急實施ヲ要スト認ムルモノ左ノ如シ

- 一、社會衛生ノ發達、國民保健ノ向上ヲ圖リ特ニ結核防止ニ努ムルコト
- 二、地方農村竝ニ都市勞働者住居地域等ニ於ケル衛生保健施設ニ特ニ力ヲ致スコト
- 三、女子體育ノ獎勵、女子榮養ノ改善ヲ圖ルコト
- 四、保健衛生上ノ見地ヨリ女子職業ニ關スル指導ヲ行フコト
- 五、女子及幼少年者ノ勞働保護竝ニ幼少年者酷使ノ防止ニ遺憾ナカラシムルコト
- 六、母性保護及兒童保育ニ關スル一般的社会施設ヲ促成スルコト
- 七、結婚、生産、避妊ニ關スル醫事上ノ相談ニ應ズル爲メ適當ナル施設ヲ爲スコト
- 八、避妊ノ手段ニ供スル器具藥品等ノ頒布、販賣、廣告等ニ關スル不正行爲ノ取締ヲ勵行スルコト
- 九、優生學の見地ヨリスル諸施設ニ關スル調査研究ヲ爲スコト

第五、生産力増進

我國ノ産業ハ明治以降國家ノ保護獎勵ト戰爭ノ影響餘澤トニ依テ頗ル顯著ナル發展ヲ遂ケタリト雖モ之ヲ現狀ニ徴スルモ年次ノ増加人口ヲ支フルニ足ラズ、生産力増進ノ方策ヲ講スルハ人口問題ノ解決上極メテ緊要ノ事ニ屬ス之方策固ヨリ一ニシテ足ラズト雖モ就中重要且緊切ナリト認ムルモノヲ擧ケレハ左ノ如シ

- 一、産業政策ハ民間企業ノ自主的作興ノ機運ヲ醸成セシムルコトヲ眼目トシ國家ノ直接保護ハ必要止ムヲ得サル場合ニ止メ、産業發達ノ障礙トナルヘキ原因ヲ除去スルコトニ努ムルコト
- 二、國民經濟ノ根幹タルヘキ主要工業ニ關スル根本的調査ヲ遂ケ、之ニ對スル國民的自覺ヲ喚起シ、其ノ發展ヲ期スコト
- 三、技術ノ改良、發明ノ獎勵ニ力ヲ致シ、特ニ新工業ノ勃興ヲ圖ルコト
- 四、國ノ内外ニ互リ天然資源ノ供給ヲ充實スルノ途ヲ講シ、海外移植ノ施設ヲ爲スニ當リテハ特ニ此ノ點ヲ考慮スルコト
- 五、合理的統制及經營ノ方針ノ下ニ産業制度及企業組織ノ改善ヲ期シ、生産費ノ節約、生産能率ノ増進ヲ圖ルコト
- 六、農地及小作制度ノ改善ヲ期シ、農事ノ改良、技術ノ應用ニ力ヲ用ヒテ農業ノ衰退、農村ノ疲弊ヲ防止シ、農業併進ノ實ヲ擧クルコト
- 七、地方的産業竝農村副業ノ普及發達ニ努メ、就中工場ノ地方的分布ヲ圖リ、農村ノ工藝的副業ヲ獎勵スル等職

第五 人口食糧問題調査會



- 業及労働ノ配分ヲ適當ナラシムルコト
- 八、農業及小工業ニ關シテ産業組合其ノ他ノ組合制度ノ促成刷新ヲ期スルコト
- 九、労働力ノ保護増進ニ關スル労働政策ヲ確立スルト共ニ勞働立法ノ完備ヲ期スルコト
- 十、労働能率及労働時間ニ關スル基本調査ヲ行フコト
- 十一、労働教育ノ普及發達ヲ期スルコト

第六、分配及消費ニ關スル方策答申

- 人口問題對策ニ關シテハ、曩ニ内外移住拓殖並労働需給調節ニ關スルモノノ外人口統制並生産力増進ニ關スル諸方策ヲ答申スル所アリタリト雖天然資源之シク人口増加著シキ我國ノ現狀ニ徴スレハ未タ之ヲ以テ足レリト爲スヲ得ス、生活資料ノ分配ヲ適正ナラシメ其ノ消費ヲ有效適切ナラシムルハ如上ノ諸方策ト相俟テ人口支持ノ對策トシテ甚ク緊要ナリト認ム其ノ方策ノ大要左ノ如シ
- 一、生計費及其ノ指數ニ關スル調査ヲ繼續的ニ行フコト
- 二、救貧制度ノ整備實施ニ努ムルト共ニ最低賃銀制度、各種社會保險等生活保障ニ關スル適切ナル施設ヲ調査實行スルコト
- 三、失業保險其ノ他職業保障ニ關スル適切ナル施設ヲ調査實行スルコト
- 四、株主配當並重役賞與ノ制限其ノ他分配ノ公正ヲ期センカ爲適當ノ方途ヲ講スルコト
- 五、不勞所得ノ制限、奢侈ノ防止ヲ目的トスル税法改正ヲ期スルコト

- 六、生活必需品ノ供給ニ於ケル獨占並價格協定ニ對シ監督ヲ嚴ニスルコト
- 七、都市ニ於ケル住地住宅ノ整理改善就中不良住宅ノ根絶ヲ圖ルコト
- 借地借家ニ關スル法制上ノ缺點ヲ補ヒ其ノ完備ヲ期スルコト
- 八、小運送其ノ他ノ運輸施設、市場其ノ他ノ販賣組織並賃屋其ノ他ノ金融機關ノ改善ヲ期シ其ノ充實整備ヲ圖ルコト
- 九、消費組合其ノ他協同組合ノ普及發達ヲ圖ル爲其ノ獎勵助長ヲ爲スト共ニ之ヲ法制ノ完備ヲ期スルコト
- 十、消費ノ節約、貯蓄ノ獎勵ニ關シテ時代ニ適應スル計畫ヲ案シ虚禮冗費ノ因襲打破ニ努ムルコト
- 十一、消費ノ合理化ニ關スル調査研究ヲ行ヒ且ツ之ヲ實行ニ關スル諸般ノ施設ヲ講スルコト

○諮詢第一號關係建議

- 第一、人口問題ニ關スル常設調査機關設置ニ關スル建議
- 我國ノ人口問題ハ常時調査研究ニ從ヒ其ノ真相ヲ明ニス之ニ基キ隨時其ノ對策ヲ講スルニアラサレハ問題解決ノ針路ヲ失ヒ對策施設ノ基準ヲ誤リ洵ニ憂フヘキ事態ニ陥ルコトナシトセス、然ルニ現在ノ人口食糧問題調査會ハ政府ノ諮詢ニ應ジ政府ニ建議スル外常時ニ於テ調査研究ヲ行フニ適セサル憾アリ、加フルニ人口問題ハ其ノ性質上國際的見地ヨリ之ヲ講究シ國際機關トノ聯絡ヲ圖ルコト亦必要ナリ、依テ政府ハ此際速ニ人口問題ニ關スル常設調査機關トシテ研究所ヲ設置シ並ニ諮詢機關トシテ委員會ヲ附設セラレシムルコトヲ望ム

第五 人口食糧問題調査會

第二、人口問題ニ關スル常設調査機關設置ニ關スル件

我國ノ人口問題ハ當時調査研究ニ從ヒ其ノ真相ヲ明ニシ之ニ基キ隨時其ノ對策ヲ講スルニアラサレハ問題ノ解決ノ針路ヲ失ヒ對策施設ノ基準ヲ誤リ洵ニ憂フヘキ事態ニ陥ルコトナシトセス、然ルニ現在ノ人口食糧問題調査會ハ政府ノ諮詢ニ應ジ政府ニ建議スル外當時ニ於テ調査研究ヲ行フニ適セサル憾アリ、加フルニ人口問題ハ其ノ性質上國際的見地ヨリ之ヲ講究シ國際機關トノ聯絡ヲ圖ルコト亦必要ナリ、依テ政府ハ此際速ニ人口問題ニ關スル常設調査機關トシテ研究所ヲ設置シ並ニ諮詢機關トシテ委員會ヲ附設セラレシムルコトヲ望ム

第三、社會省設置ニ關スル件

我國目下ノ情勢ヲ察スルニ人口ノ激増、失業ノ發生、都市ノ膨脹、農村ノ疲弊等相俟テ重大深刻ナル幾多社會問題ノ發生ヲ見ツツアリ、今ニシテ之カ對策ヲ定メ計畫ヲ立ツルニアラサレハ禍根ヲ後年ニ貽スノ憂ナシトセス、仍テ政府ハ社會省ヲ設置シ社會政策ノ確立ヲ期シテ人口問題其ノ他一般社會問題ノ解決ニ力ヲ致サレシムルコトヲ望ム

二、食糧部

○諮詢第二號 食糧問題ニ關スル對策、殊ニ我國ノ現狀ニ鑑ミ急遽實施ヲ要スルト認ムル方策如何

○諮詢第二號 答申要領  
第一、農産

一、農産食糧品ノ生産増進ニ關シ急遽實施ヲ要スル方策

- (イ) 自作農ノ創定維持ヲ計リ農民ノ生活ヲ安固ナラシムルコト
- (ロ) 米穀法ノ運用ヲ徹底的ナラシメ其效果ヲ完ウセシムルコト
- (ハ) 適當ナル肥料政策ヲ行ヒ特ニ肥料ノ供給ヲ豊富ニシ且之カ價格ヲ低廉ナラシムルコト
- 二、農産物ノ利用増進ニ關スル方策
  - (イ) 米糠ノ利用ヲ増進シ並ニ土砂ヲ附着セシムル白米ノ販賣ヲ禁止スルコト
  - (ロ) 食糧品ノ利用、貯藏、配給ノ改善ヲ研究スル機關ヲ設置スルコト
- 三、耕地ノ保護ニ關スル方策
  - 水力利用、鑛業等ノ爲ニ被ル耕地ノ被害防止及復舊ニ付適當ナル方法ヲ講スルコト
- 四、大規模開墾ヲ促進スル爲其用排水主要工事ヲ國營ニテ施行スルコト

第二、水産

一、日露漁業協約改訂

- (イ) 改訂日露漁業協約ニ於テ露國國營漁區ニ關シテハ、帝國既得ノ權利ヲ擁護セラレシムルコトヲ望ム
- (ロ) 露國河川漁業ニ關シ帝國ノ既得權利擁護上適當ノ措置ヲ執ラレシムルコトヲ望ム

第五 人口食糧問題調査會

- (ハ) 漁業協約改訂期間へ成ルヘク長期ニ之ヲ定メラレンコトヲ望ム
- (ニ) 露領漁船漁業ニ關シ其ノ實行手續ヲ解決セラレンコトヲ望ム
- (ホ) 日露兩國人以外ノ參加拒否ヲ明ニセラレンコトヲ望ム
- 二、海洋漁業基本調査機關ヲ設置スルコト
- 三、内水面増殖基本調査機關ヲ設置スルコト

第三、畜産

- 畜産ハ食糧ノ需給、國民ノ榮養並ニ農業經營ノ現状ニ鑑ミ、國家重要産業ノ一トシテ内地、朝鮮、臺灣、樺太及關東州等各地ヲ通シ之カ振興ヲ期セムカ爲適切ナル獎勵助長ノ方策ヲ講スルコト緊要ナリト認ム
- 畜産振興ニ關スル方策中新ナル施設又ハ現行施設ノ充實擴張ヲ要スヘキモノ多クアルヘシト雖モ、最も緊急ヲ要スト認ムルモノ左ノ如シ
- 一、有畜農業ノ普及ヲ獎勵スル爲適切ナル施設ヲ爲スコト
- 二、食糧消費ノ慣行ヲ改善シ畜産食糧品ニ關スル智識ノ普及ニ努メ其ノ利用増進ヲ圖ルコト
- 三、一般畜産物ノ取引、輸送及貯藏等ノ改善ニ關スル適切ナル施設ヲ爲シ、以テ之カ需給ヲ圓滑ナラシムルコト
- 四、牛乳ノ良質、廉價、豊富ナル供給ヲ策スルカ爲之カ生産、處理、配給ニ關スル組織並ニ方法ノ改善上適切ナル施設ヲ爲スコト
- 五、食肉ニ關シテハ特ニ内地朝鮮等各地ノ連繫ヲ保チ其ノ廉價、豊富ナル供給ヲ圖ル爲適切ナル施設ヲ爲スコト

- 六、鶏卵ノ増産並ニ配給ニ關スル施設ノ充實擴張ヲ圖ルコト
- 七、家畜保險制度ヲ速ニ樹立スルコト
- 八、畜産ニ關スル國勢調査ヲ速ニ實施スルコト
- 九、畜産食糧品ニ關スル特殊ノ調査審議ノ機關ヲ設置スルコト

# 第六、經濟審議會 (設置昭和三年勅令第三四號、廢止昭和五年勅令第七三號)

九〇

## ○諮詢事項

- 諮詢第一號 産業振興上緊要ナル施設ノ要綱如何(審議未了)
- 諮詢第二號 國民經濟ニ對スル關係ニ於テ財政上改善スヘキ事項如何
- 諮詢第三號 社會政策上緊要ナル施設及其ノ前後緩急如何(審議未了)

## ○諮詢第二號答申要領

- 第一、國際收支ノ均衡ヲ圖ル爲施設スヘキ方策  
國際收支ノ均衡ヲ圖ルカ爲ニハ資源ヲ開發シ産業ヲ振興シ以テ輸出ノ増進ト輸入ノ抑制トヲ圖ルト共ニ貿易外ノ收支ノ調節ヲ期シ同時ニ朝野相率キテ消費ノ節約ト財政ノ緊縮トニ努メサルヘカラス、而シテ其ノ方策多クアルヘシト雖モ左ニ掲グル諸項ハ現下ニ於テ最モ其ノ施設ヲ喫緊トスルヲ以テ政府ハ須ラク速ニ之ヲ實現ニ付適當ナル措置ヲ採ルノ要アリト認ム
- 一、金ノ輸出禁止ハ成ル可ク速ニ之ヲ解除スルコト但シ其ノ實施ニ當リテハ金融上ニ激變ヲ生セシメサル用意ヲ

- 爲スト共ニ一時内地産業ニ及ホスコトアルヘキ影響ヲ輕減スル爲適當ナル措置ヲ講セラレシコトヲ希望ス
- 二、重要工業ニシテ將來確實ニ事業成立ノ見込アルモノニ付一定ノ限度内ニ於テ適宜輸入關稅ヲ増減スルノ權限ヲ政府ニ付與スルコト但シ其ノ實行ニ付テハ委員會ヲ設ケ豫メ之ヲ審査セシムルコトヲ要ス
- 三、輸出補償制度ヲ採用スルコト
- 四、爲替銀行ニ對スル低利資金ノ供給ヲ潤澤ニシ爲替手形ノ期限ヲ延長セシメ且其ノ支店出張所等ヲ増設セシムルコト
- 五、海外ニ於ケル邦人事業ノ投資及海外商業ヨリ生スル利益ニ對シテハ事業ノ性質ヲ考慮シ租稅ヲ減免スルコト
- 六、海運業補助制度ノ整理調節等ヲ圖リ海外發展ノ助長ヲ期スルコト
- 七、外國人ノ渡來ヲ多カラシムル爲名勝ノ保存、ホテル増設其ノ他觀光視察ニ便宜トナルヘキ諸般ノ施設ノ完備ヲ圖ルコト
- 第二、公債政策ニ關スル根本方針其ノ他改善スヘキ事項  
我國ノ公債ハ累年激増シテ今ヤ一般國民經濟ニ對シ劣カラサル壓迫ヲ加ヘツ、アリ、故ニ此ノ際政府ノ採ルヘキ公債政策ノ根本方針ハ從來ニ於ケル公債額増加ノ趨勢ヲ停止スルニ在リト信ス、就中國債整理ノ方針ハ左ノ通りトシ法律ヲ制定シテ之ヲ實行ヲ期スルノ要アリト認ム
- 一、國債總額ハ昭和四年度末ノ現在額ヨリ之ヲ増加セサルモノトシ新規國債(交付公債及借替差増ヲ含ム)ノ發行額ハ毎年度國債償還額ヲ超過セサルコト但シ現行ノ法令ニ依リ政府ノ義務トシテ發行ヲ要スルモノハ此ノ制限

第六 經濟審議會

九一

ノ範圍外トス

九二

- 二、前記昭和四年度末現在國債總額ヘ之ヲ五十年以内ニ償還スルヲ目途トシ毎年度一億二千万圓以上ヲ減債基金ニ繰入ルルコト
  - 三、歲計剩餘金ノ減債基金繰入額ハ其ノ二分ノ一以上トシ前項ノ金額ニ含マシムルコト
  - 四、新規國債ノ發行ハ原則トシテ生産的ノモノタルヘキコト
  - 五、新規發行ノ國債ニ付テハ毎年度其ノ發行額ノ三十分ノ一以上ニ相當スル金額ヲ減債基金ニ繰入ルルコト
- 以上ノ實行ニ關シテ政府ハ左ノ事項ニ付慎重ナル考慮ヲ拂ハレンコトヲ希望ス
- 一、政府不要財産ノ處分
  - 二、官業ノ整理及其ノ經營方法ノ改善
  - 三、事業ノ繰延等
- 尙地方債ニ付テモ成ルヘク之ヲ増加セシメサルコトトシ且其ノ償還計畫ヲ確立勵行スルコト極メテ緊要ナリト認ム

○商事其ノ他ノ産業ニ關スル諸法規改正方調査ニ關スル建議

商事其ノ他ノ産業ニ關スル諸法規ハ現時ノ我が經濟界ノ實情ニ適合セサルノミナラス、從テ其ノ進歩發展ニ支障ヲカラスト認ムルヲ以テ、政府ハ速ニ適當ノ機關ヲシテ之ヲ改正ニ付調査センメラレンコトヲ希望ス

第七 米穀調査會

(設置昭和四年勅令第一二七號 廢止昭和七年勅令第四七號)

○諮問事項

- 諮問第一號 米穀ノ需給及價格ノ調節ニ關シ執ルヘキ方策如何
- 諮問第二號 米穀法ニ依リ米穀ノ市價ヲ調節スル爲メ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ノ基準ト爲ルヘキ最高及最低ノ價格ヘ左記三項ヲ基礎トシ之ヲ決定セントス其可否如何

記

米穀生産費

家計費

米價指數ノ物價指數ニ對スル割合(米價率)趨勢ニ依リ算出シタル米價

諮問第三號 朝鮮米ノ内地移入ノ統制ニ關シ執ルヘキ方策如何(審議未了)

諮問第四號 米穀法第三條ノ規定ニ依ル許可ニ關シ執ルヘキ方策如何(審議未了)

諮問第五號 米穀ノ數量調査ノ改善ニ關シ執ルヘキ方策如何(審議未了)

第七 米穀調査會

九三

○諮問第一號 米穀ノ需給及價格ノ調節ニ關シ執ルヘキ方策如何

第一、米價基準ヲ設定スルハ緊要ナリト認ム仍テ政府ハ速ニ米穀法ノ發動ニ必要ナル米價ノ最高最低基準ヲ調査決定スヘシ

第二、農業倉庫ヲ獎勵シ之ニ低利資金ヲ融通スルコト

第三、内地ニ移出スル朝鮮米ノ數量ヲ月別平均的ニ調節スル爲ニ朝鮮總督府ニ於テ適當ナル方策ヲ樹立スヘシ

第四、外國米輸出入許可制度ヲ設ケ一定數量ノ輸入ヲ許可シ同時ニ輸出ヲモ許可ヲ受ケシムルコトトシ外國米輸出入ノ管理統制ヲ圖ルヘシ

第五、從來ノ米穀需給調節特別會計ノ損失ヲ一般會計ニ移スコト

○諮問第二號 米穀法ニ依リ米穀ノ市價ヲ調節スル爲メ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ノ基準ト爲ルヘキ最高及最低ノ價格ハ左記三項ヲ基礎トシテ之ヲ決定セントス其ノ可否如何

記

米穀生産費

家計費

米價指數ノ物價指數ニ對スル割合(米價率)ノ趨勢ニ依リ算出シタル米價

○諮問第二號答申要領

米穀法ニ依リ米穀ノ市價ヲ調節スル爲メ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲ス場合ノ基準トナルヘキ最高及最低ノ價格ハ米穀生産費、家計費及率勢米價ヲ基礎トシテ別記基準價格要綱ニ依リテ決定スヘシ仍テ政府ハ直ニ米穀生産費及家計費ノ調査ニ着手シ適當ナル資料ヲ得ルコトニ努ムヘク其ノ資料ノ整備スルニ至ル迄ハ暫定方法トシテ率勢米價ヲ基礎トシ別記基準價格要綱ニ準シ基準價格ヲ決定スヘシ此ノ場合ニ於テハ率勢米價ノ上値二割及下値二割ニ相當スル價格ヲ以テ最高及最低ノ基準價格トス

記

基準價格要綱

第一、基準價格決定ノ基礎

米穀法ニ依リ米穀ノ市價ヲ調節スル爲メ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ行フ場合ノ基準トナルヘキ最高及最低ノ價格ハ左ノ三項ヲ基礎トシテ之ヲ決定スルモノトス  
米穀生産費

第七 米穀調査會

家計費

率勢米價

率勢米價トハ明治三十三年十一月以降ノ日本銀行調査米價指數ノ物價指數ニ對スル割合(米價率)ヲ基礎トシ當該米穀年度ニ於ケル米價率ノ趨勢値ヲ算出シ之ヲ基準價格決定ノ前月ノ物價指數ニ乘シタルモノヲ十一圓八十一錢(日本銀行調査ノ基礎年月タル明治三十三年十月ノ米價)ニ乘シテ算出シタル價格ヲ謂フ

第二、基準價格ノ決定及改定

一、基準價格ノ決定

(1) 最低價格ノ決定方法

米穀生産費ト率勢米價ノ下値ニ割ニ相當スル價格トノ間ニ於テ適當ト認ムル價格ヲ以テ最低價格トス

(2) 最高價格ノ決定方法

家計費ノ調査ニ依リ算出セラルル米價ト率勢米價ノ上値ニ割ニ相當スル價格トノ間ニ於テ適當ト認ムル價格ヲ以テ最高價格トス

(3) 基準價格ノ決定時期

基準價格ハ毎年十二月之ヲ決定ス

二、基準價格ノ改定

(1) 經濟界ノ異常ナル變動ニ因リ物價ノ變動著シキ場合ニ於テハ基準ト爲ルヘキ最高及最低ノ價格ノ決定方法

第三、基準價格ノ改定ヲ行フモノトス

(2) 九月一日ヨリ次ノ基準價格ノ決定迄ノ期間米穀供給狀態ニ著シキ變動ヲ生シタル場合又ハ其ノ處アリト認

メタル場合ニ於テハ改定セントスル月ノ前月ノ物價指數ニ依リ算出シタル率勢米價ノ下値ニ割ニ相當スル價

格ヲ以テ最低價格ヲ改定スルコトヲ得

第三、基準價格ノ適用期間

基準價格ハ公表ノ日ヨリ次ノ基準價格公表ノ前日迄之ヲ適用ス

第四、基準價格ニ基ク米穀ノ買入及賣渡

東京(深川、神田川)及大阪正米市場ニ於ケル中米ノ現物時價(中米各銘柄ノ總平均價格)カ基準價格ヲ超エ低落又

ハ騰貴シタルトキハ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ行ヒ其ノ趨勢ヲ抑制スルコトニ努ム

附帯希望

米穀生産費及家計費ノ調査方法及調査項目ニ付テハ本會審議ノ經過ニ鑑ミ政府ニ於テ適當ニ之ヲ定メラレンコ

トヲ望ム

## 第八、社會政策審議會

(設置昭和四年勅令第二三八號  
廢止昭和四年勅令第三九八號)

九八

### ○諮問事項

- 一、諮問第一號 失業救済施設ニ關スル方策如何
- 二、諮問第二號 勞働組合法制定ニ關スル方策如何
- 三、諮問第三號 小作問題ニ關スル方策如何
- 四、諮問第四號 船員保險法ニ關スル方策如何

### ○諮問第一號 失業救済施設ニ關スル方策如何

#### ○諮問第一號答申要領

- 一、政府ハ少クトモ毎年一回全國重要地方ニ關シ大體大正十四年ニ施行セルカ如キ失業統計調査ヲ行フト共ニ、國勢調査施行ノ都度全國ニ互リ簡單ナル失業調査ヲ併セ行フコト
- 二、職業紹介機關ノ整備充實ヲ期スルコト
- 三、物價金融ノ調節統制ヲ圖ル等、産業界ヲ安定セシムル方途ヲ講シテ、失業ノ發生ヲ防止スルト共ニ進ンテ産業ノ發達、國産ノ獎勵、貿易ノ振興ヲ圖リ、以テ職業供給量ヲ一層豐富ナラシムルニ努ムルコト
- 四、地方的工業ノ發達、農村(漁村ヲ含ム)ニ於ケル副業ノ獎勵、其ノ他農村ノ振興、農村生活ノ改善ヲ圖ル外農閑季殊ニ冬期ニ於ケル農村ノ餘剩勞力利用ノ途ヲ講シ農業土木、山林事業等ヲ興シ、以テ人口ノ都市集中ヲ防止スルト共ニ廣ク人口ノ地域的配分ヲ適正ナラシムル爲、内外移住ノ圓滿ナル發達ヲ期スルコト
- 五、一般失業ノ防止竝ニ新知識階級就職難緩和ヲ圖ル爲職業指導ヲ徹底セシムルト共ニ、教育ノ制度方針ニ關シ講究スルコト
- 六、失業共済施設ノ普及發達ヲ促シ、之カ適當ナル監督助成ノ方途ヲ講スルコト
- 七、我國情ニ適應セル失業保險制度ニ關シ調査ヲ爲スコト
- 八、失業防止ニ備フル失業基金ノ蓄積ニ關シ調査ヲ爲スコト
- 九、失業緩和ノ見地ヨリ勞働年齢、勞働時間、勞働賃銀等ヲ調査スルコト
- 十、産業ノ合理化ヲ行フニ當リテハ過渡的失業トノ關係ヲ考慮シ、其ノ緩和ニ努ムルコト
- 十一、失業ノ原因竝ニ現象ニ就キ充分ナル調査研究ヲ爲スト共ニ、第三項以下ノ諸對策並ニ糞ニ答申セル事業調節方策等ノ實施ヲ圓滑適切ナラシムル爲、綜合的聯絡的ノ常設機關ヲ設クルコト



○諮問第二號 労働組合法制定ニ關スル方策如何

○諮問第二號答申要領

現下ノ社會状態ニ鑑ミ、政府ハ速カニ左記要領ニ依リ労働組合法ヲ制定實施スヘキモノト認ム

記

- 一、組合ハ職業別又ハ産業別ノモノノミニ限ラサルコト
- 二、組合ノ聯合組織ヲ認ムルコト
- 三、法人格取得ヲ組合ノ任意トスルコト、但シ法人タル組合ニ就テハ其法人タルコトヲ、外部ヨリ識別シ得ヘキ方法ヲ講スルコト
- 四、組合員ノ保護ニ關シテハ、左ノ趣旨ノ規定ヲ設ケルコト  
「雇傭者ハ労働者カ組合員タルノ故ヲ以テ、之ヲ解雇スルコトヲ得ス」  
雇傭者ハ労働者カ組合ニ加入セサルコト、又ハ組合ヨリ解雇スルコトヲ雇傭條件ト爲スコトヲ得ス」
- 五、組合カ労働争議ニ因リ雇傭關係上ノ雇傭者ニ損害ヲ生セシムルコトアルモ、組合及其ノ役員等ニ賠償ノ責ナキモノトスルコト

六、組合ノ監督ニ關シテハ左ノ趣旨ニ依ルコト

- (イ) 行政官廳ハ業務若クハ財産ノ狀況、又ハ組合員ノ員數ニ關シ報告ヲ求め得ルコト
- (ロ) 會議ノ決議法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ、行政官廳ハ之ヲ取消シ得ルコト
- (ハ) 組合規約法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ、行政官廳ハ其ノ變更ヲ命ジ得ルコト
- (ニ) 組合ノ行為安寧秩序ヲ紊ルトキハ、主務大臣ハ組合ノ解散ヲ命ジ得ルコト

七、労働協約ニ關スル規定ハ、組合法中ニ之ヲ設ケサルコト

○諮問第三號 小作問題ニ關スル方策如何

○諮問第三號答申要領

近時ニ於ケル農村事情ノ推移竝ニ小作問題ノ趨勢ニ鑑ミ、小作法制ヲ整備スルハ小作問題ノ對策中緊要ノ事項ニ屬ス小作法制ニ關シテハ曩ニ小作調査會ハ大正十五年十月小作法案ノ要綱ヲ答申シ、當局者ハ之ニ基キテ法案ヲ作成公表セリ

ソノ後各方面ヨリ之ニ對スル意見ノ發表セラル、アリ小作事情亦多少ノ變遷ナシトセサルモ、今之ヲ審議スルニ該要綱ハ小作法制ニ關スル極要事項ヲ網羅シ、現時ノ事

第八 社會政策審議會

情ニ鑑ミ内容又妥當ナルヲ以テ、大要ニ於テハ別ニ多ク變改ヲ加フルノ要ヲ認メス仍ツテ政府ヘソノ趣旨ニ依リ速ニ小作法ヲ制定實施スヘキモノト認ム

一〇二

○諮問第四號 船員保險法ニ關スル方策如何

○諮問第四號答申要領

現下ノ船員ノ勞働事情ニ鑑ミ、政府ハ速カニ勞働保險調査會ヨリ答申アリタル要綱ニ依リ、船員保險法ヲ制定實施スヘキモノト認ム

第九 國際貸借審議會

(設置昭和四年勅令第二四〇號  
廢止昭和四年勅令第三九八號)

○諮問事項

諮問第一號 本邦國際貸借改善ノ具體的方策如何

○諮問第一號 本邦國際貸借改善ノ具體的方策如何

○諮問第一號答申要領

第一、輸出補償制度其他

甲 輸出補償制度

國際貸借改善ノ一方策トシテ輸出補償制度ヲ實施シ當業者ニ對スル輸出金融ノ便ヲ講ジ本邦商品ノ新販路ヲ開拓シ以テ輸出貿易ノ振興ヲ圖ル必要アリト認ム

本制度ニ於テ政府ハ爲替銀行ト毎年帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ノ範圍内ニ於テ包括的ノ補償契約ヲ爲シ、本邦商品市場ノ未ダ開拓セラレス取引上特ニ支障アリト認メラルル地方ニ本邦商品ノ輸出ヲ爲スタメ振出サレ

第九 國際貸借審議會

一〇三

タル付替手形ヲ右銀行ニ於テ買取リケル場合其手形ノ支拂ヲ受ケタルコト能ハサルカ爲ニ蒙リタル損失ニ對シ政府ニ於テ或限度ノ補償ヲ爲シ以テ銀行ヲ安シテ之等ノ地方ニ對スル手形ノ買取ヲ爲サシメムトスルモノナリ、而シテ本制度ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ニ於テハ手形振出人等ニ對シ全額ノ償還請求權ヲ行使シ、乙種ニ於テハ一部ノ償還請求權ヲ行使セサルモノトス本制度ノ概要左ノ如シ

甲種補償

一、適用ヲ受クヘキ手形ノ範圍

(イ) 荷付爲替手形、但政府ニ於テ必要アリト認メタルトキハ約束手形ヲモ含マシムルコトヲ得

(ロ) 帝國內(臺灣、朝鮮及樺太ヲ含ム)ニ於テ生産、製造又ハ加工セラレタル商品ニ關スルモノ

(ハ) 商品ノ仕向先カ主務大臣ノ指定シタル地域ニ屬スルモノ

二、補償料

(イ) 銀行ハ補償手形ノ買取ヲナシタルトキハ補償料ヲ政府ニ納入シ其手形買取依頼人ヨリ之ニ相當スル金額ヲ徴スルモノトス

(ロ) 補償料ノ金額ハ手形ノ額面金額(利付手形ニアリテハ満期日迄ノ利息ヲ加算ス)並ニ其期間ヲ基礎トシ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム

D/Aノ場合 年二分

D/Pノ場合 年五厘

尙支拂ヲ延期スル場合ニハ其延期ノ間ニ對シ前記ノ割合ヲ以テ補償料ヲ追徴シD/PヲD/Aニ變更スル場合ニハ各補償料ノ差額ヲ追徴スルモノトス

三、損失補償ノ時期

銀行カ満期日ニ手形ノ支拂ヲ受ケタルコト能ハサルトキハ政府ハ銀行ニ對シ補償ス但手形附屬貨物其他ノ擔保アル場合ニハ之ヲ處分セシメタル後トス

四、損失補償ノ割合

政府ハ補償ヲ受ケ得ヘキ各手形ニ付キ銀行ノ蒙リタル損失ノ七割ヲ補償スルモノトス

前項ノ損失ハ手形ノ額面金額(利付手形ニアリテハ満期日迄ノ利息ヲ加算ス)ニ付キ満期日ニ支拂ヲ受ケルコト能ハサルシ金額トシ、手形附屬貨物其他ノ擔保ノ處分ニ因リテ得タル金額中ヨリ處分ニ要シタル費用ヲ差引キタル殘額及補償前ニ償還請求權ノ行使等ニヨリテ支拂ヲ受ケタル金額ヲ控除スルモノトス

五、各銀行ニ對スル損失補償金額ノ限度

政府ノ各銀行ニ對シ支拂フヘキ損失補償金ノ總額ハ毎年豫メ其銀行ト契約シタル金額ヲ超エサルモノトス

六、償還請求其他

銀行ハ政府ノ補償ヲ受ケタル後手形振出人等ヨリ支拂ヲ受ケタルトキハ其受入金額ヲ補償ノ割合ニ應ジ遲滞ナク政府ヘ納入スルモノトス

償還請求權行使ニ要スル費用カ其行使ニ因リ得ラルヘキ金額ヲ超ユルトキハ政府ノ許可ヲ得テ全部又ハ

第九 國際貨幣會議

一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

乙種補償

一、適用ヲ受クヘキ手形ノ範圍

(イ) 政府ノ承認ヲ經タル輸入者ヲ手形支拂人トシ其注文ニ對シ一定ノ資格ヲ有スル者ノ振出シタル荷付爲替手形(振出人ト支拂人ト同一ナルモノヲ除ク)、但政府ニ於テ必要アリト認メタルトキハ約束手形ヲモ含マシムルコトヲ得

(ロ) 帝國內(臺灣、朝鮮及樺太ヲ含ム)ニ於テ生産、製造又ハ加工セラレタル商品ニ關スルモノ

(ハ) 商品ノ仕向先カ主務大臣ノ指定シタル地域ニ屬スルモノ

二、補償料

(イ) 銀行ハ補償手形ノ買取ヲシタルトキハ補償料ヲ政府ニ納入シ其手形買取依頼人ヨリ之ニ相當スル金額ヲ徴スルモノトス

(ロ) 補償料ノ金額ハ手形ノ額面金額(利付手形ニアリテハ満期日迄ノ利息ヲ加算ス)竝ニ其期間ヲ基礎トシ左ノ割合ニ依リテ定ム

D/Aノ場合 最初ノ一ヶ月ニ付三分二厘(其後一ヶ月ヲ増ス毎二月四厘ヲ加フ)

D/Pノ場合 最初ノ一ヶ月ニ付八厘(其後一ヶ月ヲ増ス毎二月一厘ヲ加フ)

三、損失補償ノ時期

銀行カ満期日ニ手形ノ支拂ヲ受クルコト能ハサルトキハ政府ハ銀行ニ對シ補償ス但手形附屬貨物アル場合ニハ之ヲ處分セシメタル後トス

四、損失補償ノ割合

政府ハ補償ヲ受ケ得ヘキ各手形ニ付キ銀行ノ蒙リタル損失ノ六割ヲ補償スルモノトス

前項ノ損失ハ手形ノ額面金額(利付手形ニアリテハ満期日迄ノ利息ヲ加算ス)ニ付キ満期日ニ支拂ヲ受クルコト能ハサルシ金額トシ、手形附屬貨物ノ處分ニ因リテ得タル金額中ヨリ處分ニ要シタル費用ヲ差引キタル殘額ヲ控除スルモノトス

五、各銀行ニ對スル損失補償金額ノ限度

政府ノ各銀行ニ對シ支拂フヘキ損失補償金ノ總額ハ毎年豫メ其銀行ト契約シタル金額ヲ超エサルモノトス

六、償還請求其他

銀行ハ損失金額ノ四割迄手形振出人等ニ對シ償還請求ヲ爲シ得ルモノトス

銀行ハ政府ノ補償ヲ受ケタル後手形支拂人等ヨリ支拂ヲ受ケタルトキハ其受入金額ヨリ其取立ニ要シタル費用ヲ控除シ其殘額ヲ左ノ方法ニ依リ處分スルモノトス

(イ) 銀行カ手形振出人等ヨリ全額ノ償還ヲ受ケ居リタル場合

六割ヲ政府ニ、四割ヲ手形振出人等ニ返還ス

(ロ) 銀行カ手形振出人等ヨリ一部ノ償還ヲ受ケ居リタル場合

第九 國際貨借審議會

ニ先ツ銀行ノ損失ヲ填補シ尙殘額アリタルトキハ其殘額ヲ政府ヨリ補償ヲ受ケタル金額ト手形振出人等ヨリ償還ヲ受ケタル金額トノ割合ニ依リ之ヲ政府及手形振出人等ニ返還ス

(ハ) 銀行カ手形振出人等ヨリ償還ヲ受ケ居ラザリシ場合  
先ツ銀行ノ損失ヲ填補シ尙殘額アリタルトキハ之ヲ政府ニ返還ス

乙 船舶金融

國際貸借改善ノ一方策トシテ本邦商船ノ素質ノ改善ヲ促シ以テ我海運ノ振興ヲ圖ル爲船舶金融ニ關スル施設ヲ爲スノ必要アリト認ム

右施設スヘキ船舶金融ノ要綱左ノ如シ

- 一、日本興業銀行ヲシテ興業債券ノ發行ニ依ル資金ヲ以テ低利ノ貸付ヲ爲サシムルコト
- 二、貸付ヘ左記ニ依ルコト
  - (イ) 目的 造船資金ノ融通
  - (ロ) 年限 十五年以内ノ年賦償還但シ其ノ期間内ニ於テ二年以内ノ据置期間ヲ定ムルコトヲ得
  - (ハ) 擔保 製造セララルル船舶(製造中ノ船舶ヲ含ム)ニ第一順位ノ低當權ヲ設定ス但シ製造中ノ船舶カ竣工スル迄ハ一時他ノ船舶又ハ其ノ他ノ物件ヲ擔保トスルコトヲ得
  - (ニ) 擔保價格 抵當タル船舶ノ價格ノ三分ノ二以内ニシテ且保險金額ノ五分ノ四以内
- 三、貸付ヲ受クル者ノ資格

帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若クハ株主トスル會社ニシテ海運業ヲ營ム目的ヲ以テ内地ニ於テ船舶ヲ製造スル者トス

老齡船ノ解撤ヲ條件トスル者ニ對シテハ可成優先的ニ取扱フコト

四、製造セララルル船舶ノ制限

總噸數五千噸以上半載速力一時間十四海里以上ノ鋼製貨物船ニ限ルコト

五、政府ノ補給

政府ハ日本興業銀行ヲシテ低利ノ貸付ヲ爲サシムル爲毎年帝國議會ノ協贊ヲ經タル範圍内ニ於テ日本興業銀行ニ對シ相當ノ補給ヲ爲スコト

六、日本興業銀行以外ノ者ト雖モ政府ノ承認ヲ得テ前記條件ノ下ニ貸付ヲ爲サムトスル場合ニハ政府ヘ之ニ對シ前項ノ補給ヲ爲スコト

希望條件

本案ニ依リ製造セララルル船舶ハ遠洋航路ニ使用スルヲ目的トスルモノナルヲ以テ之カ近海航路ノ割込ニ付適當ノ制限方法アラハ實行上相當考慮スルコト

丙 貿易行政機關ノ統制

國際貸借ノ改善ヲ圖ル爲輸出貿易振興ニ必要ナル施設ヲ考究スルニ當リ有力ナル貿易行政機關ヲ設ケテ統制アル行政ヲ行ハシムルコト緊要ナルヲ以テ貿易行政ノ中樞機關ヲ設置シ各省ニ分屬スル貿易關係事務ノ統制聯

絡ヲ圖ラシムル必要アリト認ム

右貿易行政ノ中樞機關ニ於テハ左ノ事務ヲ管掌セシム

- 一、貿易行政事務ノ統制聯絡ニ關スル事項
- 一、海外貿易事情ノ調査及通報ニ關スル事項
- 一、海外ニ於ケル輸出品ノ宣傳販路ノ擴張ニ關スル事項
- 一、其他貿易ノ振興助長ニ關スル事項

貿易行政事務ノ統制聯絡ニ付テハ貿易中樞機關ニ參與ヲ置キ關係各省ノ關係官ヲ以テ之ニ充テ之ニ依リテ其ノ統制聯絡ヲ圖ルモノトス

丁 外客誘致ニ關スル件

國際貸借改善ノ一方策トシテ外客誘致ノ必要ナルコトハ諸外國ノ實例ニ徵スルモ疑ヲ容レサル所ナルヲ以テ政府ニ於テ此ノ際左記要綱ニ依リ外客誘致施設ノ整備充實ヲ圖ラレンコトヲ望ム

- 一、政府部内ニ中央機關ヲ設置シ外客誘致ニ關スル施設ノ統一、連絡及促進ヲ圖ルコト
- 二、右中央機關ノ諮問機關トシテ官民合同ノ委員會ヲ設置スルコト
- 三、差當リ左記事項ヲ實施スルコトトシ政府ハ之ヲ遂行ニ付必要ナル援助ヲ與フルコト
- (イ) 北米、歐洲、太平洋沿岸諸邦等ニ順次我國ノ紹介宣傳ヲ行フコト
- (ロ) 我國特有ノ文物又天然ノ風光ヲ保存維持スルト共ニ遊覽地ノ開發改善ヲ圖ルコト

(ハ) 宿泊設備及交通機關ノ充實改善ヲ圖ルコト  
 (ニ) 外人旅客ニ接スル旅館業者等ヲ誘致シ且外客ノ遊覽視察上ノ便宜ヲ増進スルコト

第二、一般の答申

本審議會ハ八月開會以來政府ノ諮問ニ對シ已ニ輸出補償制度、船舶海運金融ノ施設、貿易行政中樞機關ノ設置並ニ外客誘致ノ方策ニ付答申スル所アリタリ然レトモ國際貸借改善ノ方策ハ固ヨリ之ヲ以テ盡キタリトスヘカラス輸入防退、輸出ノ獎勵、貿易外收入ノ増進等ニ付講スヘキ具體的方法尙幾多存スヘキモ之ヲ一般經濟的方面ヨリ論スレハ畢竟公私經濟ノ緊縮、能率ノ増進、産業ノ合理的發達ヲ促スト共ニ通貨ノ適當ナル調節、生産費ノ低下ヲ圖ルコト最モ肝要ナリ然ルニ之等ノ方策ニ付更ニ本審議會ニ於テ個々ノ成案ヲ具シテ豫定期間内ニ之ヲ答申スルハ事實困難ナルヲ以テ政府ハ此見地ニ於テ引續キ調査研究ヲ重ネ以テ其ノ實現ヲ期セラレンコトヲ望ム

# 第十、臨時産業審議會

(設置昭和五年勅令第三號  
廢止昭和十年勅令第三四號)

一一三

## ○諮問事項

諮問第一號 時局ニ鑑ミ我經濟界立直シノ爲企業ノ統制ヲ必要トスル産業並其統制ノ方策如何

諮問第二號 製品ノ規格統一及單純化其他生産技術及管理經營方法等ノ改善ニ依ル能率増進ノ徹底的實行ヲ期スル方策如何

諮問第三號 産業合理化ノ實行上特ニ施設スヘキ産業金融改善ノ方策如何

諮問第四號 國産品愛用ノ普及徹底ヲ期スル爲採ルヘキ方策如何

○諮問第一號 時局ニ鑑ミ我經濟界立直シノ爲企業ノ統制ヲ必要トスル産業並其統制ノ方策如何

○諮問第三號 産業合理化ノ實行上特ニ施設スヘキ産業金融改善ノ方策如何

## ○諮問第一號及第二號答申要領

### 第一、中小工業ノ統制ニ關スル事項

一、企業統制ハ重要輸出品ニ限ラス一般重要工業品ニ及ホスヲ適當トス

二、企業統制ノ機關ハ工業者ノ組合團體ニ據ルヲ可トス

三、工業組合ノ組織ノ大綱ハ左ノ如クスルヲ適當トス

(イ) 工業組合ハ任意加入ノ組織トシ企業統制ノ必要アル場合ニハ其ノ統制ニ必要ナル事項ニ限り組合員外ニモ取締制限ヲ及ホシ得ルコト、スルコト

右ニ付テハ現行重要輸出品工業組合法第八條ヲ修正シテ其ノ趣旨ノ徹底ヲ圖ルコト

(ロ) 工業組合制度ノ適用ヲ認ムヘキ重要工業品ノ範圍ハ主務大臣之ヲ指定スルコト

(ハ) 工業關係同業組合ヲ今直チニ整理解散スルコトハ困難ナルヲ以テ工業組合員ハ同業組合ニ加入セス又ハ之ヨリ脱退スルコトヲ得セシメ漸次同業組合ノ整理ヲ爲スコト

(ニ) 全國的統制機關ハ工業組合聯合會ヲシテ之ニ當ラシムルコト而シテ同聯合會ハ原則トシテ同種ノ工業組合ヲ以テ組織スルモ特別ノ事由アルトキハ工業組合ニ非サル工業者モ之ニ加入シ得ル途ヲ拓クコト

### 四、企業統制ヲ徹底セシムル方法

尙工業組合ノ中小工業ニ對スル統制ヲ徹底セシムルカ爲ニハ左ノ諸點ニ付考慮ヲ拂フノ要アリト認ム

(イ) 工業組合ノ地區内ニ於テ生産ニ係ル重要工業品ハ國營検査品(道府、縣營検査品ヲ含ム)ヲ除キ當該工業組合又ハ工業組合聯合會ノ検査ヲ受クルニ非サルヘ之ヲ輸出スルコトヲ得サラシムルコト

### 第十、臨時産業審議會

一一三

右重要工業品ノ範圍ハ主務大臣之ヲ指定スルコト

- (ロ) 同業者ノ不正不當ナル競争ヲ防止シ企業ノ統制ヲ圖ル爲組合法中取締規定ヲ設ケ法規定款違反者ニ對シ有  
效ニシテ且ツ適當ナル制裁ヲ加フルコト
- (ハ) 新製品ノ保護ノ爲例ヘハ組合ニ於テ意匠登録ヲ爲スカキ或ハ組合員ノ製品ニ對スル責任ヲ確立スル爲メ  
製造者又ハ組合ノ商標ヲ使用スルコト等ハ企業統制ヲ確保スル上ニ於テ望マシキコトナルモ差當リ組合ノ自  
治的施設ニ委スルヲ可トス進ミテ法令ヲ以テ類似品ノ製作ヲ取締リ商標ノ貼附ヲ強制シ若ハ其ノ除去ヲ取締  
ルカ如キハ不正競争ニ關スル一般法制ヲ樹立スル際考究スルヲ適當トス

第二、中小工業ノ金融改善ニ關スル事項

- 中小工業ノ金融改善ノ方策トシテハ各種ノ事項ヲ學クルコトヲ得ヘシト雖結局難然タル中小工業ノ金融ハ其ノ  
同業者協同ノ組合ヲシテ之ニ當ラシムルヲ最モ適當トス而シテ此ノ組合ニ依ル資金融通ヲ圓滑ナラシムル爲ニハ  
前記ノ如ク組合制度ヲ整備スルト共ニ更ニ金融上左ノ施設ヲ講スルコトヲ要ス
- 一、工業組合ノ事業ノ範圍ヲ製品ノ検査取締及事業經營上ノ制限、共同設備、共同購入、共同販賣等ノ外組合員  
ノ貯金ノ取扱、産業資金ノ貸付、組合員ノ資金借入ニ對スル保證業務、倉庫事業等ニモ及ホスコト
- 二、工業組合ノ擔保力ヲ増ス爲メ左ノ方法ヲ講スルコト
  - (イ) 共同設備ヲ一層獎勵スルコト
  - (ロ) 組合ノ責任ヲ擴張シ、組合員ヲシテ出資額ノ外一定ノ保證責任ヲ負ハシムル組合組織ヲ認ムルコト

第三、政府ニ於テモ更ニ金融上左ノ施設ニ付考慮ヲ拂フコト

- (イ) 工業組合中央金庫ヲ設クルコト
  - (ロ) 特殊銀行ヲシテ特ニ中小工業ノ金融ヲ便ナラシムルコトヲ目的トスル特別ノ機關ヲ設ケシムルコト
- 希望意見

一、複雑ナル現行組合制度ヲ整理スルコト

(前掲第一、三、參照)

二、組合制度ニ依リ金融其ノ他各種ノ共同事業ヲ行ヒ企業ノ統制ヲ爲スニ當リテハ之ノ效果如何ハ其ノ運用ノ  
術ニ當ル組合理事者ノ如何ニ係ルヲ以テ組合理事者選任ニ付テ充分ノ注意ヲ拂フト共ニ組合ノ事業執行ニ關  
シ指導監督ヲ勵行スルコト

第三、造船業ノ統制ニ關スル方策

歐洲大戰ニ際シ異常ノ膨張ヲナシタル我造船業ハ其ノ後海運界ノ不況ニ伴ヒ漸次整理セラレタルモノアリト雖  
尙其ノ設備ノ需要ニ超過スル程度鮮少ナリトセス殊ニ今次倫敦海軍會議ニ於ケル海軍々備縮少ヘ之等造船所ノ基  
礎的註文ノ上ニ多少ノ減少ヲ豫期セラルルノミナラス現時ノ海運界ノ市況ヲ以テシテハ多數ノ造船註文ヲ是亦期  
待シ得ス從ツテ巨額ノ投資ヲ包有スル之等大造船所ノ統制ハ此ノ際最モ考慮ノ要アルヘシ  
將來ニ於ケル我造船所ノ期待シ得ヘキ註文ヲ如何ニ推定スヘキヤハ本問題解決ノ根本ナルヲ以テ先ツ之ヲ推算ヲ  
爲サムニ



二、各造船所ノ大體ノ基礎的註文タル海軍ノ註文ハ海軍側幹事ノ説明ニヨレハ將來モ亦從前ノ如ク大體新造艦船ヲ二分シ一半ハ海軍工廠ニ一半ハ民間ニ註文ノ方針ヲ變用シ其ノ民間註文年額豫想ハ目下海軍當局ニ於テ考充中ノ新補充計畫ノ確定セシ後ニ非サレハ確カナラサルモ大體從來ノ額ニ比シ多少ノ減少ヲ見ルヘク本委員會ノ審議進行上必要トセラルルニ於テハ大凡一万二千五百排水量噸見當ヲ標準トスルモ大過ナカルヘシトノコトナルヲ以テ右排水噸ヲ商船ノ工事手間ニ換算スレハ約商船五万總噸之ニ各工廠ヨリ註文サルヘキ雜工事ヲ加フレハ約二千四百万圓程度ノ工事量ト推定スルヲ得ヘシ

三、民間商船ノ註文ハ從來不況ニ際シテモ最低年五万總噸餘ノ註文ノ存シタルニ鑑ミ一年六万總噸程度ノ註文ノ存スルモノト推定シ貨客船ツキ交セ其ノ總船價ハ二千万圓程度ト推定セラル

四、陸上工事ハ各造船所ノ兼業セル年額二千万圓ノ註文アルモノト推定セラル

而シテ現在ニ於ケル各造船所ノ造船設備ハ右各項ノ工事量ニツキ甚ク過大ナリト謂ハサルヲ得ス、又造船臺ノ現數ハ七十七ナルモ右ノ内一昨年乃至本年ノ間ニ於テ使用シタルモノヲ計算スルニ其ノ數約三十五臺ニシテ假リニ右三十五臺ノ造船臺カ一年ヲ通シ旅客船貨物船取交セ六千總噸ヲ造船スルトキハ其ノ總數二十一萬噸ニ達シ推算噸數ニ比シ約十萬總噸ノ超過ヲ示ス然ラハ假リニ右推算噸數ヲ建造スルニ幾臺ノ造船臺ヲ要スヘキヤト云フニ多少ノ餘裕ヲ見ルモ尙二十臺ヲ以テ十分ナルヘシ即前記三十五臺現存總數七十七臺ハ設備過剩ナリト云ハサ

ルヘカラス

以上ノ如ク我造船工業ノ設備能力ハ尠クトモ現在ニ於テハ船舶建造ノ註文量ニ比較シテ過大ナルノミナラス近キ將來ニ於テモ我船舶ノ建造噸數ハ増加スヘキ可能性ニ乏シキモノト云ハサルヘカラス之ヲ現狀ノ儘ニ放置スルニ於テハ自由競争ノ結果結局小會社ハ自然ニ淘汰セラレ優良會社ノミカ適當ナル造船能力ヲ保持シテ存続スルニ至ルヘキ道理ナリト雖如斯結果ニ到達スル迄ニハ相當ノ時日ノ經過ヲ要スルモノアリ且其ノ間當業者間ノ無用ナル競争ノ爲ニ業界ヲ一層混亂セシムルノ虞アルヘシ故ニ需給ノ調節ヲ適當ナラシムル爲ニ斯業ノ整理ヲ斷行シ以テ斯業ノ基礎ヲ健實ナラシムルノ要アリ又外國ノ事例ヲ見ルニ例ヘハ斯業ノ先進國タル英國ニ於テモ造船業ノ過剩設備ヲ整理スルト同時ニ斯業ノ經營ヲ最合理的ナラシメ出來ル丈生産原價ヲ引下クルコトニ努メツツアル現狀ナリ故ニ國際經濟競争場ニ於テ列國ト伍スルカ爲ニモ此ノ際我造船業ノ設備能力ノ整理ヲ斷行シ事業ノ經營ヲ合理的ナラシメ生産原價ヲ出來ル丈國際的水準線マテ引下クルコト最必要ナリト認ム之カ具體的方策ニ至リテハ固ヨリ一ニシテ足ラサルヘク政府ニ於テモ關係官廳ヲシテ充分調査考査セシムルノ要アリト雖試ニ其ノ一二ノ方法ヲ示スニ左ノ如シ

第一案

(イ) 各造船業者ノ合同ヲ斷行スルコト、斯クテ比較的能率惡キ工場ヲ閉鎖整理シ優良ナル工場ニ事業ヲ集中シ斯業ノ能率ヲ著ク増シ國際經濟市場ニ於ケル競争力ヲ高ムルコトヲ得ヘシ然レトモ各造船會社ハ各々成立ノ沿革ヲ異ニシ資本關係其ノ他複雑ナル事情ノ爲ニ實際問題トシテ造船會社ノ大合同ヲ困難ナリトセハ比較的

利害關係ヲ同シウスル業者ノミカ或ハ地方的ニ一團トナリテ出來ル限リニ於テ合併ヲ促進スルコト必要ナリ  
(ロ) 造船會社カ地方的ニ合同シニツ以上ノ少數ノ事業主體ノ實現ヲ見ルニ至ル場合ニ於テモ其ノ相互ノ間ニ於  
テハ事業經營ニ關シテ或種ノ聯合協定ヲ爲スコト

第二案

- (イ) 各造船會社ノ出資ニ依リ造船業ノ共同經營ヲ目的トスル一ノ會社ヲ創設スルコト
- (ロ) 此ノ新會社ニ對シ各造船所ハ其ノ造船設備其ノ他ノ工場設備ノ全部又ハ一部ノ信託ノ讓渡ヲ爲スコト、之  
ニ對シテ新會社ハ一定割合ヲ以テ其ノ會社ノ株式ヲ參加會社ニ交付スルコト、株式ヲ割當ツル一定ノ標準  
ヲ定ムルコトハ實際問題トシテハ容易ナラサルヘシト雖各參加會社ノ工場ノ敷地、設備、從來ノ營業成績株  
式ノ市價等各種ノ事項ヲ參酌シテ之カ標準ヲ見出スコトハ不可能ニ非サルヘシ
- (ハ) 新會社ハ各參加會社ノ造船設備等ヲ一手ニ引受ケ一ノ企業主體トシテ營業スルコトト爲ルヲ以テ自然比較  
的能率悪シキ工場ハ之ヲ閉鎖シ優良工場ニ事業ヲ集中スル等適當事業ヲ各造船工場ノ間ニ按配スルニ至ルヘ  
キコト而シテ利益アリタルトキハ參加會社全體ニ一定ノ割合ヲ以テ之ヲ分配スルコト
- (ニ) 各參加會社ハ從前ノ如ク依然トシテ存續スルコト、此ノ場合ニ於テ各會社ハ新會社トノ信託契約ノ如何ニ  
依リ單ニ新會社ノ株ヲ所有スルニ止ルコトアルヘク又ハ從來ノ事業ノ一部ヲ行フコトモアルヘシ

第三案

- (イ) 各造船會社ヨリ其ノ營業ノ委託經營ヲ引受クル目的ヲ以テ各造船會社ノ出資ニ依リテ一ノ會社ヲ創設スル  
コト、理論上ハ必シモ新會社ノ設立ヲ必要トセス既存會社中ノ一社ヲ選定シテ之ニ當ラシムルモ妨ナシト雖  
實際上新會社ヲ設立スル方實行容易ナルヘシ
- 本案ノ目的トスル處モ能率低キ工場ヲ閉鎖シ優良工場ニ事業ヲ集中セシムル等適當ニ各造船工場ニ事業ヲ按  
配スルニ存スルヲ以テ第二案ト趣旨ニ於テハ大差ナシ唯其ノ異ル點ハ主トシテ法律的構成ノ如何ニ存スルモ  
ノト謂フヘシ
- (ロ) 本案ノ法律上ノ構成ヲ各參加會社ノ物的設備及營業權ノ貸借トスルヤ或ハ其ノ事業經營ノ委任契約トス  
ルヤニ就テハ實行ニ當リテ更ニ考究スルコト、其ノ何レノ形式ヲ採ルヤニ依リテ利益分配ノ方法モ異ルヘシ  
ト雖要スルニ經營受託會社ノ學クル利益ヲ一定ノ割合ヲ以テ各參加會社ニ分配スルモノトス其ノ利益分配ノ  
標準如何ハ第二案ニ於ケル持分ノ割合ヲ定ムルト同様ノ趣旨ニ依リテ之ヲ決定スルヲ得ヘシ

以上ノ案ノ實現ヲ期スルカ爲ニハ當業者自身トシテモ自己ノ利害ノミニ拘泥スル所ナク斯業全局ノ利益ノ上ヨ  
リ互讓ノ精神ノ下ニ事業ノ整理ト能率ノ増進ヲ圖ルノ一大覺悟ヲ必要トスヘシ又造船業ニ對シ從來直接間接ノ利  
害關係ヲ有スル債權者及金融業者等ニ於テモ斯業ノ統制ノ必要ヲ諒解シ舊債ノ整理、新資金ノ融通等ニ付キ適當  
ノ援助ヲ惜マサルカ如キハ最緊要ナリト謂フヘシ政府ニ於テモ相當ノ施設ヲ爲スノ要アルヘキハ言フ俟タサル所  
ニシテ之カ方策種々アルヘシト雖就中左ニ掲ケル事項ノ如キハ最急施ヲ要スルモノト認ム

(イ) 軍艦ノ建造ニ當リテハ年々相當ノ噸數ヲ民間造船所ニ註文スル從來ノ例ナルヲ以テ今後政府カ其ノ註文ヲ  
爲スニ當リテモ斯業ノ統制ヲ助長促進セシムル意味ヲ以テ相當ナル考慮ヲ拂フコト

(ロ) 我國ニ於ケル船舶ノ素質ヲ改善シ新船ノ建造ヲ盛ニスルノ方針ヲ以テ老齡船ノ輸入ヲ事實ニ於テ制限スル  
コト、之ヲ具體的ノ方策トシテハ船齡ニ應ジ老齡船ニ對スル輸入税率ノ引上其ノ他適當ナル方法ヲ採ルコト  
ニハ實際問題トシテ適切ナラム

(ハ) 造船獎勵金ヲ下附スルコト、現在内外造船價格ノ上ニ相當差異アルノ事實ニ鑑ミ將來之ヲ同等ノ價格ニ導  
クコトヲ目途トシテ造船獎勵金ヲ下附スルコト極メテ時宜ニ適シタル措置ナルヘシ

其ノ他一般ニ船舶金融ノ施設ニ付テモ新船ノ發達ヲ期スル爲本項ト關聯シテ更ニ考慮ヲ拂フ要アルヘシ

(ニ) 個々ノ造船工場ニ付テハ整理セラレタルモノノ内他ノ新工業ニ轉換スルノ餘地アルモノアラハ之ヲ轉換ヲ  
助成セシムル爲適當ノ方法ヲ講スルコト

(ホ) 尙造船業ノ整理ヲ促進セシムル意味ニ於テハ登録稅ノ減免ニ付キ考慮スルコト

第四、製鐵業統制ニ關スル方策

製鐵事業ノ産業上ノ重要性並ニ新業内外ノ現勢ニ鑑ミレハ速ニ之ヲ統制ノ方策ヲ確立シテ其ノ發展ヲ促進スル  
ノ要アリ

而シテ我國製鐵事業ノ實狀ヨリ考フルニ其ノ事業ヲ振興シテ外品ノ輸入ヲ防遏シ尙進ミテ輸出方面ニ進展スル  
カ爲ニハ八幡製鐵所及民間製鐵所ヲ打テ一丸トセル大合同會社ヲ設立シ其ノ完全ナル統制ノ下ニ徹底ノ合理化ヲ  
圖リ單種多産ニ依ル原價ノ低下ト品質ノ向上トニ努ムルト共ニ設備ノ改良擴張ヲ行フノ外適當ナル方策アルヲ見  
ス依テ速ニ左記要綱ニ依ル合同ノ具體案ヲ作成シ其ノ實現ヲ圖ルヲ以テ刻下ノ急務ナリト認ム

記

一、八幡製鐵所並ニ銑鐵又ハ普通鋼材ノ製造ヲ主タル目的トスル製鐵會社ヲ合同シテ一個ノ製鐵會社ヲ設クルコト

二、合同ニ參加スル會社ハ各其ノ資産ヲ提供シテ出資ニ代ヘ其ノ評價額ニ相當スル新會社ノ株式交付ヲ受クルモ  
ノトス八幡製鐵所ノ現物出資ニ對スル株式ハ政府ノ持株トス

三、前項ノ評價ヲ行フニ當リテハ豫メ嚴正ナル標準ヲ設ケ適當ナル評價委員會ノ議ヲ經テ之ヲ決定スルコト

四、關稅定率法ヲ改正シ本邦製鐵業ノ確立ヲ可能ナラシムルコト

五、新會社カ運轉資金並ニ設備ノ改良又ハ擴張資金ヲ必要トスル場合ハ之ヲ調達ヲ可能ナラシムル爲政府ハ適當  
ナル方策ヲ講スルコト

六、新會社ノ經營ハ之ヲ民營トシ政府ハ之ニ對シ適當ノ監督權ヲ行使スルコト

尙合同會社ノ設立ニ關シテハ之ニ要スル國稅及地方稅ヲ免除シ合同ノ助成ニ努ムルト共ニ合同後ノ會社ノ事業  
目論見及收支計算ハ豫メ之ヲ明瞭ナラシメ又出資財産ノ評價ニ關シテハ諸般ノ事情ヲ考察シテ最慎重ニ之ヲ行ヒ  
合同ノ圓滿ナル遂行ニ遺憾ナキヲ期スルノ要アルモノト認ム

○諮問第二號 製品ノ規格統一及單純化其ノ他生産技術及管理經營方法等ノ改善ニ依ル能率増進ノ徹底ノ實行ヲ期ス  
ル方策如何

第十 臨時產業審議會

○諮問第二號答申要領

能率増進ノ徹底ノ實行ヲ期スルノ方策ハ頗ル多岐ニ互ルト雖差當リ左ノ事項ハ我産業界ノ現状ニ鑑ミ急務ヲ要スルモノト認ム

一、製品ノ規格統一

製品ノ規格統一ニ就テハ從來政府ニ於テモ相當施設セラルトコロアリト雖未タ一般ニ之カ普及ヲ見ルニ付遺憾ノ點尠カラス依テ政府ハ有力ナル民間當業者團體又ハ學會等ト協力シ規格案ヲ作成スルト共ニ其ノ普及ヲ徹底セシムル爲メ製造業者、消費者其ノ他民間團體等ヲ以テ規格普及ヲ目的トスル協會ヲ組織セシムル等適切ナル方法ヲ講スルコト

二、單純化

單純化ニ關シテハ製造業者、販賣業者、消費者其ノ他利害關係者ヲ以テ特別ナル調査機關ヲ組織シ商品、容器類ノ品種、帳簿證券類ノ様式、各種取引單位等ニ付急務ヲ要スルモノヨリ順次之方單純化ヲ決定スルコト而シテ其ノ決定セル品種、様式若ハ單位ハ廣ク各種ノ民間團體ヲ利用シ其ノ實行ノ普及ヲ圖ルコト

三、官廳購買ノ統制

官廳ハ國家最大ノ需要者タルノ事實ニ鑑ミ其ノ用品ノ規格ノ統一及品種ノ單純化ヲ圖ルハ一般ニ製品ノ規格統一及單純化ノ普及ヲ促進スル上ニ於テ極メテ必要ナリト認ム又契約書式及入札書式類ノ統一等ヲ圖リ其ノ事務ノ實際ヲ改良スルノ要アルノミナラス更ニ進ミテハ各官廳間ノ購買ヲ連絡統制シ又ハ共同購入ヲ促進スルカ如キモ

最も緊要ナル施設ト認ム依テ政府ハ各官廳ノ代表者及學識經驗アル者ヲ以テ一ノ委員會ヲ組織シ以上ノ官廳購買ノ統制ニ關スル種々ノ方策ニ付調査考究スルコト

四、從業者教育ノ改善

産業ニ従事スル者ノ教育ノ改善ハ産業ノ振興ヲ期スル上ニ於テ最も必要ナルコト勿論ナリト雖特ニ我國ノ現状ニ鑑ミ從業者ヲシテ能ク産業ノ眞精神ヲ理解シ勞資共榮ノ實ヲ事ケシムルト共ニ實際的技術ヲ會得セシムルノ要アリ依テ右ノ點ニ關シ適切ナル方法ヲ講スルコト

五、科學的管理法ノ徹底

科學的管理法ニ關スル具體的細目ハ頗ル多岐ニ互ルト雖現下我國産業ノ實情ニ徴シ最も適切ナル方法ヲ採用スルコトヲ主眼トシテ各種資源ヲ科學的、經濟的ニ利用スルト共ニ從來ノ傳統的方法ニ拘束セラルルコトナク技術、經營ノ方法竝ニ組織ニ互リ合理的ニ材料、勞務ノ最高能率ヲ發揮スルコトヲ期スルコト最も緊要ナリ依テ之カ方法ニ付調査考究スルコト

六、需給ノ調節並ニ配給及消費經濟ノ改善

科學的方法ニ依リ豫測セラルル需要ニ應シテ各種ノ生産設備等ヲ適當ニ整理シ以テ生産ト消費トノ均衡ヲ圖ルコトハ實ニ産業合理化ノ根本眼目ヲ爲スモノナリ而シテ配給ニ付テハ其ノ経路ヲ整備スルト共ニ一般ノ消費經濟ニ關シテハ各種ノ無駄ヲ排除シ生活ヲ合理的、計畫的ニ規律スルノ餘地アルヘシ要スルニ國民經濟的見地ヨリシテ以上ノ諸點ニ關シ改善ヲ要スヘキトコロ多キヲ以テ之ニ付適切ノ方法ヲ講スルコト

以上ハ能率増進ノ方策ノ二三ヲ掲クルニ止リ其ノ具體的細目ニ付テモ更ニ考究スルノ要アリト認ム抑能率増進ノ徹底的實行ヲ期スル爲メニハ企業ノ合成聯合ニヨリ多量單種生産、工業ノ分業化優秀工場ノ集中化等ニヨリ招來スヘキトコロ最モ多ク殊ニ教育、交通、金融ノ各方面ニ互ル諸般ノ施設ト關連ストコロ大ナリトス故ニ官民産業機關ノ各般ニ互リ協力シテ調査研究ト指導トヲ圖ルノ要アルヲ以テ各産業機關ノ連絡統制ト指導厚生トヲ圖ル中央ノ調査審議機關ヲ設ケ關係各官廳ニ於テ從事スヘキ産業合理化ノ實行ニ資シ民間産業ノ統制ト能率ノ増進ヲ期スルモノヲラシムルノ要アリト認ム故ニ政府ハ速カニ其ノ施設ヲ爲スト共ニ政府部内ニ實行機關ヲ急設シ左ノ點ニ付特ニ留意セラレントラ望ム

- 一、諸般ノ調査實行ハ迅速ニ遂行シ得ル様實行機關ノ組織、權限及經費ヲ整備スルコト
  - 二、實行機關ノ中樞ニハ民間各方面ノ學識經驗アル者ヲ参加セシムルコト
  - 三、重要ナル事項ニ付テハ各事項別ニ常設ノ調査委員會ヲ設クルト共ニ必要アルトキハ各業種別ニ臨時ノ調査委員會ヲ設クルコト右調査委員會ニ於テハ主トシテ實際家ヲシテ調査立案ニ當ラシムルコト
- 又能率増進乃至産業合理化ノ徹底的實行ハ要スルニ我國民經濟ノ根本的立直シヲ目標トスルモノナルヲ以テ之ニ處スルニ當リテハ官民共ニ精神の準備ヲ必要トス即各種産業相互間乃至各從業者互ニ協同的精神ヲ以テ行動スヘク自己一部ノ努力ハ國民經濟全般ノ利益ニ合致スルヲ要ストノ自覺ニ徹底シ會社經營ノ術ニ當ルモノハ常ニ公益ヲ念トシ資産ノ銷却、利益ノ保留、積立等ニ關シ合理的基礎ノ下ニ經營スルノ要アリ從テ政府ニ於テモ稅法及商事規定ノ改正ニ付特ニ考慮ヲ加ヘラルルコトヲ最モ緊要ナリト認ム

○諮問第四號 國産品愛用ノ普及徹底ヲ期スル爲採ルヘキ方策如何

○諮問第四號答申要領

我國ニ於ケル工業ハ歐米先進國ノ工業ノ移植又ハ模倣ニ因リ發達シタルモノ多ク從テ一般ニ輸入品ヲ尊重スルノ傾向ヲ馴致シタルコト亦已ムヲ得サルトコロナリ然リト雖既ニ我國工業モ相當發達シ國産品中品目ニ依リテハ輸入品ニ比シ品質及價格ノ上ニ於テ毫モ遜色ナキモノ多キ今日ニ在リテモ因襲ノ久シキ尙未ク盲目的ニ輸入品ヲ以テ國産品ヨリモ優良ナリトスル風習牢固トシテ拔ケサルモノアリ右ノ弊風ヲ打破スル爲從來政府ニ於テモ國産品ノ使用獎勵ニ關シテハ相當施設スルトコロアリト雖我國經濟界ノ現狀ニ鑑ミ之ヲ一層徹底セシムル必要アリ左ノ事項ハ之カ爲差當リ急務ヲ要スルモノト認ム

一、優良國産品ノ選定

國産品ノ使用普及ヲ圖ルニ當リテハ現ニ我國産品中品質及價格ニ於テ外國品ニ劣ラス十分之ニ代用シ得ルモノノ種目ヲ一般ニ周知セシムルノ要アルコト、之カ手段ハ固ヨリ種々アルヘシト雖各種ノ民間有力團體ヲシテ之カ選定ノ任ニ當ラシメ權威アル機關ノ審査ヲ經テ一般國民ニ示スコトノ如キハ其ノ最有效果切ナル方策ノ一タルヘシ更ニ進ミテ國家カ特別ノ機關ヲ設ケ民間業者ノ申請ニ依リ内外品ノ品質ノ比較檢定ヲ爲スカ如キモ相當考慮ヲ

要スル問題ナルヘシ

二二六

二、官廳用品等ノ國産品充用

官廳用品ノ國産品充用ニ關シテハ業ニ會計法ノ特例ニ關スル法律ヲ制定實施シ又ハ海外拂節約協議會ヲ設ケテ海外拂ノ節約ニ關シ調査セシムル等相當企圖スルトコトアリト雖官廳カ國家最大ノ需要者タルノ事實ニ鑑ミ其ノ國産品ヲ使用スルト否トハ一般ニ國産愛用ノ徹底ヲ期スル上ニ於テ影響ヲ及スコト尠カラス依テ政府ニ於テ一層之カ徹底ヲ期スルト共ニ他方府縣市町村等ノ地方自治團體ニ對シテモ政府ト同様ノ方法ニ依リ其ノ用品ニ付國産品ノ優先使用ノ方途ヲ講セシムルコト、又官廳用品ニ充用スヘキ優良國産品ノ規格等ニ付一定ノ標準ヲ定ムルト同時ニ民間業者ノ申請ニ依リ試験檢定ヲ行ヒ其ノ適合シタル物ニ對シテハ官廳用優良國産品タル一定ノ標準ヲ附スルコトヲ爲スカ如キモ以テ一般國民ヲシテ間接ニ優良國産品ノ何クルヤヲ知ラシムルニ便アルヘシ

三、商品ノ國産品タルコトノ表示

優良國産品ニシテ現ニ外國品ノ如ク認識セラレ居ルモノアリ依テ斯ル商品ニ付テハ一般國民ヲシテ其ノ誤解ヲ解キ國産品ノ眞價ヲ知ラシムル爲商品ニ國産品タルコトヲ識別スルニ足ルヘキ表示ヲ爲サシムルコト

四、固有國産品ノ輸出奨励

我國固有ノ工業ニハ優秀ナル技術、經驗ノ存スルモノ多シ依テ之等永キ歴史ヲ有スル本邦固有ノ國産品ノ技術、經驗ヲ輸出品工業ニ應用シ積極的ニ輸出増進ヲ圖ル方途ヲ講スルコト

其ノ他一般ニ外國品崇拜ノ氣風ヲ改メ國産品ヲ愛用スルノ思想ヲ普及セシムルノ要アルヲ以テ展覽會、博覽會、ホ

スター、其ノ他印刷物ノ配付、活動寫眞、講演會、講習會、國産品愛用週間ノ設定等有ラユル方法手段ニ依リ宣傳ヲ徹底セシムルコト最緊要ナルハ言フ俟タズ

### 第十一、臨時行政財政審議會

(設置昭和六年勅令第一四〇號  
廢止昭和六年勅令第一九二號)

○諮問事項 行政財政稅制整理案(但シ文書ヲ以テ特ニ諮問スルコトナク準備委員會ノ報告ニ係ル各案ヲ總會ニ諮  
リ、其決スル所ニ從ヒ之ヲ答申セリ)

#### ○諮問事項答申要領

##### 第一、行政制度整理

###### ○内閣及内閣部内

- 一、資源局ノ規模ヲ特ニ縮小シ内閣所屬部局ノ一トス
- 二、内閣總理大臣及大藏大臣共同管理ノ下ニ印刷需用品局ヲ置キ現在ノ印刷局ハ之ニ合併シ現在ノ印刷局事務及官  
應用品ノ統一及配給ニ關スル事務ヲ掌ラシム

###### ○外務省

- 一、通商關係事務ト國內産業所管省トノ關係ヲ整備ス(附屬第一參照)
- 二、待命外交官領事官ノ制度ニ關シテ相當ノ改正ヲ行フ(附屬第二參照)

###### ○内務省

- 一、土木試驗所ノ規模ヲ特ニ縮小ス
- 二、土木出張所二箇所ヲ廢止ス
- 三、府縣學務部ヲ廢止ス

###### ○大藏省

醸造試驗所ヲ廢止ス

###### ○陸軍省

- 一、東京警備司令部ノ廢止ヲ希望ス
- 二、聯隊區司令部ノ廢合ヲ希望ス
- 三、千住製鐵所ノ事業ヲ民業ニ移スコトヲ希望ス
- 四、陸軍經理學校ノ根本的整理ヲ希望ス
- 五、陸軍軍醫學校ノ根本的整理ヲ希望ス

###### ○海軍省

- 一、建築局ノ規模ヲ特ニ縮小ス
- 二、海軍經理學校ノ根本的整理ヲ希望ス
- 三、海軍軍醫學校ノ根本的整理ヲ希望ス

第十一 臨時行政財政審議會

四、燃料廠ノ營業部及採炭部ノ事業ヲ民間ニ拂下クルコトヲ希望ス  
○文部省

一、圖書局ヲ廢止ス  
二、1. 北海道帝國大學豫科及附屬土木專門部  
2. 東京商科大学農科及附屬專門部  
右ノ存廢ハ學制改革ノ問題トシテ攻究スルモノトス

○農林省

一、市街地信用組合ニ關スル事務ハ農林、商工、大藏ノ三省ノ共同所管トス  
二、茶葉試驗場ヲ廢止ス  
三、園藝試驗場ヲ廢止ス  
四、種蠶場ニ箇所ヲ廢止ス

○商工省

一、商務及貿易ノ二局ヲ合シテ商務局トス  
二、花菱検査所ヲ廢止ス  
三、陶磁器試驗所ノ規模ヲ特ニ縮小ス  
四、燃料研究所ノ規模ヲ特ニ縮小ス

○逓信省

郵務及電務ノ二局ヲ合シテ逓信局トス  
○鐵道省  
建設及工務ノ二局ヲ合シテ工務局トス  
○拓務省廢止拓務院設置

一、拓務省ヲ廢止ス  
二、内閣ニ拓務院ヲ置ク  
拓務院總裁ハ國務大臣ノ一人ヲ以テ之ニ充ツ

○會計検査院

會計検査官ニ付テハ相當ノ時期ニ於テ判事ノ停年制ニ準シ停年制ヲ設クルヲ制度上必要ナリト認ム  
○行政裁判所  
行政裁判所長官及評定官ニ付テハ相當ノ時期ニ於テ判事ノ停年制ニ準シ停年制ヲ設クルヲ制度上必要ナリト認ム  
○朝鮮總督府

一、燃料選購研究所ハ燃料ニ關スル研究繼續ノ必要ナキモノト認メ之ヲ廢止シ選購ニ關スル事務ハ之ヲ他ノ適當ノ部局ニ屬セシム  
二、中央試験所ハ之ヲ廢止ス

第十一 臨時行政改革議會



○關東廳

實業試驗場ハ之ヲ廢止ス

○樺太行政組織ノ改正

樺太ノ特別行政制度ヲ廢シ大體北海道各府縣ニ近似シタル制度ヲ設ク

第二、恩給制度ノ改正

一、年金恩給ノ基礎要件タル在職年數ノ延長

下士以下ノ軍人ヲ除ク他ノ公務員ニ對シ現行法ノ年限ヲ延長スルコト即チ文官、教育職員及待遇職員ノ現行十五年ヲ二十年ニ、准士官以上ノ軍人ノ十二年ヲ十六年ニ、警察監獄職員ノ十年ヲ十一年ニ改ム國務大臣ノ在職年數ニ關スル特別ハ之ヲ廢止スルコト

二、年金恩給ノ割合ノ變更

文官、教育職員及待遇職員ハ在職年二十年ニ對スル年金恩給額ヲ基礎俸給ノ百五十分ノ五十ノ額トシ、在職年二十年以上一年ヲ加フル毎ニ基礎俸給ノ百五十分ノ一ヲ加ヘ、軍人及警察監獄職員ハ在職年十六年ニ對スル年金恩給額ヲ基礎俸給ノ百五十分ノ五十ノ額トシ、在職年十六年ヲ超エ又ハ下ル一年ニ付基礎俸給ノ百五十分ノ一ヲ加ヘ又ハ減ス、而シテ各公務員ヲ通シ、最高恩給額ヲ基礎俸給ノ百五十分ノ九十(文官、教育職員及待遇職員ハ在職年六十年、其ノ他ノ公務員ハ在職年五十六年)トスルコト

三、年金恩給ノ停止

年金恩給ヲ受クル者他ニ勤勞所得(所得稅法第十四條第一項第三號及第五號ニ掲グル所得)アル場合ニ恩給金額ト勤勞所得年額トノ合算額カ一万圓ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル恩給ヲ停止スルコト

四、恩給重複支給ノ制限

一時金タル恩給ヲ受ケタル者後ニ年金恩給ヲ受クルニ至リタルトキハ前ニ受ケタル一時金タル恩給ノ金額又ハ幾分ヲ年金恩給中ヨリ返還セシムル方法ヲ設クルコト但シ扶助料ニ及ハス

五、殖民地在勤加算ノ變更

現行ノ加算割合一月ニ付半月ヲ四分ノ一月ニ改メ殖民地相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做スコト

六、現在ノ受給者ニ對スル取扱

現在ノ受給者ノ恩給額ハ之ヲ更正セス、將來再任シタル場合ハ其ノ全在職年ニ付七ノ現在職者ニ對スル經過的取扱ニ準シテ算出シタル金額ヲ其ノ恩給額トスルコト

七、現在職者ニ對スル經過的取扱

(イ) 普通恩給ヲ支給スヘキ最低年限

新法ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ受クヘキ最低年限ニ達セサル者ノ舊法時代ノ在職年ハ文官、教育職員及待遇職員ニ在リテハ十五分ノ二十、軍人(下士以下ノ軍人ヲ除ク)ニ在リテハ十一分ノ十六、警察監獄職員ニ在リテハ十分ノ十一ヲ乘シテ換算シ、改正後ノ在職年ト合セテ新法所定ノ年限ヲ超ユルトキハ之ニ恩給ヲ給スルコト

(ロ) 普通恩給ノ金額

第十一 臨時行政財政審議會

一三三

普通恩給ノ金額ハ恩給法改正前ノ在職年月數ノ中、舊法ニ依リ普通恩給ヲ受クヘキ最短期間ニ達スル迄ノ年月數ニ對シ軍人ハ十一分ノ十六、警察監獄職員ハ十分ノ十六、其ノ他ノ公務員ハ十五分ノ二十ヲ乘シテ換算シタル年月數ト殘餘ノ在職年月數トヲ加ヘタル年月數ニ對シ新法ノ規定ヲ適用シテ算出シタル金額トス

八、國庫納金

從來國庫納金(又ハ地方經濟ヘノ納金)アル公務員ニ對シテハ俸給ノ百分ノ二ノ納金ニ改メ、未タ其ノ制ナキ公務員(兵卒ヲ除ク)ニ對シテハ新ニ俸給ノ百分ノ一ノ金額ヲ納付セシムルコト

恩給法第十八條第三項ノ地方經濟ニ對スル國庫交付金ニ關スル規定ヲ削除スルコト

九、恩給負擔ノ分擔

分擔制度ヲ一時恩給ニ擴張シ又官内省トノ間ニモ分擔ヲ創ムルコト

十、特殊勤績加給ノ變更

教育職員警察監獄職員ニ對スル勤績加給及各種公務員ニ對スル外國勤績加給ノ割合ヲ現行ノ二分ノ一トシ外國勤績加給及教育職員勤績加給ハ在職年二十一年目、警察監獄職員勤績加給ハ在職十二年目ヨリ之ヲ開始スルコト

十一、基礎俸給ノ制限

退職當時ノ俸給ヲ恩給額算出ノ基礎トナス現行制度ハ退職ノ際ニ於ケル昇給ノ實施ヲ招キ徒ニ恩給支出ヲ膨脹セシムルノミナラス、其ノ間不公平ヲ免レザル實狀ナラシメテ退職ノ際ニ行フ昇給ハ原則トシテ一階級ニ止ムルコト但シ昇級ニ關スル事項ヲ恩給法ニ規定スルハ適當ナラサルカ故ニ之カ措置ハ俸給ニ關スル規定ノ改正ニ關ル

モノトス

十二、教育職員ニ對スル特例ノ撤廢

教育職員ニ對スル在職年通算及再就職ニ依ル恩給停止ニ關スル恩給法第九十九條ノ特例ハ將來ニ向テ之ヲ廢止スルコト

第三、減俸ニ伴フ恩給法改正

- 一、陸海軍武官ノ減俸ニ伴ヒ恩給法別表中軍人ノ普通恩給及一時恩給ニ關スル表ヲ改正スルコト
- 二、右諸表ヲ改正スルニ付テハ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ定リタル改正死亡賜金ノ三倍ノ額ヲ假定俸給トシテ之ヲ基礎トシテ文官ノ恩給ニ準ジテ算出シタル金額ヲ以テ恩給金額トスルコト
- 三、經過的規定トシテ左ノ規定ヲ設ケルコト
  - (イ) 減俸後改正恩給法施行前ニ退職シタル公務員ニシテ減俸セラレタル俸給ヲ受ケル者(軍人ヲ除ク)ニ在リテハ退職ノ際ノ俸給額ヲ減俸ナカリセヘ受ケヘカリシ俸給額ニ換算シ(細目ハ勅令ヲ以テ定ム)之ヲ基礎トシテ恩給金額ヲ計算スルコト
  - 右ニ該当スル者ニシテ既ニ之ト異ル恩給ノ裁定ヲ受ケ居ル者ニ付テハ其ノ裁定ヲ變更シ不足分ハ後ヨリ追給スルコト

(ロ) 改正恩給法施行後退職シタル公務員ニ付テハ新恩給法ニ依リ恩給ヲ給スルモ其ノ額ハ其ノ者カ改正恩給法施行直前ニ退職シタルトセヘ受ケヘカリシ恩給額(即チ軍人ニ在リテハ舊法ノ額、軍人以外ノ者ニ在リテハ右

第十一 臨時行政改革議會

(イ)ニ依リ計算シタル額ヲ下ルコトナキモノトスルコト

一三六

第四、財政整理

財政整理トシテ昭和七年度歳出標準豫算ニ對シテ次ノ通り減額スルコト

- 一、普通事務費及事業費ニ對シテハ原則トシテ五分乃至一割ヲ減額スルコト但シ事項ノ性質ニ依リ特殊ノ率ヲ適用スルモノアルコト
  - 二、補助費及獎勵費ノ類ニ對シテハ原則トシテ二割ヲ減額スルコト但シ事項ノ性質ニ依リ特殊ノ率ヲ適用スルモノアルコト
  - 三、繼續費ニ對シテハ原則トシテ總額ノ一割ヲ節減シ約二割ヲ繰延フルコト但シ事項ノ性質ニ依リ例外ヲ認ムルコト
  - 四、治水港灣ノ事業ニ關シテハ將來次ノ原則ニ依ルコト但シ工事至難其ノ他特殊ノ事由アルモノハ例外トスルコト
    1. 河川及砂防工事ニシテ利害關係一府縣内ニ止マルモノハ地方行政廳ヲシテ施行セシムルモノトスルコト
    2. 第一種重要港灣ノ修築工事ハ地方行政廳ヲシテ施行セシムルモノトスルコト
    3. 第二種重要港灣ノ修築工事ハ國ヨリ補助ヲ爲スコト
    4. 地方施行ノ工事ニ對シテハ國ヨリ補助ヲ爲スコト
    5. 現ニ工事中ノ治水港灣事業ノ取扱ニ付テハ内務大藏兩省ニ於テ協議シテ定ムルコト
- 以上ノ原則ニ依リ算出スルトキハ昭和七年度歳出標準豫算ニ對スル節約豫定額ハ俸給節約額ヲ併セ約一億二千萬元

四ニシテ右ニ件ヲ歳入ノ減少約二千萬元ヲ差引キ約一億圓ノ財源剩餘ヲ生スル見込ナリ

第五、税制整理

○所得 税

- 一、法人ノ超過所得稅ヲ資本金十萬圓以下ノ小法人ニ對シテハ課稅セサルコトニ改正スルコト
- 二、法人解散ノ場合ニ於ケル清算分配金ニシテ拂込資本ヲ超過スル部分ハ之ヲ受クル個人ノ所得ニ綜合課稅スルコトトシ合併ノ場合モ之ニ準スルコト(從テ法人ノ清算所得中積立金又ハ非課稅所得ヨリ成ル金額ニ對スル課稅ハ廢セラレ其ノ他ノ金額ニ對スル稅率百分ノ五トナル)
- 三、預金部預金ノ利子ヲ第二種所得トスルコト
- 四、特別賞與、記念賞與、退職手當、一時恩給等ニ對シ課稅スルコト但シ退職手當及一時恩給ハ五千圓ヲ超ユル金額ニ對シテノミ課稅スルコト
- 五、第三種所得ノ追加決定ヲ爲シ得ル期間ヲ三箇年ニ延長スルコト

○資本利子 税

- 一、資本利子稅ノ率稅百分ノ二ヲ百分ノ四ニ引上ケルコト
- 二、稅法施行地内ニ住所ヲ有スル者ノ稅法施行地外ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益ニ對シ課稅スルコト
- 三、預金部預金ノ利子ニ對シ課稅スルコト

第十一 臨時行政財政審議會

一三七

○相續税

- 一、課税價格百萬圓以上ノモノニ對スル稅率ヲ引上ケ整理シ最高稅率ノ適用ヲ受クル課税價格ヲ二千萬圓ヲ超ユル金額トスルコト
  - 二、相續財產價格中不動産ノ價格カ八割以上ヲ占ムルモノニ對シテハ年賦延納ノ期間ヲ十年以内ニ延長スルコト
  - 三、相續開始地カ稅法施行地内ナルトキハ稅法施行地外ニ在ル相續財產ニ對シテモ課税スルコト
- 鑛業税
- 鑛產稅ノ半額ヲ市町村ニ委讓スルコトトシ昭和八年度ヨリ之ヲ實施スルコト
- 酒造税
- 酒類中燒酎ノ原料トシテ白酒、味淋及燒酎ノ使用ヲ認メ味淋ノ原料トシテ清酒ノ使用ヲ禁スルコト
- 取引所税
- 取引所外ニ於テ行ハルル差金取引ヲ取引所稅通脫行爲ト認メ取引所稅法中ニ之カ取締並ニ處罰ニ關スル規定ヲ設クルコト

○ガソリン税

ガソリン稅ヲ創設シガソリンヲ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ル際引取人ニ對シ百ガロンニ付一圓五十錢ノ稅率ヲ以テ課税スルコト

第六、増税

- 一、所得稅ニ對シ左ノ如ク増徴ヲ行フコト
  - (一) 法人ノ普通所得稅及清算所得稅ニ付所得金額百分ノ一、五ヲ増徴ス
  - (二) 第一種所得稅ニ付所得金額百分ノ一ヲ増徴ス
  - (三) 個人ノ所得稅ニ付五千圓ヲ超ユル所得者ニ對シ稅額ノ五分ヲ増徴ス
  - (四) 同族會社ノ加算稅ニ付所得稅法第二十一條ノ二ニ依ル稅額ノ五分ヲ増徴ス
- 二、麥酒稅ニ對シ一石ニ付五圓ノ増徴ヲ行フコト
- 三、以上ノ増徴ハ之ヲ三箇年間ノ臨時増徴トスルコト

# 第十二、米穀對策調査會

(設置昭和九年勅令第二五六號  
廢止昭和十二年勅令第二二二號)

一四〇

## ○諮問事項

諮問第一號 米穀對策ニ關スル意見ヲ求ム

### ○諮問第一號答申要領

米穀統制ノ徹底ヲ期スル爲左ノ諸方策ヲ講スルコト

第一、米穀統制法ヲ左ノ如ク改正スルコト

一、最低價格ノ決定ニ付出廻期ニ於テハ毎月金利及保管料ヲ加算スルコト

二、政府ハ米價カ最低價格ト最高價格トノ平均價格以上ニ在リ且災害、事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合

ニ於テ米穀ノ配給上特ニ必要アリト認ムルトキハ市價ニ惡影響ヲ及ホキサルモノト認ムル場合ニ限リ政府所有

米穀總數量ヨリ最高價格ヲ維持スル爲必要ナル數量ヲ控除シタル數量ノ範圍内ニ於テ道府縣ニ對シ米穀ノ賣渡

ヲ爲スコトヲ得ルコト

三、小麦及小麦粉ノ輸入制限及關稅ノ増減免除ノ途ヲ設クルコト

### 第二、米穀ノ自治的管理ヲ圖ルコト

一、政府ハ毎年内地、朝鮮及臺灣ヲ通ジ米穀豫想收穫高(臺灣ノ第一期作ニ付テハ推定額)、十一月一日ノ米穀現

在高過去ノ消費狀況ヲ參酌シタル米穀消費見込高及理想持越高ヲ基礎トシテ米穀需給推算ヲ行フコト

前項ノ米穀需給推算ノ結果米穀ノ過剩數量ヲ生スル場合ハ其ノ數量ノ範圍内ニ於テ一定數量ヲ定メ内地、朝

鮮及臺灣ニ於テ之ヲ統制スルコト

前項ニ依リ統制スヘキ一定數量ノ内地、朝鮮及臺灣ニ對スル割當ハ主トシテ内地、朝鮮及臺灣ノ米穀管外移

出數量ノ増加趨勢ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコト

第一項ノ米穀需給推算及前項ノ割當ニ付テハ委員會ノ議ヲ經テ之ヲ定ムルコト

二、政府ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ内地、朝鮮及臺灣ヲ通シ一定區域(内地ニ在リテハ市町村、朝鮮ニ在リテ

ハ府郡島邑面、臺灣ニ在リテハ郡市街庄)ヲ單位トスル米穀統制組合ヲ設立セシムルコトヲ得ルコト

米穀統制組合ノ設立アリタルトキハ其ノ區域内ニ於ケル生産者(地主其ノ他ヲ含ム)ハ原則トシテ其ノ組合ニ

加入シタルモノト看做スルコト

三、米穀統制組合ハ左ノ業務ヲ行フモノトスルコト

(イ) 組合ニ割當テラレタル統制數量ヲ其ノ組合員ニ割當ツルコト

(ロ) (イ)ニ依リ組合員ニ割當テタル米穀ヲ組合員ノ委託ヲ受ケ貯藏スルコト

(ハ) 前各號ノ外統制上必要ナル措置ヲ爲スルコト

第十二 米穀對策調査會

一四一

- 四、米穀ヲ取扱フ販賣組合（以下米穀販賣組合ト稱ス）ノ設置アル市町村ニ於テハ米穀統制組合ノ業務ハ米穀販賣組合ニ於テ之ヲ行ヒ得ルモノトスルコト
- 米穀統制組合又ハ其ノ業務ヲ行フ米穀販賣組合ノ設置ナキ市町村ニ於テハ農會ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ米穀統制組合ノ業務ヲ行ヒ得ルモノトスルコト
- 前二項ノ業務ヲ行フ團體ハ其ノ區域内ノ團體員ニ非サル者ニ對シ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ統制ヲ及ボシ得ルコト
- 五、政府ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ米穀統制組合又ハ其ノ業務ヲ行フ團體ニ對シ地方米穀統制組合聯合會ヘノ加入ヲ命ジ又ハ地方米穀統制組合聯合會ニ對シ内地、朝鮮又ハ臺灣ヲ區域トスル中央米穀統制組合聯合會ヘノ加入ヲ命ジ得ルコト
- 六、道府縣ヲ區域トスル地方米穀統制組合聯合會又ハ内地ヲ區域トスル中央米穀統制組合聯合會ハ道府縣ヲ區域トスル米穀販賣組合聯合會又ハ内地ヲ區域トスル米穀販賣組合聯合會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ルコト
- 七、政府ハ米穀統制組合聯合會ニ對シ一ノ一定數量ヲ割當テ之ヲ統制セシムルコト
- 米穀統制組合聯合會ヘ前項ニ依リ割當テラレタル米穀ヲ其ノ所屬團體ニ對シ割當テ之ヲ統制セシムルコト
- 前項ノ統制數量中國體ノ貯藏能力其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ定メタルモノヲ控除シタル殘餘ハ内地ニ於テハ最低價格、朝鮮又ハ臺灣ニ於テハ米穀生産費、物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ定メタル價格ヲ以テ申込ニ應ジ政府ニ於テ之ヲ買上ケルコト

- 八、米穀統制組合又ハ其ノ業務ヲ行フ團體ハ内地米ノ價格ガ其ノ最低價格ヨリ相當價上リシタル場合ニ非サレハ七ニ依リ貯藏シタル米穀ヲ解除スルコトヲ得サルコト
- 貯藏米穀ニシテ米穀年度ヲ超ユルモノ尙解除セラレサルモノニ付テハ適當ナル處置ヲ講スルコト
- 九、米穀統制組合、米穀販賣組合又ハ其ノ聯合會ハ最低價格及最高價格ノ範圍内ノ價格ヲ以テスルニ非サレハ米穀ノ販賣ヲ爲スコトヲ得サルコト
- 十、米穀販賣組合聯合會ハ定款ノ定ムル機關ノ議ヲ經テ其ノ所屬團體ニ對シ米穀ノ販賣ヲ統制スル爲平均賣ノ實行ノ他必要ナル指令ヲ爲スコトヲ得ルコト
- 十一、政府ハ米穀統制組合若ハ其ノ業務ヲ行フ團體又ハ其ノ聯合會ニ對シ米穀資金ヲ供給シ助成金ヲ交付スルノ方策ヲ講スルト共ニ其ノ業務ニ關シ公益上必要ナル監督ヲ爲スコト
- 十二、農業倉庫及聯合農業倉庫ニ付テモ米穀販賣組合及米穀販賣組合聯合會ニ準スルコト
- 十三、政府ハ前各號ノ施設ヲ講スルモ尙米穀ノ供給者シテ過剩ナリト認ムルトキ（標準最低價格ヲ下リ又ハ下ラントスル虞アル場合）ハ委員會ノ議ヲ經テ一定數量ヲ限リ内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀ノ移動ニ付統制ヲ命スルコトヲ得ルコト
- 前項ノ統制ニ付テハ内地、朝鮮及臺灣ニ於ケル米穀生産者ノ團體又ハ米穀取扱業者ノ團體（命令ヲ以テ指定スル主要米穀集散地ニ於ケル一定條件ヲ具備スル者）ニ對シ前項ノ一定數量ヲ割當テ統制セシムルノ方法ニ依ルコト

前二項ニ依リ統制ヲ命セラレタル米穀中貯藏能力其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ定メタルモノヲ控除シタル殘餘ハ希望ニ應ジ内地米ニ付テハ最低價格、朝鮮米又ハ臺灣米ニ付テハ命令ノ定ムル一定價格以內ニ於テ時價ニ準據シテ定メタル價格ヲ以テ政府之ヲ買上クルコト

十三、備考

(イ) 外地米穀ノ買上價格ハ米穀統制法施行令第二條ノ標準最低價格、内地米トノ格差、運賃諸掛等ヲ參酌シテ定ムル價格ノ範圍內ニテ時價ニ準據シテ之ヲ定ムルコト

(ロ) 統制ヲ命セラレタル米穀ニ付テハ内地米ノ價格ガ最低價格ヨリ相當積上リシタル場合ニ非サレハ其ノ貯藏ヲ解除スルコトヲ得サルコト

(ハ) 政府ハ統制ヲ命セラレタル團體ニ對シ米穀資金ヲ供給シ助成金ヲ交付スルノ方策ヲ講スルト共ニ其ノ業務關シ公益上必要ナル監督ヲ爲スコト

第三、穀ノ共同貯藏ヲ行フコト

一、産業組合、農會、農事實行組合、市町村等ノ團體ヲシテ一定數量ノ穀ノ共同貯藏ヲ行ハシムルコト

二、政府ハ前項ノ貯藏團體ニ對シ政府所有米穀ヲ助成米トシテ交付シ得ルコト

三、政府ハ財政ノ許ス限リ穀貯藏倉庫建設ニ對シ助成金ヲ交付スルコト

四、貯藏團體ハ一定條件ヲ具備シタル場合ニシテ政府ノ許可ヲ受ケタルトキニ非サレハ貯藏穀ノ賣却其ノ他ノ處

分ヲ爲スコトヲ得サルコト

五、貯藏團體カ四ニ依リ貯藏穀ノ賣却其ノ他ノ處分ヲ爲シタルトキハ次ノ出來款ニ於テ一定條件ヲ具備シタル場合ニシテ政府カ貯藏ヲ必要ナシト認メタルトキヲ除クノ外其ノ貯藏數量ノ不足分ヲ補充スルコトヲ要スルコト

六、四又ハ五ノ義務ニ違反シタル者ニ對シテハ助成米ノ價格ニ相當スル金額及倉庫建設助成金ヲ返還セシムルコト

第四、

一、内地、朝鮮及臺灣ヲ通シテ米穀ノ生産統制、秋作ノ獎勵、海外販路ノ開拓、新規利用ノ増進等ニ付適當ナル方策ヲ講スルコト

二、現行米穀需給調節特別會計ハ之ヲ整理改善スルコト

附 帶 決 議

政府ハ米穀統制ニ關スル法律改正案實施ノ結果米穀取引所ノ機能ニ及ホス影響ニ付十分ナル考察ヲ遂ケ適當ナル方策ヲ講セラレレンコトヲ望ム

### 第十三、内閣審議會 (設置昭和十年勅令第二八號、廢止昭和十一年勅令第六一號)

#### ○諮問事項

諮問第一號 現下ノ國情特ニ國民經濟振興ノ必要ニ鑑ミ中央地方ヲ通スル財政改善ノ根本方策如何  
諮問第二號 我國内外ノ情勢ニ鑑ミ文教ヲ刷新スルノ根本方策如何(審議未了)

○諮問第一號 現下ノ國情特ニ國民經濟振興ノ必要ニ鑑ミ中央地方ヲ通スル財政改善ノ根本方策如何

#### ○諮問第一號中間報告要領

##### 一、地方財政ノ現況

第一、地方財政ハ近年再ヒ膨脹ノ傾向ニ在リ

地方財政ハ大正中期以來其ノ膨脹極メテ急激ナルモノアリ地方歳出(道府縣及市町村ノ歳出)カ最高ニ達セルハ昭和二年歳決算額十九億六千九百萬圓(道府縣ハ一般會計、市町村ハ一般會計及特別會計トス)ニシテ、爾來經濟

界ノ不況ト共ニ漸減セルモ、昭和七年度以降時局匡救事業ノ起興並ニ景氣ノ一部好轉ニ伴ヒ再ヒ増加ノ傾向ヲ示シツツアリ昭和九年度當初豫算ニ依ル地方歳入總額ハ十七億九千二百萬圓ニシテ、昭和二年歳決算額ノ九割一分ニ當ル

昭和九年度當初豫算ニ依ル地方歳入總額ハ十七億九千三百萬圓ニシテ、内稅收入ハ五億八千二百萬圓(兵庫縣ノ市部分賦額三百九十萬圓ヲ縣稅及市稅中ニ重複算入ス)、即チ歳入總額ノ三割三分ヲ占ム地方稅一人當負擔額ハ昭和四年度決算額十圓九十八錢ヲ最高トシテ爾來年々減少セルモ昭和八年度以降再ヒ増加ノ傾向ニアリ昭和九年度當初豫算ニ依ル地方稅一人當負擔額ハ八圓九十七錢六厘ニシテ、昭和四年度決算額ノ八割八厘ニ當ル

##### 第二、地方稅賦課ハ綜觀シテ重キヲ加ヘツツアリ

道府縣市町村ヲ通スル地方歳入總額ニ對スル地方稅ノ割合ハ三割三分ナルモ、此ノ割合ハ道府縣ニ於テハ四割六分、市ニ於テハ一割七分、町村ニ於テハ四割五分トナル即チ地方稅ハ市ニ於テハ總收入ノ約六分ノ一ニ當ルニ過キサルモ、道府縣及町村ニ在リテハ何レモ約二分ノ一ヲ占ム

昭和九年度當初豫算ニ依ル地方稅總額ハ五億七千八百萬圓(兵庫縣市部分賦額ヲ重複計算セズ)ニシテ、其ノ殆ト全部カ直接稅ナリ一方同年度國稅豫算中直接稅ノ總額ハ三億千六百萬圓ナリ即チ直接稅ニ於テハ地方稅ハ國稅ヨリ多數ヲ占メ、國稅地方稅ヲ併セタル直接稅總額ノ六割五分ハ地方稅ニ屬シ、内道府縣稅一割六分、市町村稅三割九分ニ當ル加フルニ地方稅ニ於テハ其ノ稅種少キヲ以テ、所與ノ稅源ニ對スル賦課ハ概シテ重キヲ當トス



(一) 三國稅(地租、營業收益稅、所得稅)附加稅

一四八

昭和九年度當初豫算ニ依ル地租附加稅總額ハ一億千二百一十一萬圓ニシテ、同年度國稅地租豫算額五千八百二十六萬圓ノ約二倍ニ相當ス又同年度營業收益稅附加稅豫算額ハ四千四百二十八萬圓ニシテ、國稅營業收益稅豫算額四千四百二十三萬圓ヨリ稍多額ヲ占ム

昭和十年度當初豫算ニ就テ觀ルニ、各道府縣中三附加稅ヲ通シテ其ノ賦課率法定制限内ニ止マルハ東京大阪二府ニ過キス其ノ他道府縣ニ於テハ三附加稅ヲ通シテ何レモ法定制限ヲ超エテ課稅シツツアリ

元來營業收益稅附加稅並ニ所得稅附加稅ハ不況ノ影響ニ因リ、又農地ニ對スル地租附加稅ハ地租法制定ニ伴ヒ何レモ減收ヲ來シタルヲ以テ、地方團體トシテハ概ネ課率引上ニ依テ其ノ減收ノ一部ヲ補ヒツツアル狀況ニ在リ

(二) 家屋稅

道府縣稅家屋稅ハ道府縣稅戶數割ノ廢止ト共ニ一般的ニ創設セラレタルモノナルヲ以テ、依然トシテ之ヲ以テ減入不足ヲ補充スルノ性質ヲ殘存シ、各地方ノ財政狀況ニ從ヒ其ノ課率極メテ區々ニ互ル加アルニ戶數割ヲ賦課シ難キ市町村ニ於テハ家屋稅附加稅ヲ以テ其ノ代稅トナスヲ以テ、此等ノ市町村ニ於ケル家屋稅負擔ハ特ニ重キモノアリ

(三) 雜種稅

雜種稅ハ各種ノ稅源ヲ涉獵シテ多種多様ノ稅目ヲ包含シ、昭和十年度道府縣豫算ニ依リハ其ノ種目四十九(同

種ノモノヲ一トス)ニ達シ、其ノ稅種適當ナラサルモノ、又ハ稅種適當ナルモ課額適當ナラサルモノノ少カラズ

(四) 戶數割

町村ニ於テハ一般ニ稅源乏シキヲ以テ、歲入不足ヲ補充スル爲メ戶數割ハ勢ヒ重課ヲ免レス殊ニ他ノ稅種ニ於テ減收ヲ來ス場合ニ於テハ、戶數割増徴ニ因テ之ヲ補填スルモノ多シ之ヲ昭和九年度當初豫算ニ徵スルモ、町村稅總額ノ五割四分五厘ハ實ニ戶數割ノ占ムル所ニシテ、其ノ全國平均一戶當賦課額ハ十四圓八十九錢七厘ニ達ス町村稅戶數割一戶當賦課額ハ昭和四年度ヲ最高トシテ漸減セルモ、昭和七年度以降再ヒ増加ノ傾向ニ在リ加フルニ町村稅總額ニ對スル戶數割ノ割合モ略右ト同様ノ傾向ヲ示シツツアリ

第三、地方稅負擔ハ概シテ都市以外ノ地方ニ於テ特ニ重キモノアリ

地方稅賦課ノ狀況ヲ各團體別ニ觀ルニ其ノ間ノ實情必シモ一ナラス從テ地方負擔ノ輕重モ區々ニ互ルモノアリ即チ都市ハ一般ニ比較的稅源豐ナルノミナラス、稅外收入ニ於テモ有利ノ地位ヲ占ム之ニ反シ都市以外ノ地方ハ概シテ稅源貧弱ニシテ且稅外收入モ乏シク、從テ所與ノ稅源ニ對スル租稅賦課ハ一般ニ重キヲ致ス傾向ニ在リ

(一) 直接國稅ノ地方的分布狀況ヲ觀ルニ、市部並ニ大都市ヲ含ム府縣ハ多額ヲ占ム蓋シ直接國稅ハ全國對一ノ標準ヲ以テ賦課セラルルモノナルヲ以テ、直接國稅分布ノ厚薄ハ大體ニ於テ各地方ノ富力ノ大小ヲ表現スルモノト推定スルコトヲ得ヘシ然ルニ一方各地方ニ於ケル直接國稅及地方稅ノ總額中兩者ノ占ムル割合ヲ觀ルニ、市

第十三 內閣審議會

一四九

部並ニ大都市ヲ含ム府縣ニ於テハ地方税ノ占ムル割合比較的低ク、之ニ反シ郡部並ニ大都市ヲ含マサル道縣ニ於テハ此ノ割合比較的高シ蓋シ上記ノ如ク直接國稅ハ大體ニ於テ各地方ノ富力ニ應シテ公平ニ分布セラレタルモノト推定スルコトヲ得ルヲ以テ、之ニ對スル地方税ノ割合ニ輕重ノ差アルハ、畢竟地方税負擔カ各地方毎ニ輕重ノ差アルコトヲ推知セシムルモノナリ其ノ結果租稅一人當負擔額ハ直接國稅ニ於テハ各地方毎ニ相當著シキ差アルモ、地方税ニ於テハ其ノ差サマテ著シカラス

(二) 地方税課率ハ各地方ニ依リ著シク高低ノ差アリ

(三) 大都市並ニ大都市ヲ含ム府縣ハ概シテ各種ノ稅目ニ付豐富ナル稅源ヲ有スルモ、特ニ宅地租、營業收益稅及所得稅ノ附加稅ニ付テハ斷然他ヲ凌駕シテ多額ヲ占ム、之ニ反シ其ノ他ノ地方ニ於テハ農地、家屋及戸以外ニハ有力稅源乏シキヲ常トスルヲ以テ、勢ヒ此等ニ對スル賦課特ニ重キヲ致ス傾向ニ在リ

第四、以上地方税重課ノ原因凡ソ左ノ如シ

甲 歳入

- (一) 概シテ稅源豐ナラス、殊ニ富ノ都市集中ニ伴ヒ都市以外ノ地方ニ於ケル稅源ハ枯渴シツツアルコト
- (二) 經濟不況ニ伴ヒ擔稅力低下シ其ノ回復未ダ普遍的ナラス、殊ニ農産物ノ價格ハ一般物價ニ比シ低落ノ程度大ナルヲ以テ、擔稅力ノ低下ハ村落ニ於テ特ニ甚シキモノアルコト
- (三) 租稅滯納ノ増加シタルモノアルコト
- (四) 國有林、國有地、官業及政府ノ保護ニ係ル特殊産業ニ對シテハ一般ニ地方税ヲ賦課シ得サルコト

乙 歳出

- (一) 不況ニ伴フ租稅收入減少ノ割合ニハ歳出減少セサルコト
- (二) 國ノ立法其ノ他ノ施設ニ因リ地方歳出ノ増加ヲ來サシムルモノアルコト
- (三) 行政施設劃一的ナル爲メ地方歳出ノ増加ヲ來サシムルモノアルコト
- (四) 地方團體ノ規模小ナル爲メ富力ノ割合ニ多額ノ經費ヲ要スルモノアルコト
- (五) 地方官吏ノ更迭頻繁ナル結果地方財政ニ根本的整理ヲ加フルコト困難ナルノミナラス、却テ事功ヲ急ク等ノ爲メ不慮ノ經費ヲ投シタルモノアルコト
- (六) 政争ノ餘弊動モスレハ地方問題ニ及ヒ爲メ不慮ノ經費ヲ投シタルモノアルコト
- (七) 地方民一部ノ要請ニ因リ殊更ニ各地間ノ權衡ヲ得シムル爲メ不慮ノ經費ヲ投シタルモノアルコト
- (八) 市町村ニ於テハ時ニ理事者ニ其ノ人ヲ得ス、又ハ自治政紛争ノ結果財政ノ不整ヲ來シタルモノアルコト
- (九) 國ノ補助政策ニ伴ヒ地方ニ於テハ時ニ其ノ實際ノ必要ヲ超エテ不慮ノ事業ヲ起シ、爲メ經費ノ膨脹ヲ來シタルモノアルコト
- (十) 人口増加ニ伴ヒ義務教育費ニ多額ヲ要スルコト
- (十一) 道府縣ニ於テハ教員恩給ノ増加著シキコト
- (十二) 自動車交通ノ發達ニ伴ヒ道路橋梁費ニ多額ヲ要スルコト
- (十三) 災害、失業救済、時局匡救及一般歳入減等ノ爲メ地方債累積シ公債費多額ニ達セルモノアルコト

二、地方財政ノ改善要綱

地方財政改善ノ爲特ニ實行ノ要アリト認メラルル諸點凡ソ左ノ如シ

(一) 國費地方費ノ財源區分及負擔區分ニ關シ再檢討スルコト

地方税ノ賦課重キヲ加ヘツツアル現狀ニ鑑ミ國費地方費ノ財源區分ニ關シ再檢討ヲ加フルノ要アリ他面從來ニ於ケル國費地方費ノ負擔區分ハ必シモ國費地方費ノ財源區分ト照應シテ定メラルルコトナク、又地方費ニ對スル國庫ノ補助金交付金等ノ支出狀況モ各科目毎ニ區々ニ分レ、其ノ間一貫ヲ缺クモノナキニ非ス從テ今後國ノ立法其ノ他ノ施設ニ因リ新ニ地方費負擔ノ増加ヲ來サシムルニ付テハ、此ノ點ニ關シ一層周到ノ用意アルコトヲ必要トスヘシ然レトモ本問題ノ解決ハ畢竟國及地方ノ租稅制度乃至行政制度ノ改革ニ俟ツニ非スンハ其ノ徹底ヲ期シ難キヲ以テ、將來此等ノ制度改革ヲ行フニ當リ根本的ニ再檢討ヲ加フルノ要アリトス

(二) 稅源分布ノ地方的不均衡ヲ調整スルコト

地方負擔地方ニ依リ著シク輕重ノ差アルハ、經濟力ノ分布カ地方的ニ不均衡ナル爲地方間ニ稅源ノ不均衡ヲ來ス事ニ職由スルモノトス從テ之ニ基因スル一部地方團體ノ財政窮乏ヲ打開スル爲ニハ、其ノ前提トシテ一面ニハ富ノ都市偏在ヲ抑制スルコト共ニ、一面ニハ都鄙ヲ通シテ劃一的ナル行政制度ヲ革ムルコトヲ要スヘシ而シテ富ノ都市偏在ヲ抑制スル爲ニハ工業ノ地方分散、資本ノ地方還元、農山海村ノ經濟更生計畫ノ實行等各般ノ施設ニ互リ適切ノ方途ヲ講スルノ要アルハ勿論ナリト雖モ、元來富ノ都市集中ハ現下ノ經濟ノ下ニ於テハ大體ニ於テ自然的趨勢ニ屬スルヲ以テ、之ヲ抑制スルコトハ自ラ其ノ限度存スヘシ又村落ノ經營スル諸施設ヲ

都市ニ於ケルレニ比スルニ、今日既ニ格段ノ相違アルハ顯著ナル事實ナルヲ以テ、行政制度ノ改革モ之ヲ徹底的ニ斷行スルニ非サル限リ、之ニ因テ此等ノ地方團體ノ經費ヲ節減シ以テ其ノ財政窮乏ヲ打開シ得ル餘地ハ必シモ大ナルヲ期待スルコトヲ得テ本問題ノ對策ヲ樹立スル爲ニハ、結局ニ於テ地方團體ニ對スル財源付與ノ方法ニ付再檢討ヲ加フルコトヲ必要トス換言スレハ本問題ニ對スル根本方策モ亦將來中央地方ヲ通スル租稅制度ノ改正ヲ行フニ當リ、之ト伴ツテ初メテ樹立セラルヘキモノトス

(三) 地方團體ニ對スル各種補助金交付金等ヲ整理スルコト

國庫補助ノ對象ハ地方ノ實際ノ必要ニ適應シタルモノニ限リ、且補助金交付金等ノ分配ニ付テハ各地方團體ノ財政ノ實情ニ即セシムルコトヲ要スヘシ

(四) 教育、産業、地方制度其ノ他各般ノ行政施設ニ付其ノ劃一化ヲ革ムルコト

小規模ノ地方團體ハ自治ノ圓滿ナル運営ヲ害セサル限リ成ルヘク之ヲ合併セシムルコト

(五) 高利其ノ他條件不利益ナル地方債ノ借換整理ヲ爲サシムルコト

地方財政ニ對スル指導監督ノ徹底ヲ圖ルコト

(六) 尙地方財政トハ直接ノ關係ヲ有セサルモ、現在各地方ニ存スル法令上及法令外ノ各種團體ノ費用負擔並ニ各種寄付金ノ分擔ハ事實上租稅負擔ニ準スル狀況ニ在ルヲ以テ、地方負擔ノ輕減ヲ圖ル爲ニハ此ノ方面ニ於テモ相當整理ヲ加フルノ要アルモノト認ム

(七) 我國財政ノ狀況カ長ク現狀ノ儘ニ推移スルヲ許ササルハ多ク言フヲ俟タサル所、而カモ敍上財政ノ現狀ヨリ

スルモ其ノ根本的改善ノ爲ニハ廣ク國民經濟ノ振興ヲ策シ行政施設ノ改革ヲ實行スルト共ニ當面中央地方ヲ通スル稅制ノ根本的改正ヲ斷行スルヲ最モ急務トスヘキヲ以テ、向後一兩年内ニ之ヲ實施スルヲ切要ナリト認メサルヲ得ス

一五四

然リト雖モ一面ニ於テ地方團體中其ノ財政窮乏ヲ告クルモノ少カラス、又我國民經濟ノ現況カ地方農山漁村住民ノ疲弊特ニ甚シキモノアルニ察スレハ、右ノ地方財政改善ノ根本方策樹立ヲ待ツヲ得サルモノアリ依テ經濟力貧弱ニシテ爲ニ財政窮乏ヲ來セル地方團體ニ對シテハ、此ノ際應急的ニ國庫ヨリ一定金額ヲ交付シテ其ノ稅源ノ不足ヲ調整セシメ、以テ關係地方民ノ過重ナル負擔ヲ輕減セシムルコトハ、我國現下ノ國情ニ鑑ミ特ニ緊要ノ措置ナリト認ム

E-0123

<p style="text-align: right;">七 月 三 日</p>		<p style="text-align: center;">外務省</p>						



中經第九號

昭和十二年八月十二日

中央經濟會議幹事長

井野

碩

裁



堀内臨時議員殿

今般議長ヨリ貴下ヲ中央經濟會議諮問第一號特別委員ニ指名相成  
候條此段御通知申上候

追テ右特別委員ハ別紙ノ通ニ有之候



中央經濟會議諮問第一號特別委員

同 同 同 同 同 同 同 臨時議員  
 萩 平 村 戶 山 梅 石 堀 青  
 原 澤 瀬 田 本 津 渡 内 木  
 彦 直 保 五 美 莊 謙 一  
 三 要 養 忠 十六 治 郎 介 男

臨時議員 同 同 同 同 議員男爵 議員男爵 同 同 同 同 議員  
 松 村 加 鮎 松 安 大 藤 石 津 津 有  
 井 田 藤 川 江 川 藏 原 黒 島 田 賀  
 春 省 恭 義 春 雄 公 銀 忠 壽 信 光  
 生 藏 平 介 次 助 望 郎 篤 一 吾 豊

